

平成二十九年年度

学生実態調査「大学院」

報告書 筑波大学



ま え が き

このたび、「平成 29 年度筑波大学学生実態調査（大学院）報告書」が発行される運びとなりました。

筑波大学の大学院生を対象とした学生生活実態調査は、昭和 58 年度と昭和 63 年度に学群と同様の内容で実施し、以降、平成 29 年度の実施で通算 7 回目の報告になります。

実施にあたっては、回答してくれた学生はもとより、学生生活支援室と学生部を中心として、各教育組織並びに各支援室の協力を得て実施することができました。

今回の調査は、これまでの印刷物による調査ではなく、本学の学習管理システム manaba を用いて実施しました。調査にあたり、設問項目を精選するとともに、回答しやすいよう選択式を基本として、必要に応じて自由記述欄を設け、日本語版か英語版か選んで回答できるようにしました。

本調査は全学生を対象として実施している調査ですが、回答率は筑波地区が 23.1%で、前回に比べ 9.6 ポイント低下し、東京地区は 23.2%で、前回に比べ 4.0 ポイント上昇しました。今回は manaba を用いた調査のため、学生がパソコンからアクセスして回答する必要があったことが、回答率に影響していることも考えられます。

なお、調査結果は報告書による配布の他、ホームページに掲載し、本学の学生並びに教職員はもとより、学外にも公表します。

本学の教職員においては、本調査結果は、部局の運営や学生の生活環境の改善に役立つ重要な根拠資料であることを認識し、各指標の経年変化に現れる学生意識の変遷を踏まえて、関係部署との連携を図りながら、支援の質の向上に活用していただきたいと思えます。

最後に、学生生活支援室はじめ関係者の方々の努力により、今回も本報告が無事刊行できる運びとなりましたこと心から感謝いたします。

平成 30 年 3 月

学生担当副学長 玉 川 信 一

目 次

まえがき

概要

平成 29 年度学生生活実態調査（大学院）概要 …………… 1

筑波地区

平成 29 年度 筑波大学学生生活実態調査（大学院生用）《和文・英文》 …… 5

筑波大学学生生活実態調査（大学院）回答率について …………… 40

第 1 章 あなた自身について …………… 41

問 1. 社会人経験の有無について …………… 41

問 1-1. 現在の在職状況について …………… 41

問 1-1-1. 職場の理解度について …………… 42

問 2. 筑波大学大学院を志望した理由について …………… 44

問 3. 入学前に在籍していた大学または大学院について …………… 45

第 2 章 生活全般について …………… 46

問 4. あなたの家族の主たる家計支持者について …………… 46

問 5. 大学に希望する経済支援について …………… 47

問 5-1. 一時貸付金を希望する理由について …………… 47

問 6. 1 ヶ月の平均的な収入について …………… 48

問 7. 収入源について …………… 49

問 8. 1 ヶ月の生活費や研究活動費の充足度について …………… 50

問 8-1. 生活費や研究活動費などで不足しているものについて …………… 51

問 9. アルバイトの種類について …………… 52

問 10. アルバイトをする理由について …………… 53

問 11. アルバイトの学修への影響について …………… 54

問 12. 現在の住まいについて …………… 55

問 12-1. 学生宿舎への入居希望について …………… 56

問 12-2. 現在の居住地について …………… 57

問 12-3. 入居している学生宿舎について …………… 58

問 12-4. 学生宿舎の満足度について …………… 58

問 13.	平均的な1日または1週間の過ごし方について	59
問 14.	日常生活の満足度について	60
第3章	通学・事故等について	61
問 15.	通学時の交通手段について	61
問 16.	雨天時以外の通学時間について	62
問 17.	キャンパス交通システム（学内循環バス）の利用頻度について	63
問 18.	自転車事故の経験について	64
問 19.	交通事故（自転車事故を除く）の経験について	65
問 20.	盗難被害について	66
問 21.	傷害等の被害について	67
第4章	健康状態について	68
問 22.	過去1年間の健康状態について	68
問 23.	過去1年間の困り事・悩み事について	69
問 24.	あなたの感じ方について	70
第5章	相談相手・情報の得方について	71
問 25-1.	主な相談相手について	71
問 25-2.	相談相手と話す機会について	73
問 26.	情報の得方について	74
問 27.	相談機関について	75
問 28.	学内広報誌について	76
第6章	課外活動について	77
問 29.	サークル活動について	77
問 29-1.	サークル活動を行う理由について	78
問 30.	宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘について	79
問 31.	ボランティア活動について	80
問 32.	T-ACTの活動について	81
問 33.	学外研修施設の利用について	82
第7章	進路や就職活動について	83
問 34.	修了後の進路について	83
問 35.	修了後の外国での就労希望について	85
問 36.	進路を決めた（これから決める時に考慮する）理由について	86

問 37.	将来の進路への感じ方について	87
問 38.	就職活動に役だった情報源について	88
問 39.	進路決定の際の指導教員への相談について	89
問 40.	就職活動の学修・研究への影響について	90
第 8 章	本学への期待や要望等について	91
問 41.	教員に最も期待することについて	91
問 42.	教育面や制度面で充実してほしい点について	92
問 43.	整備・充実してほしい施設等について	93
問 44.	学内の福利厚生施設の満足度について	94
問 45.	向上を望むキャンパスマナーについて	95
問 46.	筑波大学への要望や提言等について	96
【資料】	平成 29 年度筑波大学学生生活実態調査（大学院）集計表〈全体〉	99

東京地区

平成 29 年度 筑波大学学生生活実態調査（大学院生用）《和文・英文》	113
-------------------------------------	-----

筑波大学学生生活実態調査（大学院 東京地区）回答率について	133
-------------------------------	-----

第 1 章	あなた自身について	134
問 1.	社会人経験の有無について	134
問 1-1.	現在の在職状況について	134
問 1-1-1.	職場の理解度について	135
問 2.	筑波大学大学院を志望した理由について	136
問 3.	入学前に在籍していた大学または大学院について	137
問 4.	現在の住まいについて	138
問 5.	現在の居住地について	139
第 2 章	生活全般について	140
問 6.	あなたの家族の主たる家計支持者について	140
問 7.	大学に希望する経済支援について	141
問 7-1.	一時貸付金を希望する理由について	141
問 8.	収入源について	142
問 9.	1 ヶ月の生活費や研究活動費の充足度について	143
問 9-1.	生活費や研究活動費などで不足しているものについて	143

問 10.	起床時刻と就寝時刻について	144
問 11.	夜間登校時の食事について	145
問 11-1.	在学中の食事について	146
問 12.	日常生活の満足度について	147
第 3 章	通学・事故等について	148
問 13.	通学時の交通手段について	148
問 14.	雨天時以外の通学時間について	149
問 15.	盗難被害について	150
問 16.	宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘について	151
第 4 章	健康状態について	152
問 17.	過去 1 年間の健康状態について	152
問 18.	過去 1 年間の困り事・悩み事について	153
問 19.	あなたの感じ方について	154
第 5 章	相談相手・情報の得方について	155
問 20-1.	主な相談相手について	155
問 20-2.	相談相手と話す機会について	156
問 21.	情報の得方について	157
問 22.	相談機関について	158
第 6 章	本学への期待や要望等について	159
問 23.	教員に最も期待することについて	159
問 24.	教育面や制度面で充実してほしい点について	160
問 25.	整備・充実してほしい施設等について	161
問 26.	学外研修施設の利用について	162
問 27.	筑波大学への要望や提言等について	163
【資料】	平成 29 年度筑波大学学生生活実態調査（大学院 東京地区）集計表〈全体〉	165

平成 29 年度学生生活実態調査（大学院）概要

1. これまでの実態調査の実施と目的

筑波大学では、「大学院学生の生活・教育・研究環境の実態を把握し、本学大学院学生の生活の一層の向上および教育・研究環境の改善に資すること」を目的として、学生生活実態調査を実施している。学群学生に対しては昭和 53 年度から平成 20 年度まで 5 年毎に実施していたが、大学院学生に対しては、第 2 回（昭和 58 年度）と第 3 回（昭和 63 年度）に学群学生と同一の調査票を用いて調査が行われた。第 4 回（平成 5 年度）の調査の際に、学群学生と同一の調査票を用いることは適切でないとの理由から、大学院学生は調査の対象から外された。その 2 年後（平成 7 年度）、第 5 回学生生活実態調査が大学院学生のみを対象として実施されたが、第 6 回（平成 10 年度）と第 7 回（平成 15 年度）の調査は、再び学群学生のみを対象として行われ、平成 20 年度に学群学生向けの調査と同時に、大学院学生は「生活等に関するアンケート調査」として 13 年ぶりに調査が行われた。その後、学生生活支援室では、実態調査の実施について検討を重ね、大学院修士課程、博士前期課程が 2 年間の課程であることを踏まえて、2 年に 1 度の間隔で実態調査を実施することになり、平成 22 年度と 2 年後の平成 24 年度に実施した。しかし、その後再度の見直しで、実態調査は 5 年毎で十分であるとの判断により、前回実施 5 年後の平成 29 年度に実施した。なお、学群学生に対する調査も同時に実施し、その結果は別に『平成 29 年度筑波大学学生生活実態調査（学群）報告書』としてまとめられている。

2. 実施方法の検討と調査項目の設定

学生生活支援室では、平成 29 年 4 月に学生生活実態調査の準備にとりかかり、第 2 回学生生活支援室会議において、室長から室員に対して、学生生活実態調査の実施に向けての協力要請があり、併せて、日程や方法について検討を開始し、1) 調査を平成 29 年 10 月に実施すること、2) 大学院の全学生を対象とし、筑波地区と東京地区を分けて設問を設定すること、3) 個人情報管理と作業効率の観点から紙媒体ではなく manaba で行なうこと、などを決定した。第 3 回会議では、manaba での実施を踏まえ、前回の設問にあった所属や学年等々の学生自身に係る項目は削除することとし、それ以外の調査項目について検討した。第 5 回会議では、設問の追加および削除の提案を受けて、慎重な検討を行った。第 6 回会議では、すべての設問について再度検討を行い、7 月上旬までに第 1 次案を作成した。

調査項目の設定においては、回答率を向上させるためにも、設問総数を増やさないことが重要であるとの認識から、項目を厳選する作業を続けた。その結果、前回調査で筑波地区 57 問、東京地区 35 問（自由記述を除く）であった調査項目は、今回は筑波地区 46 問、東京地区 27 問と大幅に削減された。今回は、DAC（ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア）センターの設立を受けて「相談する際に利用する機関」の選択肢に LGBT 等の相談窓口を加えるとともに、ボランティア活動およびつくばアクションプロジェクト（T-ACT）の活動に関する設問などを新たに加えた。学生生活支援室員からは、学生の回答に要する時間を考慮すると、さらに設問を減らすべきとの声も多かったが、経年変化をみるという観点から、さらなる厳選はせずに留めた。大学への要望等に関する設問は、今回も、学生の回答のしやすさと集計・分析の便宜性から、「制度等に関する要望」「教職員に対する要望」「施設に対する要望」などの分類にそれぞれ「カリキュラム」「キャリア・就職支援」「宿舍」「駐輪場」といった小項目を設定する形をとった。

東京地区の調査票については、大学院学生の調査票の第 1 次案をもとに、調査担当の室員と事務職員に検討を依頼し、時間的に余裕のない日程であったが、7 月上旬には東京地区の調査票案も整った。

以上のような準備作業を経て、平成 29 年度第 4 回大学院教育会議（7 月 18 日開催）で「平成 29 年度

筑波大学学生生活実態調査」の実施について報告し、各教育組織に調査への協力を依頼した。また、各研究科の学生担当教員にも、本調査の実施案を提示して意見聴取を行い、大学院教育会議の委員および学生担当教員から出された意見や要望事項について、修正や改善作業を行うと同時に、増加する留学生への対応として、調査票の英語版の作成に入り、9月中旬までには日本語版と英語版の調査票を確定し、情報の秘匿性を確保する旨の表記など、細部にわたる確認作業を行った。

3. 調査の実施

10月2日(月)から10月31日(火)までの期間でmanabaによるアンケート調査を実施した。調査期間中、第5回大学院教育会議(10月17日開催)において、教育組織ごとの回答率を提示し、回答率の向上を促した。しかし、回答率が想定より低かったため、10月26日開催の学生生活支援室会議において、調査期間を11月10日(金)まで延長することとした。

調査期間中も、その後の集計作業時も、システムトラブルなど問題になることはなく、関係教職員の方々の尽力により、スムーズに調査と分析を実施することができたのは大変有難かった。ただし、manabaによる回答率は全体で23.1%(筑波地区23.1%、東京地区23.2%)に留まり、前回の31.3%(筑波地区32.7%、東京地区19.1%)よりも低下してしまった。できる限りの方法で学生への周知を繰り返したが、依頼回数が多すぎるとの苦情もあり、今回の回答率が限界であった。今後の改善が望まれる。

4. 調査結果の分析と報告書の作成

調査期間終了と同時に担当事務職員が調査データの集計を開始し、12月下旬までに完了した。学生生活支援室員と学生部職員に、集計結果の数値をもとに作成された表とグラフが提示され、1月中旬までに各項目の分析結果が整えられた。その後、全体の内容確認が行われ、3月の報告書の発行に至った。

本報告書の発行にあたり、様々な角度からデータの分析を行い、原稿を作成していただいた以下の学生生活支援室員および関係部局の方々に感謝したい。

また、各教育組織においても、学生生活の一層の向上と教育の改善の基礎資料として、本報告書を活用していただければ幸いである。

執筆分担：

概要	田 中 博 (計算科学研究センター)
問 1 ～問 14 【問 1 ～問 12】	田 中 博 (計算科学研究センター)
問 15 ～問 21 【問 13 ～問 16】	成 瀬 和 弥 (体育系)
問 22 ～問 24 【問 17 ～問 19】	田 附 あえか (人間系)
問 25 ～問 28 【問 20 ～問 22】	黒 田 卓 哉 (学生生活支援室)
問 29 ～問 33	澁 谷 長 史 (システム情報系)
問 34 ～問 40	DACセンター キャリアサポート部門
問 41 ～問 46 【問 23 ～問 27】	中 村 顕 (生命環境系)

※【 】は東京地区の調査票の設問番号

筑波地区

平成 29 年度 筑波大学学生生活実態調査（大学院生用）

*** お願い ***

この調査は、皆さんの学生生活の実態を把握し、本学の学生生活の一層の向上および教育改善に資することを目的として実施するもので、調査対象者は学群・学類、大学院の学生（正規生）の皆さんです。この調査は、本調査以外の目的に用いることはありませんので、ありのままを記入してください。調査結果は、実態調査報告書として公表し、ホームページでも公開する予定です。

個人情報の取り扱いなどについて

今回の学生生活実態調査は、学習管理システム manaba（統一認証）を利用した調査となるため、調査元の学生部は、皆さんの個人情報を取得することになりますが、個人を特定できる部分のデータ（学籍番号・氏名）は使用しません。アンケート結果も統計的に処理し、個人を特定できるデータは一切公開いたしません。また、個人情報については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」を遵守するとともに、「国立大学法人筑波大学個人情報保護管理規則」に基づき、厳密に取り扱います。

以上をご了解の上で回答していただきたくお願いいたします。

この調査の趣旨をご理解のうえ、多くの学生の皆さんのご協力をお願いいたします。

平成 29 年 10 月

筑波大学 副学長（学生担当） 玉川 信一

1. 記入の方法などについて

- ① 調査は、全部で 46 問です。（所要時間は 30 分程度です。）
- ② 回答は、番号を選ぶ選択方式と、具体的に記述するものがあります。
番号選択方式の場合は、該当する番号を選んでください。
その他欄等への記述の場合は、指定された欄に入力してください。
- ③ 平成 29 年 10 月 1 日現在で記入してください。
- ④ アンケートを途中保存する場合は、アンケートページ内の「中断する」のボタンを押してください。
- ⑤ アンケートページを前後する場合は、アンケートページ内の「前へ」「次へ」のボタンを使用し、ブラウザの戻るボタンは使用しないでください。

2. 提出期間

平成 29 年 10 月 2 日（月）～平成 29 年 10 月 31 日（火）

3. ご質問・ご意見等の問い合わせ先（調査元：学生部 学生生活課 学生企画チーム）

電 話：029-853-2298・2224

メール：gk.gakuseikikaku@un.tsukuba.ac.jp

I. あなた自身について

問1. 社会人の経験はありますか

- ある ない

問1で「ある」を選択した方にお聞きします。

問1-1. 現在の在職状況について、あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 在職中
2. 休職中
3. 退・辞職し、現在、定職はない
4. 定職はなかった
5. その他

問1-1で「1. 在職中」「2. 休職中」を選択した方にお聞きします。

問1-1-1. 筑波大学大学院に入学するにあたって職場の理解は得られていますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 学費の負担も含め、全面的に得られている
2. 就学に支障のない程度に得られている
3. 職場の休職制度を利用
4. 職場の派遣制度を利用
5. 職場のその他の制度を利用
6. 職場には秘密にしている
7. その他

問2. 筑波大学大学院を志望した主な理由について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 研究領域に魅力がある
2. 教育内容が優れている
3. 希望する分野がある
4. 指導教員の資質・能力、指導体制が優れている
5. 研究室の雰囲気の魅力がある
6. 教育・研究施設が優れている
7. 幅広い専門が学べる
8. 学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している
9. 修了後の進路など就職に有利である
10. 修了年限の弾力的な運用がある
11. 親や指導教員などから勧められた
12. 自宅から通える
13. 資格などが取りやすい
14. その他

問3. あなたが筑波大学大学院に入学する前に在籍していた大学または大学院について、あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 筑波大学・大学院
2. 日本国内の他大学・大学院
3. 日本国外の大学・大学院

II. 生活全般について

問4. あなた、もしくは、あなたの家族の主たる家計支持者はどなたですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. あなた自身
2. 配偶者
3. 父親・母親
4. 両親以外の親族
5. その他

◎「5. その他」を選択した方は、主たる家計支持者を記入してください。

問5. 大学に希望する経済支援は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 給付型（返還義務なし）奨学金
2. 貸与型（返還義務あり）奨学金
3. 授業料免除
4. 一時貸付金
5. その他
6. 特に希望しない

◎「5. その他」を選択した方は、希望する経済支援の具体例を記入してください。

問5で「4. 一時貸付金」を選択した方にお聞きします。

問5-1. 一時貸付金を希望する理由は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 授業料のため
2. 生活費のため
3. その他

問6. あなたの今年4月以降の1ヶ月の平均的な収入はどれくらいですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 6万円未満
2. 6～9万円未満
3. 9～12万円未満
4. 12～15万円未満
5. 15～18万円未満
6. 18～25万円未満

- 7. 25～30万円未満
- 8. 30万円以上

問7. あなたの1ヶ月の平均的な収入の収入源はどのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。

- 1. 有職者としての給与
- 2. 奨学金
- 3. 仕送り
- 4. 筑波大学での TA・TF (ティーチング・アシスタント、ティーチングフェロー)
- 5. 筑波大学での RA (リサーチ・アシスタント)
- 6. 指導教員から頼まれた学内でのアルバイト
- 7. 「4」～「6」以外の学内でのアルバイト
- 8. 他大学での非常勤講師
- 9. 民間会社の契約社員や派遣社員
- 10. 筑波大学以外での定常的なアルバイト
- 11. 筑波大学以外での不定期なアルバイト
- 12. 貯金
- 13. 借入金
- 14. 研究奨励費
- 15. その他

◎「15. その他」を選択した方は、収入源を記入してください。

問8. 平均的な1ヶ月の生活費や研究活動費などは充分ですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

- 1. 充分である
- 2. まあまあ足りている
- 3. ぎりぎりである
- 4. 不足している

問8で「4. 不足している」を選択した方にお聞きます。

問8-1. 生活費や研究活動費などで不足しているものは何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

- 1. 授業料が納入できない
- 2. 研究時間確保でアルバイトができない
- 3. 研究用資料・書籍が購入できない
- 4. 学会・研究会などに行けない
- 5. 研究のための調査に行けない
- 6. 研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない
- 7. その他

◎「7. その他」を選択した方は、不足しているものの具体例を記入してください。

「今年4月以降に筑波大学外でアルバイトをした方」にお聞きします。

問9. 仕事の種類について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 家庭教師
2. 塾講師・添削指導
3. 一般事務
4. 特殊技能（翻訳・通訳・スポーツコーチ等）
5. 飲食店での業務
6. 飲食店以外の軽労働（調査・配達・販売等）
7. 重労働（引っ越し・建築関係等）
8. その他

◎「8. その他」を選択した方は、職種を記入してください。

「今年4月以降に筑波大学外でアルバイトをした方」にお聞きします。

問10. アルバイトを行う理由は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 学費や生活費のため
2. サークル活動費のため
3. レジャー・海外旅行のため
4. 技術を得るため
5. 友人を得るため
6. その他

◎「6. その他」を選択した方は、その理由を記入してください。

「今年4月以降に筑波大学外でアルバイトをした方」にお聞きします。

問11. アルバイトに費やされる時間は研究・学修の妨げになっていますか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. かなり妨げになっている
2. 多少妨げになっている
3. 妨げになっていない

問12. あなたの現在の住まいについて、あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 学生宿舎
2. 民間のアパート・マンションなど
3. 親と同居
4. 親戚・知人宅
5. その他

問12で「2」～「5」を選択した方にお聞きします。

問12-1. 学生宿舎への入居を希望しますか。

- 希望する 希望しない

問12で「2」～「5」を選択した方にお聞きします。

問12-2. あなたの現在の居住地について、あてはまる番号を1つだけ選択してください。

- (A) 学生宿舎以外でつくば市内 (1. 天久保 2. 春日 3. 桜 4. 柴崎 5. 吾妻 6. その他)
(B) つくば市以外で茨城県内 (1. 県南地域 2. 県西地域 3. その他)
(C) 茨城県外で関東地方 (1. 東京都 2. 千葉県 3. 埼玉県 4. その他)
(D) その他 (1. その他)

問12で「1. 学生宿舎」を選択した方にお聞きします。

問12-3. 入居している学生宿舎について、あてはまるものを各1つずつ選択してください。

① 学生宿舎の地区

1. 一の矢地区
2. 平砂地区
3. 追越地区
4. 春日地区

② 居室のタイプ

1. 単身宿舎
2. 世帯宿舎
3. 二人室
4. シェアハウス

問12で「1. 学生宿舎」を選択した方にお聞きします。

問12-4. 入居している学生宿舎の満足度について、あてはまるアルファベットを各1つずつ選択してください。

1. 料金
2. 居室
3. 補食室
4. トイレ
5. 洗濯室 (ランドリー)
6. 浴場
7. コインシャワー
8. 外灯
9. 出入口の施錠
10. 売店・食堂
11. 管理事務所の対応
12. 総体的に

- a. かなり満足
- b. おおむね満足
- c. どちらともいえない
- d. 少し不満
- e. かなり不満

1 2 3 4 5 6
 7 8 9 10 11 12

問 1 3. 平均的な 1 日または 1 週間の過ごし方について

A. 平日の 1 日での平均時間を記入してください

①大学の授業・実習・研究等の時間 : 時間
 ②授業等以外の学習時間 : 時間
 ③睡眠時間 : 時間

B. 1 週間の総時間を記入してください

①大学の授業・実習・研究等の時間 : 時間
 ②授業等以外の学習時間 : 時間
 ③サークル・ボランティアなどの活動時間 : 時間
 ④アルバイト・就業時間 : 時間

問 1 4. 現在の日常の生活に全体として満足していますか。あてはまるものを 1 つだけ選択してください。

- 1. かなり満足
- 2. おおむね満足
- 3. どちらともいえない
- 4. 少し不満
- 5. かなり不満

Ⅲ. 通学・事故等について

問 1 5. あなたが 1 回の通学のために利用している交通手段はどのようなものですか。雨天および雨天以外の日それぞれについて、あてはまるものをすべて選択してください。

① 雨天時

- 1. 徒歩
- 2. 自転車
- 3. バイク（原付を含む）
- 4. 自家用車
- 5. キャンパス交通システム（学内循環バス）
- 6. 学内循環バス以外の路線バス
- 7. つくばエクスプレス（TX）
- 8. JR 常磐線
- 9. その他

◎「9. その他」を選択した方は、具体的な交通手段を記入してください。

② 雨天以外

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク（原付を含む）
4. 自家用車
5. キャンパス交通システム（学内循環バス）
6. 学内循環バス以外の路線バス
7. つくばエクスプレス（TX）
8. JR 常磐線
9. その他

◎「9. その他」を選択した方は、具体的な交通手段を記入してください。

問16. 雨天の日以外のあなたの通学時間は片道どのくらいですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 15分未満
2. 15分～30分未満
3. 30分～45分未満
4. 45分～1時間未満
5. 1時間～1時間半未満
6. 1時間半～2時間未満
7. 2時間以上

問17. キャンパス交通システム（学内循環バス）の利用頻度はどのくらいですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 月に2～3回
4. 年に数回
5. いままで数回
6. 利用したことはない

問18. 過去1年間で（新生は大学院入学後）、自転車事故の経験はありますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 事故の経験はない
2. 加害者になったことがある
3. 被害者になったことがある
4. 自損事故の経験がある

◎「2」～「4」を選択した方は、具体的な場所を記入してください。

問19. 過去1年間で（新生は大学院入学後）、交通事故（自転車事故を除く）の経験はありますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 事故の経験はない
2. 加害者になったことがある
3. 被害者になったことがある
4. 自損事故の経験がある

問20. 大学院入学後、盗難の被害にあったことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 被害にあったことはない
2. 学内で被害にあった
3. 学外で被害にあった

◎「2」、「3」を選択した方は、盗難物と場所を具体的に記入してください。

【盗難物】

【場 所】

問21. 大学院入学後、引ったくりや暴行・傷害・たかり・恐喝などの被害にあったことはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 被害にあったことはない
2. 学内で被害にあった
3. つくば市内で被害にあった
4. 上記以外の場所で被害にあった

IV. 健康状態について

問22. あなたの過去1年間の健康状態について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 健康である
2. 健康不良で数日寝込んだ（受診・入院を除く）
3. 身体の病気で受診・入院した
4. 精神的な問題で受診・入院した
5. 心理的な問題で相談機関を利用した
6. けがで受診・入院した
7. その他

問23. あなたは過去1年間にどのようなことで困ったり悩んだりしましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 学業や研究の不振
2. 単位修得の問題
3. 転研究科・転専攻

- 4. 休学・退学
- 5. 進路
- 6. 就職
- 7. 友人との関係
- 8. 教員との関係
- 9. 研究室内の問題
- 10. 部活動・サークル内の問題
- 11. 恋愛関係
- 12. 家族関係
- 13. 自分の性格
- 14. 自分の精神的・心理的状态
- 15. 自分の身体的病気・けが等の状態
- 16. 経済状態
- 17. ハラスメント
- 18. その他
- 19. 特になし

◎「18. その他」を選択した方は、その内容を具体的に記入してください。

問24. 次の事柄について、過去1年間のあなたの感じ方に最も近いのはどれですか。あてはまるアルファベットを各1つずつ選択してください。

- 1. 自分のやりたいことができている
- 2. 何となく不安になることがある
- 3. 自分のことをよくわかってきている人がいる
- 4. 何をやってもうまくいかない気がする
- 5. 気分が憂鬱である
- 6. 「死にたい」と思ったことがある
- 7. 大学生活が充実している

- a. とてもあてはまる
- b. 少しあてはまる
- c. あまりあてはまらない
- d. 全くあてはまらない

1 2 3 4 5 6 7

V. 相談相手・情報の得方について

問25-1. あなたが重要なことを話したり、悩みを相談する人はどなたですか。話したり相談しやすい順に3つまで選択してください。

- 1. 1番目に話したり相談しやすい人は
- 2. 2番目に話したり相談しやすい人は

3. 3番目に話したり相談しやすい人は

- a. 家族
- b. 恋人
- c. 友人（学内）
- d. 友人（学外）
- e. 先輩・後輩（学内）
- f. 先輩・後輩（学外）
- g. 教員
- h. その他
- i. 特にいない

1 √ 2 √ 3 √

問25-1で「a」～「h」を選択した方にお聞きます。

問25-2. 「問25-1」で話したり相談しやすいとして選んだ人たちとあなたが話をする機会（電話やメールも含みます）は普段どのくらいありますか。それぞれの人について、あてはまるアルファベットを選択してください。

- 1. 1番の人とは
- 2. 2番の人とは
- 3. 3番の人とは

- a. 頻繁にある
- b. 少しある
- c. あまりない
- d. ほとんどない

1 √ 2 √ 3 √

問26. 学修・研究や生活に関わる一般的な情報を得ようとするとき、主に誰にあるいはどこにアクセスしますか。あてはまるものをすべて選択してください。

- 1. 指導教員
- 2. 研究科・専攻の事務職員
- 3. 友人等
- 4. Web 掲示板
- 5. TWINS 掲示板
- 6. 大学の HP
- 7. 研究科・専攻等の HP
- 8. 専攻等のメーリングリスト
- 9. SNS (social networking service)
- 10. その他

問27. 筑波大学には、学生生活の中で生じる様々な問題について、相談できる機関や制度があります。利用状況について、あてはまるアルファベットを各1つずつ選択してください。

1. スチューデントプラザ総合相談窓口
2. 春日地区総合相談窓口
3. 保健管理センター 学生相談室
4. キャリア・就職相談（学生）
5. 相談室「あう」
6. 保健管理センター1階 精神保健相談（精神科）
7. 保健管理センター2階 健康相談（内科）
8. LGBT等の相談窓口（DACセンターダイバーシティ部門）
9. 障害学生支援の相談窓口（DACセンターアクセシビリティ部門）
10. 留学生相談室
11. ハラスメント相談センター

- a. 利用したことがある
- b. 利用したことはないが、利用の仕方は知っている
- c. 利用したことはないが、存在は知っている
- d. 利用したことがなく、存在も知らない

1	<input type="checkbox"/>	2	<input type="checkbox"/>	3	<input type="checkbox"/>	4	<input type="checkbox"/>	5	<input type="checkbox"/>		
6	<input type="checkbox"/>	7	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>	9	<input type="checkbox"/>	10	<input type="checkbox"/>	11	<input type="checkbox"/>

問28. 定期的に読む学内広報誌は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 筑波大学新聞
2. つくばスチューデントズ
3. Campus
4. 筑波スポーツ
5. TSUKUBA SPORTS NEWS FLASH (TSA)
6. その他
7. どれも読まない

VI. 課外活動について

問29. 大学院生になってからのサークル活動について、あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 正式メンバーで現在活動中
2. コーチなどで現在活動中
3. 「1」「2」以外で現在活動中
4. 以前は活動していた
5. 活動したことはない

問29で「1」～「4」を選択した方にお聞きします。

問29-1. サークル活動の動機について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 友人がほしくて
2. 知識・教養のため
3. 健康のため

- 4. 技術向上のため
- 5. 団体活動を経験したい
- 6. 趣味と一致
- 7. 余暇の利用のため
- 8. レクリエーションの一環で
- 9. 希望の進路と同じで有益
- 10. 就職などにプラス
- 11. 大学時代からの継続
- 12. 勧誘されて
- 13. 社会貢献のため
- 14. その他

問30. 宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘についてお尋ねします。

- ① 大学院入学後、キャンパス内で勧誘を受けたことが
 ある ない
- ② 大学院入学後、キャンパス外で勧誘を受けたことが
 ある ない
- ③ 大学院入学後、キャンパス内で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことが
 ある ない
- ④ 大学院入学後、キャンパス外で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことが
 ある ない

問31. 大学院生となつてからのボランティア活動について、あてはまるものをすべて選択してください。

- 1. 授業やゼミを通じて参加したことがある
- 2. つくばアクションプロジェクト (T-ACT) を通じて参加したことがある
- 3. サークル活動を通じて参加したことがある
- 4. その他の機会に参加したことがある
- 5. 参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている
- 6. ボランティア活動に参加する予定はない

問32. つくばアクションプロジェクト (T-ACT) の活動について、あてはまるものをすべて選択してください。

(T-ACT とは、学生の「やってみたい」を支援する学生支援組織です。)

- 1. T-ACT で企画の発案者 (プランナー) や運営者 (オーガナイザー) を行ったことがある
- 2. T-ACT の企画に参加者 (パーティシパント) として関わったことがある
- 3. 総合科目「みんなで創ろう『つくばアクションプロジェクト』」を受けたことがある
- 4. T-ACT 主催のイベント (活動報告会や公開シンポジウムなど) に参加したことがある
- 5. その他の機会で T-ACT に関わったことがある
- 6. 参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている
- 7. T-ACT の活動に参加する予定はない

問33. 筑波大学の学外研修施設（山中・館山）を使用したことはありますか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. ある
2. ない
3. 存在を知らない

VII. 進路や就職活動について

問34. あなたの修了後の進路（現在の希望を含む）について、あてはまる番号を1つだけ選択してください。

- (A) 進学等（1. 筑波大学大学院 2. 国内の他大学大学院 3. 海外の大学院
4. 研究員、研究生等（日本学術振興会・研究生） 5. その他）
- (B) 就職（1. 企業 2. 大学教員 3. 研究員 4. 小・中・高校の教員
5. 公務員 6. 自営・起業 7. その他）
- (C) 復職（1. 企業 2. 大学教員 3. 研究員 4. 小・中・高校の教員
5. 公務員 6. 自営 7. その他）
- (D) その他（1. 決まっていない 2. まだ考えていない 3. その他）

問35. あなたは修了後、外国で（留学生は修了後、日本で）働きたいと思いますか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 強くそう思う
2. ややそう思う
3. 分からない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きます。

問36. あなたが進路を決めた（これから決めるときに考慮する）主な理由について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. やりがい
2. 社会的貢献
3. 年収
4. 安定した生活
5. ワーク・ライフ・バランス
6. 自分の能力や適性
7. 専門知識を深める
8. 大学院での学修の活用
9. 大学院での研究の活用
10. 社会的評価
11. 将来性
12. 地理的利便性
13. その他

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きします。

問37. 将来の進路（キャリア形成）についてあなたの感じ方に最も近いのはどれですか。あてはまるアルファベットを各1つずつ選択してください。

1. 将来の進路（キャリア形成）について、とても関心を持っている
2. 働くことについて、真剣に考えたことがない
3. 進路決定では、周囲の雰囲気に流されることはない
4. 職業生活を充実させるためには、自分自身の責任が大きいと思う
5. 希望する進路に進むための具体的な計画を立てている
6. 希望する進路は決まっているが、それに向けての努力は特にしていない

- a. よくあてはまる
- b. ややあてはまる
- c. どちらともいえない
- d. あまりあてはまらない
- e. 全くあてはまらない

1 2 3 4 5 6

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きします。

問38. 就職活動に役立った主な情報源は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 指導教員
2. 専攻などの就職委員
3. ゼミの同輩・先輩
4. キャリアサポート部門 / 就職課
5. キャリアサポート部門 / 就職課 HP
6. 学内の就職ガイダンス
7. 就職情報誌
8. 就職情報サイト
9. 学外の就職イベント
10. 企業・自治体等の HP
11. インターンシップ
12. OB・OG 訪問
13. その他

◎「13. その他」を選択した方は、役に立った情報源を具体的に記入してください。

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きします。

問39. 修了後の進路を考えるにあたり指導教員に相談しましたか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. たびたび相談した
2. 時々相談した
3. ほとんど相談していない

- 4. 相談はしていない
- 5. 相談しようとしたが断られた
- 6. その他

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きます。

問40. 就職活動によって、大学での学修・研究に支障ができましたか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

- 1. 支障は全くでていない
- 2. 支障はほとんどでていない
- 3. 支障が多少はでている
- 4. 支障がととでもでている

VIII. 本学への期待や要望等について

問41. 筑波大学の教員に最も期待することはどのようなことですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

- 1. 優れた研究者であってほしい
- 2. 授業内容を充実させてほしい
- 3. もっと解りやすく教えてほしい
- 4. 研究指導の時間を確保してほしい
- 5. ハラスメントの問題に敏感になってほしい
- 6. 研究成果を教育の現場にもっと反映してほしい
- 7. その他
- 8. 特になし

◎「7. その他」を選択した方は、期待することを具体的に記入してください。

問42. 教育面や制度面で充実してほしいと思うのはどのようなことですか。あてはまるものをすべて選択してください。

- 1. 教育研究スタッフ
- 2. カリキュラム
- 3. 講演会等課外教育プログラム
- 4. 留学制度
- 5. 就職活動の支援
- 6. 教員との懇談会
- 7. 奨学金・授業料免除等の経済的支援
- 8. ボランティア活動に対する支援
- 9. 支援室や事務室の対応
- 10. メンタル面に関する支援
- 11. ハラスメント対応（組織・制度）
- 12. その他

◎「12. その他」を選択した方は、充実してほしい点を具体的に記入してください。

問43. キャンパス内の施設等で、特に整備・充実してほしいのはどれですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 教室・実験室
2. 図書館
3. IT環境
4. 体育施設
5. 課外活動施設
6. セキュリティ
7. 駐車場
8. 駐輪場
9. 学内循環バス
10. ペDESTリアン
11. 外灯
12. その他

◎「12. その他」を選択した方は、整備・充実してほしい点を具体的に記入してください。

問44. 学内の福利厚生施設の満足度について、あてはまるアルファベットを各1つずつ選択してください。

1. 食堂
2. 喫茶
3. パン販売
4. キッチンカー
5. 書店
6. 画材
7. その他売店
8. 自動販売機

- a. 満足
- b. まあ満足
- c. 普通
- d. やや不満
- e. 不満

1	<input type="text" value=""/>	2	<input type="text" value=""/>	3	<input type="text" value=""/>	4	<input type="text" value=""/>	5	<input type="text" value=""/>
6	<input type="text" value=""/>	7	<input type="text" value=""/>	8	<input type="text" value=""/>				

◎現在の福利厚生施設等で不便を感じたり改善してほしい点があれば、下記の分類表から該当する番号を記入後、具体的な内容を記述してください。複数項目に対する記述も可能です。

【分類表】

1. 食堂 2. 喫茶 3. パン販売 4. キッチンカー 5. 書店 6. 画材
7. その他売店 8. 自動販売機

【記述例】

4. もっと多くの場所で販売してほしい
1.

【記述欄】

問45. 筑波大学生のキャンパスマナーに関して、向上を望みたいことはどのようなことですか。あてはまるものをすべて選択してください。

- 1. 運転マナー
- 2. 駐輪マナー
- 3. 飲酒マナー
- 4. 談話室等共有スペースの利用マナー
- 5. 喫煙マナー
- 6. その他
- 7. 特になし

◎「6. その他」を選択した方は、向上を望みたいことを具体的に記入してください。

問46. 筑波大学の大学院の教育・研究環境や学生生活全般に対する要望や提言等について、以下の分類表の該当する項目を記入後、具体的な内容を記述してください。複数項目に対する記述も可能です。

【分類表】

- (A) 制度等に関する要望 (1. カリキュラム 2. 学生生活支援 3. 経済支援 4. キャリア・就職支援
5. その他)
- (B) 教職員に対する要望 (1. 教員に対して 2. 事務職員に対して 3. その他)
- (C) 施設に対する要望 (1. 学修・研究環境 2. IT 3. 図書館 4. 宿舍 5. 食堂・売店
6. 駐輪場 7. ペデ・道路等 8. その他)
- (D) その他 (1. その他)

【記述例】

- A5. Web 掲示板をもう少し見やすくしてほしい
C2.

【記述欄】

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

*** Please Read ***

The purposes of this survey are to learn about living conditions for all students, to further improve student life in the University of Tsukuba, and to contribute to improvements in education. The survey is for all students (regular students) in all the schools, colleges and graduate schools of University of Tsukuba.

The survey will not be used for any purpose other than those mentioned above. Please answer with complete honesty.

We intend to release the survey's results in a survey report, which will also be published on the University's website.

Managing your personal information

This survey for student life is conducted using the study management system "manaba" (with integrated authentication). The Department of Student Affairs is administering the survey and will be able to access personal information of all students but will not use data that can identify individuals (student registration numbers and names). Statistics will be produced from the survey results in aggregate but data that can identify individuals will NOT be published. Personal information will be handled strictly in accordance with the law "Act on the Protection of Personal Information held by Administrative Organs" and in line with the University's "Personal Information Protection Rules".

Please understand the above points when filling out the survey.

We hope that all students will cooperate with the survey to improve student life.

October 2017

Shin-ichi Tamagawa, Vice President for Student Affairs,
University of Tsukuba

1. Notes for filling out the survey:

- ①The survey has a total of 46 questions. (The required time is approximately 30 minutes.)
- ②Some questions ask for selection of numbered answers and some ask for written answers. Where selection of numbered answers is required, select the applicable number(s). Where written answers are required, type in the designated boxes.
- ③The survey should be filled out as of October 1, 2017.
- ④If you like to save your entry in the middle of a questionnaire, click the *¹“中斷する” box on the page of questionnaire.
- ⑤If you like to move your page back and forth, click the *²“前へ” or *³“次へ” box on the page of questionnaire. Do not use the back function on an Internet browser.

*¹“中斷する” : quit *²“前へ” : forward *³“次へ” : backward

2. Submission period:

October 2 (Monday) to October 31 (Tuesday), 2017

3. Please send any questions or feedback to the survey administrators (Student Planning Team, Division of Student Welfare, Department of Student Affairs).

Tel. 029-853-2298 or 029-853-2224

Email: gk.gakuseikikaku@un.tsukuba.ac.jp

I. About Yourself

Q1. Have you ever worked full-time?

- Yes No

If you selected "Yes" to Q1, answer Q1-1.

Q1-1. What is your current employment status? Select only one answer.

1. Employed
2. On a leave of absence
3. Left job/do not have a job
4. Never been in employment
5. Others

If you selected 1 (employed) or 2 (on a leave of absence) in Q1-1, answer Q1-1-1.

Q1-1-1. Has your employer been supportive of you coming to University of Tsukuba graduate school? Select all answers that apply.

1. Completely supportive, including paying college fees
2. Supportive; they did not obstruct me
3. I am using my employer's leave of absence system
4. I am using my employer's secondment system
5. I am using other systems from my employer
6. I have not told anything to my employer
7. Others

Q2. What are your main reasons for choosing a University of Tsukuba graduate school? Select all answers that apply.

1. Attractive fields of research
2. Good teaching content
3. Availability of the field I want to study
4. Quality and ability of academic advisors/good advisory system
5. Attractive research environment
6. Good teaching and research facilities
7. Wide choice of majors
8. Good systems of financial support for college fees and living costs
9. Good prospects for employment after course completion
10. Flexible management of course length
11. Recommended by a parent, supervisor or such
12. Convenient for commuting from home
13. Easy to obtain credentials and certifications
14. Others

Q3. Were you registered at a university or graduate school before you joined the University of Tsukuba graduate school? Select only one answer.

1. A University of Tsukuba school or graduate school
2. Another university or graduate school in Japan
3. A university or graduate school outside Japan

II. General Lifestyle

Q4. Who is the main money-earner in your household? Select only one answer.

1. Myself
2. Spouse
3. Mother or father
4. Relative other than parents
5. Others

Ⓒ If you selected 5 (Others) in Q4, specify the main earner.

Q5. What kind of financial support would you request to the University? Select all answers that apply.

1. Grant type (no repayment required) scholarships
2. Student loans (repayment required)
3. Tuition fee exemptions
4. Short-term loans
5. Others
6. None in particular

Ⓒ If you selected 5 (Others) in Q5, specify examples of the financial support you would like to receive.

If you selected 4 (short-term loans) in Q5, answer Q5-1.

Q5-1. What should the short-term loans be for? Select all answers that apply.

1. Tuition fees
2. Living costs
3. Others

Q6. What is your average monthly income since April 2017? Select only one answer.

1. Less than 60,000 yen
2. 60,000–89,999 yen
3. 90,000–119,999 yen
4. 120,000–149,999 yen
5. 150,000–179,999 yen
6. 180,000–249,999 yen
7. 250,000–299,999 yen
8. 300,000 yen or more

Q7. What is your main source of income in a typical month? Select all answers that apply.

1. Salary from employment
2. Scholarship
3. Remittances
4. Work as a teaching assistant (TA) or teaching fellow (TF) at University of Tsukuba
5. Work as a research assistant (RA) at University of Tsukuba
6. Part-time work at the University under the direction of faculty
7. Other part-time work at the University (not covered by answers 4 to 6)
8. Part-time teaching at another university

9. Contract work or agency work for a private company
10. Regular part-time work outside the University
11. Irregular part-time work outside the University
12. Savings
13. Loans
14. Research grant
15. Others

⊙If you selected 15 (Others) in Q7, specify your main source of income.

Q8. Is your income enough for your living costs and research expenses in a typical month? Select only one answer.

1. More than enough
2. Enough
3. Just enough
4. Not enough

If you selected 4 (not enough) in Q8, answer Q8-1.

Q8-1. Which of your living costs, research expenses, etc. can you not afford? Select all answers that apply.

1. I cannot afford tuition fees
2. Because I need time for research, I cannot do part-time work
3. I cannot afford research materials or books
4. I cannot participate in an academic society or research society
5. I cannot conduct surveys for research
6. I cannot afford fees for submission, reviewing and publication of academic papers
7. Others

⊙If you selected 7 (Others) in Q8-1, give specific examples of what you are lacking.

If you have done casual work outside the University since April 2017, answer Q9.

Q9. What kind of work did you do? Select all answers that apply.

1. Private tutoring
2. Cram school teaching or remote learning support
3. Administrative work
4. Specialist work (translation, interpreting, sports coaching, etc.)
5. Restaurant work
6. Light work other than restaurant work (surveys, delivery, sales, etc.)
7. Heavy work (house-moving, construction, etc.)
8. Others

⊙If you selected 8 (Others) in Q9, enter the kind of work.

If you have done casual work outside the University since April 2017, answer Q10.

Q10. Why did you take part-time work? Select all answers that apply.

1. To pay for study or living costs

2. To pay for circle activities
3. To pay for leisure activities or foreign travel
4. To learn skills
5. To find friends
6. Others

◎If you selected 6 (Others) in Q10, enter the reason.

If you have done any part-time work outside the University since April 2017, answer Q11.

Q11. Has the time you spend working interfered with your learning or research? Select only one answer.

1. Very much
2. A little
3. No

Q12. Where are you currently living? Select only one answer.

1. Student residence hall
2. Private apartment or similar
3. With parents
4. A relative or acquaintance's home
5. Others

If you selected any of 2 to 5 in Q12, answer Q12-1.

Q12-1. Would you like to live in a student residence hall?

- Yes No

If you selected any of 2 to 5 in Q12, answer Q12-2.

Q12-2. Which area do you currently live in? Select only one answer.

- (A) Tsukuba City other than the student residence halls
(1. Amakubo 2. Kasuga 3. Sakura 4. Shibasaki 5. Azuma 6. Other)
- (B) Ibaraki Prefecture other than Tsukuba
(1. South Ibaraki District 2. West Ibaraki District 3. Other)
- (C) Kanto other than Ibaraki
(1. Tokyo Metropolis 2. Chiba Prefecture 3. Saitama Prefecture 4. Other)
- (D) Other (1. Other)
-

If you selected 1 (Student residence halls) in Q12, answer Q12-3.

Q12-3. Where is your residence hall and what type of room do you have? Select one of each.

①Area of student residence hall

1. Ichinoya
2. Hirasuna
3. Oikoshi
4. Kasuga

②Type of room

- 1. Single room
- 2. Family room
- 3. Twin room
- 4. Shared house

If you selected 1 (Student residence halls) in Q12, answer Q12-4.

Q12-4. How satisfied are you with the student residence hall? Select only one answer for each category.

- 1. Cost
- 2. Private room
- 3. Communal kitchen
- 4. Toilets
- 5. Laundry room
- 6. Bathroom
- 7. Coin-operated showers
- 8. Outside lighting
- 9. Entrance security
- 10. Shops and cafeterias
- 11. Admin office
- 12. Overall

- a. Very satisfied
- b. Fairly satisfied
- c. Neutral
- d. Fairly dissatisfied
- e. Very dissatisfied

1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____ 6 _____
7 _____ 8 _____ 9 _____ 10 _____ 11 _____ 12 _____

Q13. How do you spend a typical day and week?

A. How many hours a day do you spend on the following?

- ① Lectures, experiments, research, etc. in the University _____ hours
- ② Study other than lectures in the University _____ hours
- ③ Sleep _____ hours

B. How many hours in total in a typical week do you spend on the following?

- ① Lectures, experiments, research, etc. in the University _____ hours
- ② Study other than lectures in the University _____ hours
- ③ Circle activities, volunteer activities, etc. _____ hours
- ④ Part-time work, Working hours _____ hours

Q14. Are you satisfied with your daily life in general? Select only one answer.

- 1. Very satisfied
- 2. Fairly satisfied
- 3. Neutral
- 4. Fairly dissatisfied
- 5. Very dissatisfied

III. Daily Commuting and Accidents

Q15. How do you commute between home and the University? Select all answers that apply for both wet days and dry days.

①Wet days

1. Walking
2. Bicycle
3. Motorbike (including scooters)
4. Private car
5. Campus transport system (University Loop-line On-campus Bus)
6. Other local bus
7. Tsukuba Express (TX)
8. JR Joban line
9. Others

◎If you selected 9 (Others) in ① of Q15, specify how you commute.

②Dry days

1. Walking
2. Bicycle
3. Motorbike (including scooters)
4. Private car
5. Campus transport system (University Loop-line On-campus Bus)
6. Other local bus
7. Tsukuba Express (TX)
8. JR Joban line
9. Others

◎If you selected 9 (Others) in ② of Q7, specify how you commute.

Q16. How long does your commute take (for one way) usually except wet days? Select only one answer.

1. Less than 15 minutes
2. 15–29 minutes
3. 30–44 minutes
4. 45–59 minutes
5. 60–89 minutes
6. 90–119 minutes
7. More than two hours

Q17. How often do you use the campus transport system (University Loop-line On-campus Bus)? Select only one answer.

1. Nearly every day
2. Two or three times a week
3. A few times a month
4. A few times a year
5. A few times ever

6. Never

Q18. Have you been involved in a bicycle accident in the past one year (or since joining the Graduate school)? Select all answers that apply.

1. No traffic accident
2. I have caused a traffic accident
3. I have been the victim of a traffic accident
4. I have caused a self-incurred accident

⊙If you selected any of 2 to 4 in Q18, specify the location.

Q19. Have you been involved in a traffic accident (excluding bicycle accidents) in the past one year (or since joining the Graduate school)? Select all answers that apply.

1. No traffic accident
2. I have caused a traffic accident
3. I have been the victim of a traffic accident
4. I have caused a self-incurred accident

Q20. Have you had anything stolen since joining the Graduate school? Select all answers that apply.

1. No
2. Yes, on campus
3. Yes, off campus

⊙If you selected 2 or 3 of Q20, specify the stolen item and the place where the theft took place.

[Stolen item(s)] _____

[Location] _____

Q21. Have you been a victim of purse snatching, assault, extortion or similar since joining the Graduate school? Select all answers that apply.

1. No
2. Yes, on campus
3. Yes, in Tsukuba city
4. Yes, outside Tsukuba city

IV. Health

Q22. How has your health been in the past one year? Select all answers that apply.

1. Good health
2. Stayed at home for some days due to an illness
3. Was examined or stayed in hospital due to a physical illness
4. Was examined or stayed in hospital due to a mental problem
5. Used a counseling service for a psychological problem
6. Was examined or stayed in hospital due to injury
7. Others

Q23. What kinds of problems have you experienced in the past one year? Select all answers that apply.

1. Lack of progress in study or research

2. A problem with academic credits
3. Transferring to a different graduate school or program
4. Leave of absence or leaving university
5. Career planning
6. Job-hunting
7. Relationships with friends
8. Relationships with faculty
9. Problems in the laboratory
10. Problems in a club or circle
11. Romantic relationships
12. Family relationships
13. Personal character
14. Personal mental or psychological condition
15. Personal physical condition such as illness or injury
16. Money problems
17. Harassment
18. Others
19. Nothing particular

©If you selected 18 (Others) in Q23, write in details.

Q24. How well do these statements match how you have felt over the past one year? Select only one answer for each statement.

1. I can do what I want to do
2. I have some worries
3. There are people here who understand me
4. Nothing I do goes well
5. I feel depressed
6. I have wanted to die
7. My university life is fulfilling

- a. Definitely
- b. Fairly
- c. Not really
- d. Not at all

1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____ 6 _____ 7 _____

V. Availability of Advisers and Source of Information

Q25-1. Who do you talk to about important matters and seek advice from? Select up to three answers, starting with the person who is easiest to approach.

1. Easiest to approach
2. Second easiest
3. Third easiest

- a. Family member
- b. Romantic partner
- c. Friend (in the University)
- d. Friend (outside the University)
- e. Senior and junior colleagues (in the University)
- f. Senior and junior colleagues (outside the University)
- g. Faculty member
- h. Others
- i. Nobody in particular

1 _____ 2 _____ 3 _____

If you selected a to h in Q25-1, answer Q25-2.

Q25-2. How often can you talk to the people you identified in Q25-1 (including telephone and email)? Select only one answer for each person.

1. The easiest to approach
2. The second easiest
3. The third easiest

- a. Often
- b. Sometimes
- c. Occasionally
- d. Almost never

1 _____ 2 _____ 3 _____

Q26. When you want to find information about study, research or university life, to whom or where do you usually go? Select all answers that apply.

1. Academic advisor
2. Administrative staff for your Graduate school or program
3. Friends, etc.
4. Web bulletin board
5. TWINS bulletin board
6. The University website
7. Website for your Graduate school or program
8. Email list for your program or the like
9. SNS (social networking service)
10. Others

Q27. University of Tsukuba has organizations and systems where you can go for consultation regarding the problems that arise in student life. Have you used them? Select only one answer for each category.

1. Student Plaza General Consultation Service
2. Kasuga Area General Consultation Service
3. University Health Center, Student Counseling Room
4. Desk for career counseling (for students)
5. Work-life balance counseling room "Au"
6. University Health center 1F, Mental Health care (Psychiatry)
7. University Health center 2F, Health consultation (Internal medicine)

8. Desk for LGBT and other sexual minorities (Diversity section in DAC Center)
9. Support service for students with disabilities (Accessibility section in DAC Center)
10. International students consulting room
11. Harassment counseling center

- a. I have used this
- b. I have not used this but I know how to access it
- c. I have not used this but I am aware of it
- d. I have not used this and I was not aware of it

1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 6 _____ 7 _____ 8 _____ 9 _____ 10 _____ 11 _____

Q28. Which campus magazines do you regularly read? Select all answers that apply.

1. University of Tsukuba Newspaper
2. Tsukuba Students
3. Campus
4. Tsukuba Sports
5. TSUKUBA SPORTS NEWS FLASH (TSA)
6. Others
7. None

VI. Extra-Curricular Activities

Q29. How have you been active in a student group since entering graduate school? Select only one answer.

1. I am active as a group official member
2. I am active as a coach or similar
3. I am active in a way other than 1 or 2
4. I used to be active in a student group
5. I have never been active in a student group

If you selected any of 1 to 4 in Q29, answer Q29-1.

Q29-1. What motivates you to be active in a student group? Select all answers that apply.

1. To make friends
2. To gain knowledge and education
3. To keep health
4. To improve skills
5. To gain experience in group activities
6. To fill my interests
7. To make use of leisure time
8. To fill part of my recreation
9. To contribute for my chosen career
10. To contribute getting a job
11. To continue what I did as an undergraduate
12. To respond to the invitation
13. To contribute to society
14. Others

Q30. Have you been solicited to attend a religious group, a self improvement seminar or similar?

① Since joining the Graduate school, I have been solicited on campus.

- Yes No

② Since joining the Graduate school, I have been solicited off campus.

- Yes No

③ Since joining the Graduate school, I have seen/heard someone else being solicited on campus.

- Yes No

④ Since joining the Graduate school, I have seen/heard someone else being solicited off campus.

- Yes No

Q31. Have you participated in volunteer activities since joining the Graduate school? Select all answers that apply.

1. I have participated through a class or a seminar
2. I have participated through Tsukuba Action Project (T-ACT)
3. I have participated through student group activities
4. I have participated in another way
5. I have not participated but I would like to participate while I am at the Graduate school
6. I have no interest in volunteer activities

Q32. Have you participated in Tsukuba Action Project (T-ACT)? Select all answers that apply. (T-ACT is a student support organization that helps students to actualize their ideas or plans.)

1. I have been a planner or organizer for a T-ACT project
2. I have been a participant in a T-ACT project
3. I have taken the introductory course "Planning and Execution of the Tsukuba Action Project"
4. I have participated in a T-ACT event (such as an activity report meeting or a public symposium)
5. I have done something else with T-ACT
6. I have not participated but I would like to participate while I am in the Graduate school
7. I have no interest in T-ACT activities

Q33. Have you used the University's off-campus training centers (Yamanaka and Tateyama)? Select only one answer.

1. Yes
2. No
3. I don't know anything about them

VII. Career and Job-Hunting

Q34. What will you do after completing your course including your current hope? Select only one answer.

(A) Further education or similar

- (1. University of Tsukuba graduate school 2. Another graduate school in Japan
3. A graduate school in another country 4. Researcher, research student or similar (Japan Society for the Promotion of Science research student 5. Others)

(B) Employment

- (1. In a company 2. University teacher 3. Researcher
4. Teacher in elementary, junior or high school 5. As a public servant

6. Self-employment/entrepreneur 7. Others)

(C) Reinstatement in former position

(1. In a company 2. University teacher 3. Researcher

4. Teacher in elementary, junior or high school 5. As a public servant

6. Self-employment 7. Others)

(D) Others (1. Undecided 4. Haven't really considered 3. Others)

Q35. After graduation, do you want to work in another country? (International students: Do you want to work in Japan?) Select only one answer.

1. Definitely
2. I think so
3. I'm not sure
4. I think not
5. Definitely not

Answer Q36 if you are job-hunting now or have done job-hunting activities.

Q36. What are or will be the main factors in choosing your career? Select all answers that apply.

1. It will be worthwhile
2. To contribute to society
3. Annual income
4. Stability in life
5. Good work-life balance
6. It will suit my skills and talents
7. Deepening expertise in field
8. To use what I have learned in graduate school
9. To make use of my research in graduate school
10. Social status
11. Long-term prospects
12. Convenient work locations
13. Others

Answer Q37 if you are job-hunting now or have done job-hunting activities.

Q37. How do you feel about your future career (Career development)? Select only one answer for each statement.

1. I think a lot about my future career (Career development)
2. I have not thought seriously about working
3. My future career plans are not influenced by my surroundings
4. Achieving a fulfilling professional life is very much my responsibility
5. I have made specific plans for progress in my chosen career
6. I have decided what career I want but I have not done anything specific for it

- a. Definitely
- b. I think so
- c. I'm not sure
- d. I think not
- e. Definitely not

1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____ 6 _____

Answer Q38 if you are job-hunting now or have done job-hunting activities.

Q38. What are the most useful sources of information for job-hunting? Select all answers that apply.

1. Academic advisor
2. Career services committee for your program
3. Other students in seminars
4. Career Development Office/Division of Career Services
5. Website of Career Development Office/Division of Career Services
6. Job-hunting guidance in the University
7. Job listings magazine
8. Job listings website
9. Job-hunting events outside the University
10. Websites of businesses, government bodies, etc.
11. Internships
12. Alumni visits
13. Others

☉ If you selected 13 (Others) in Q38, enter details of the most useful sources of information.

Answer Q39 if you are job-hunting now or have done job-hunting activities.

Q39. Have you discussed your career after completing your course with your faculty advisor? Select only one answer.

1. We often talk about it
2. We sometimes talk about it
3. We rarely talk about it
4. We have never talked about it
5. I tried to talk about it but my faculty advisor refused
6. Others

Answer Q40 if you are job-hunting now or have done job-hunting activities.

Q40. Have your job-hunting activities interfered with your university study or research? Select only one answer.

1. Not at all
2. Very little
3. To some extent
4. Very much

VIII. Your Hopes and Expectations for University of Tsukuba

Q41. What is your main desire for the University's faculty? Select only one answer.

1. To be excellent researchers
2. Well-prepared lecture content
3. Teaching that is easy to understand
4. To make time for supervision
5. Sensitivity to harassment issues
6. To incorporate their research findings into teaching

- 7. Others
- 8. Nothing particular

☉If you selected 7 (Others) in Q41, specify what you desire.

Q42. What factors you like to see improved in our education or educational systems? Select all answers that apply.

- 1. Teaching and research staff
- 2. Curriculum
- 3. Extra-curricular teaching programs such as special lectures
- 4. The study abroad system
- 5. Job-hunting support
- 6. Venues for informal interaction with faculty
- 7. Financial support such as scholarships and tuition fee exemptions
- 8. Support for volunteer activities
- 9. Improvements in support services and administration
- 10. Support for mental health
- 11. Anti-harassment measures (organizations and processes)
- 12. Others

☉If you selected 12 (Others) in Q42, specify what you hope to be improved.

Q43. Which campus facilities particularly need to be expanded or improved? Select all answers that apply.

- 1. Teaching rooms and laboratories
- 2. Library
- 3. Computing facilities
- 4. Sports and fitness facilities
- 5. Facilities for extra-curricular activities
- 6. Security
- 7. Parking
- 8. Bicycle parking
- 9. University Loop-line On-campus Bus
- 10. Walking routes
- 11. Outside lighting
- 12. Others

☉If you selected 12 (Others) in Q43, specify where you like to be expanded or improved.

Q44. How satisfied are you with welfare facilities on campus? Select only one answer for each facility.

- 1. Cafeterias
- 2. Coffee shops
- 3. Bakeries
- 4. Food trucks
- 5. Bookshop
- 6. Art and craft supplies

7. Other shops
8. Vending machines

- a. Very satisfied
- b. Fairly satisfied
- c. Neutral
- d. Fairly dissatisfied
- e. Very dissatisfied

1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 6 _____ 7 _____ 8 _____

◎If you think any of the current welfare facilities are inconvenient or need improvement, enter a number from the following list of categories and a specific description. You can make multiple suggestions.

【List of categories】

1. Cafeterias
2. Coffee shops
3. Bakeries
4. Food trucks
5. Bookshop
6. Art and craft supplies
7. Other shops
8. Vending machines

【Description Example】

4. They should be sold in more locations.

1.

【Answer box】

Q45. Where do you want to see improvements in students' manners on campus? Select all answers that apply.

1. Driving
2. Bicycle parking
3. Alcohol drinking
4. Use of common spaces such as lounge areas
5. Smoking
6. Others
7. Nothing particular

◎If you selected 6 (Others) in Q45, specify what you expect for students to improve about.

Q46. If you have any requests or suggestions about teaching, research conditions and student life in general at the University of Tsukuba graduate schools, enter a number from the following list of categories and a specific description. You can make multiple suggestions.

【List of categories】

- (A) Systems (1. Curriculum 2. Support for student life 3. Financial support
4. Careers and job-hunting support 5. Others)
- (B) Faculty and Administrative staff
(1. Faculty 2. Administrative staff 3. Others)
- (C) Facilities (1. Study and research conditions 2. Computing 3. Library 4. Residence halls
5. Cafeterias and shops 6. Bicycle parking 7. Walking routes and roads 8. Others)
- (D) Others (1. Others)

【Description Example】

A5. Web bulletin board should be easier to read.

C2.

【Answer box】

This is the end of the survey.
Thank you very much for your cooperation.

筑波大学学生生活実態調査(大学院) 回答率について

回答率は、前回調査では 32.7%であったが、今回は 23.1%であった。調査方法を紙ベースから manaba を用いた Web 調査に変更したこともあり、回答率は大幅に下がってしまった。次回は Web 調査での回答率向上のために周知方法等を改善していく必要がある。

研究科別の回答率は、教育研究科、システム情報工学研究科、図書館情報メディア研究科が高く、人文社会科学研究科、生命環境科学研究科で低かった。

平成 29 年度 筑波大学学生生活実態調査 (大学院) 回答率

課程	研究科	教育研究科	人文社会科学研究科	数理物質科学研究科	システム情報工学研究科	生命環境科学研究科	人間総合科学研究科(筑波地区)	図書館情報メディア研究科	グローバル教育院	合計		
	課程											
在籍学生数 (平成二十九年九月十五日現在)	修士課程	修士課程 1 年次	108	23				79		210		
		修士課程 2 年次	96	44				86		226		
		博士前期 1 年次		73	278	507	278	302	63	6	1,507	
		博士前期 2 年次		104	272	509	314	377	71	13	1,660	
		一貫制博士 1 年次		40				16	81		8	145
		一貫制博士 2 年次		38				9	71		9	127
		小計	204	322	550	1,016	617	996	134	36	3,875	
	博士課程	博士後期 1 年次		27	42	67	109	71	12	4	332	
		博士後期 2 年次		27	62	53	80	79	16	9	326	
		博士後期 3 年次		84	74	100	158	229	50	2	697	
		一貫制博士 3 年次		17			4	80		20	121	
		一貫制博士 4 年次		24			5	130		22	181	
		一貫制博士 5 年次		92			6	0		28	126	
		3 年制博士課程 1 年次			14		5	45			64	
		3 年制博士課程 2 年次			9		5	51			65	
		3 年制博士課程 3 年次			17		4	125			146	
			小計		271	218	220	376	810	78	85	2,058
		合計	204	593	768	1,236	993	1,806	212	121	5,933	
	回収票数	修士課程	修士課程 1 年次	43	1				24		68	
修士課程 2 年次			19	6				13		38		
博士前期 1 年次				27	93	210	87	94	24	2	537	
博士前期 2 年次				15	56	111	35	65	21	1	304	
一貫制博士 1 年次				15				11	16		47	
一貫制博士 2 年次				12			1	6		3	22	
		小計	62	76	149	321	134	218	45	11	1,016	
博士課程		博士後期 1 年次		3	11	27	20	28	2	2	93	
		博士後期 2 年次		3	18	10	11	22	2	0	66	
		博士後期 3 年次		4	17	4	9	40	9	0	83	
		一貫制博士 3 年次		6			3	8		2	19	
		一貫制博士 4 年次		7			0	5		7	19	
		一貫制博士 5 年次		10			0	0		5	15	
		3 年制博士課程 1 年次			3		0	17			20	
		3 年制博士課程 2 年次			2		0	13			15	
		3 年制博士課程 3 年次			0		0	23			23	
			小計		33	51	41	43	156	13	16	353
		合計	62	109	200	362	177	374	58	27	1,369	
回収率		修士課程	修士課程 1 年次	39.8%	4.3%				30.4%		32.4%	
	修士課程 2 年次		19.8%	13.6%				15.1%		16.8%		
	博士前期 1 年次			37.0%	33.5%	41.4%	31.3%	31.1%	38.1%	33.3%	35.6%	
	博士前期 2 年次			14.4%	20.6%	21.8%	11.1%	17.2%	29.6%	7.7%	18.3%	
	一貫制博士 1 年次			37.5%				68.8%	19.8%		62.5%	
	一貫制博士 2 年次			31.6%				11.1%	8.5%		33.3%	
		小計	30.4%	23.6%	27.1%	31.6%	21.7%	21.9%	33.6%	30.6%	26.2%	
	博士課程	博士後期 1 年次		11.1%	26.2%	40.3%	18.3%	39.4%	16.7%	50.0%	28.0%	
		博士後期 2 年次		11.1%	29.0%	18.9%	13.8%	27.8%	12.5%	0.0%	20.2%	
		博士後期 3 年次		4.8%	23.0%	4.0%	5.7%	17.5%	18.0%	0.0%	11.9%	
		一貫制博士 3 年次		35.3%			75.0%	10.0%		10.0%	15.7%	
		一貫制博士 4 年次		29.2%			0.0%	3.8%		31.8%	10.5%	
		一貫制博士 5 年次		10.9%			0.0%	0.0%		17.9%	11.9%	
		3 年制博士課程 1 年次			21.4%		0.0%	37.8%			31.3%	
		3 年制博士課程 2 年次			22.2%		0.0%	25.5%			23.1%	
		3 年制博士課程 3 年次			0.0%		0.0%	18.4%			15.8%	
			小計		12.2%	23.4%	18.6%	11.4%	19.3%	16.7%	18.8%	17.2%
		合計	30.4%	18.4%	26.0%	29.3%	17.8%	20.7%	27.4%	22.3%	23.1%	

第1章 あなた自身について

問1. 社会人経験の有無について

問1-1. 現在の在職状況について

◎全体の23.1%が社会人の経験あり。

◎社会人経験者の5割が現在も在職または休職して大学院に在籍している。

「社会人の経験はありますか」の問いに対する回答は、「ある」23.1%、「ない」76.9%で全体の約4人に1人が社会人経験後に入学している。前回調査では、「ある」が19.7%で全体の約5人に1人が社会人経験者であったことから、社会人経験者は増加している。平成20年度の調査では20.6%、平成22年度の調査では22.4%と、前回、減少した分だけ回復したという結果であった。

男女別にみると、「ある」と答えた男性18.4%、女性30.6%、「ない」と答えた男性81.6%、女性69.4%で、女性の約3人に1人が社会人を経験した後に入学しているという結果であった。

研究科等別にみると、人間総合科学研究科では約半数が社会人経験を持っているのが特徴的で、次いで多いのが図書館情報メディア研究科であった。一方、社会人経験を持たない学生が多いのは数理物質科学研究科91.5%、システム情報工学研究科90.1%で、グローバル教育院85.2%がそれに続く。

問1-1では、社会人経験を持つ学生に対し、現在の在職状況について尋ねた。集計結果は、「在職中」44.3%、「休職中」5.7%、「退・辞職し、現在、定職はない」42.4%、「定職はなかった」1.9%、「その他」5.1%、「無回答」0.6%であった。社会人経験者の5割が現在、在職または休職して大学院に在籍しており、男女別にみても差はない。

研究科等別にみると、「在職中」が多いのは図書館情報メディア研究科73.7%で、7割以上が何かしらの職に就いたまま大学院に在籍している。また、教育研究科では「在職中」40.0%、「休職中」26.7%で、あわせると66.7%が在職または休職しながら大学院に在籍している。

表 1.1 社会人経験の有無【研究科等別、男女別、全体】

	社会人経験はない		社会人経験がある											
			在職中		休職中		退・辞職し、 現在、定職はない		定職はなかった		その他		無回答	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
教育研究科	47	75.8%	6	40.0%	4	26.7%	5	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
人文社会科学研究科	81	74.3%	6	21.4%	2	7.1%	17	60.7%	1	3.6%	2	7.1%	0	0.0%
数理物質科学研究科	183	91.5%	8	47.1%	1	5.9%	6	35.3%	1	5.9%	1	5.9%	0	0.0%
システム情報工学研究科	326	90.1%	13	36.1%	2	5.6%	21	58.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生命環境科学研究科	147	83.1%	13	43.3%	5	16.7%	11	36.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.3%
人間総合科学研究科	207	55.3%	80	47.9%	4	2.4%	66	39.5%	4	2.4%	12	7.2%	1	0.6%
図書館情報メディア研究科	39	67.2%	14	73.7%	0	0.0%	5	26.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
グローバル教育院	23	85.2%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
男性	690	81.6%	72	46.2%	8	5.1%	65	41.7%	1	0.6%	9	5.8%	1	0.6%
女性	363	69.4%	68	42.5%	10	6.3%	69	43.1%	5	3.1%	7	4.4%	1	0.6%
全体	1,053	76.9%	140	44.3%	18	5.7%	134	42.4%	6	1.9%	16	5.1%	2	0.6%

問 1-1-1. 職場の理解度について

- ◎「職場には秘密にしている」という者はほとんどいない。
- ◎教育研究科では、職場の制度を利用して入学する割合が高い。

問 1-1-1 では、問 1-1 で現在、「在職中」または「休職中」と回答した学生に対して、本学に入学することに関し、職場の理解が得られているか、複数選択で尋ねた。集計結果は、「学費の負担も含め、全面的に得られている」20.3%、「就学に支障のない程度に得られている」54.4%が多数を占めた。「職場には秘密にしている」と回答した割合は1.3%と低く、大半は職場の理解を得て大学院に入学していることがうかがえる。ただし、外国人留学生は、日本人学生と比べて職場の理解が得られている割合は16.8ポイントも低い。

研究科等別にみると、図書館情報メディア研究科が「就学に支障のない程度に得られている」85.7%と突出している。一方、教育研究科では「職場の休職制度を利用」40.0%、「職場の派遣制度を利用」30.0%と、職場の制度を利用して大学院に入学する割合が高い。

今回の調査結果を、平成 20 年度、22 年度、24 年度に行われた過去 3 回の調査結果と比較した経年変化をみると、比率が一番高い項目は「就学に支障のない程度に得られている」で、約 50%から 55%の間で V 字回復している。2 番目に高い項目は「学費の負担も含め、全面的に得られている」で、約 10%から約 20%まで増加しており、今回は前回調査と同程度で高止まりとなっている。一方で、「職場の休職制度を利用」と「職場の派遣制度を利用」は減少傾向にあり、これまでの調査結果と比較すると、職場の制度を利用することが難しくなってきていると推測される。

図 1.1 職場の理解【研究科等別、男女別、外国人留学生・日本人学生別、全体 (%)】

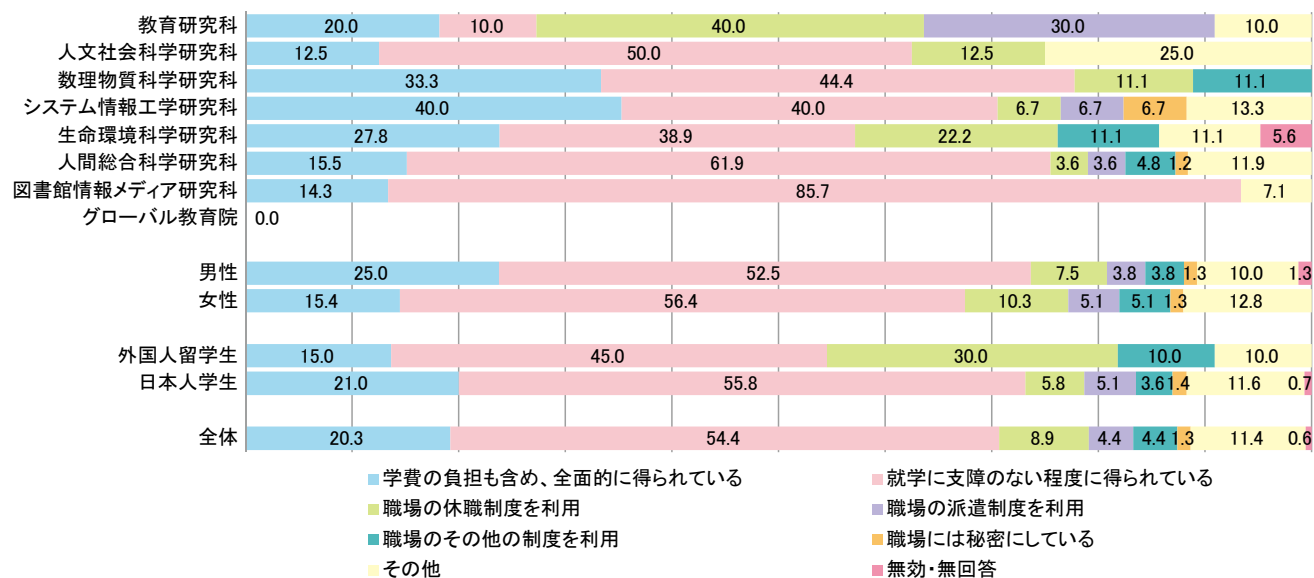
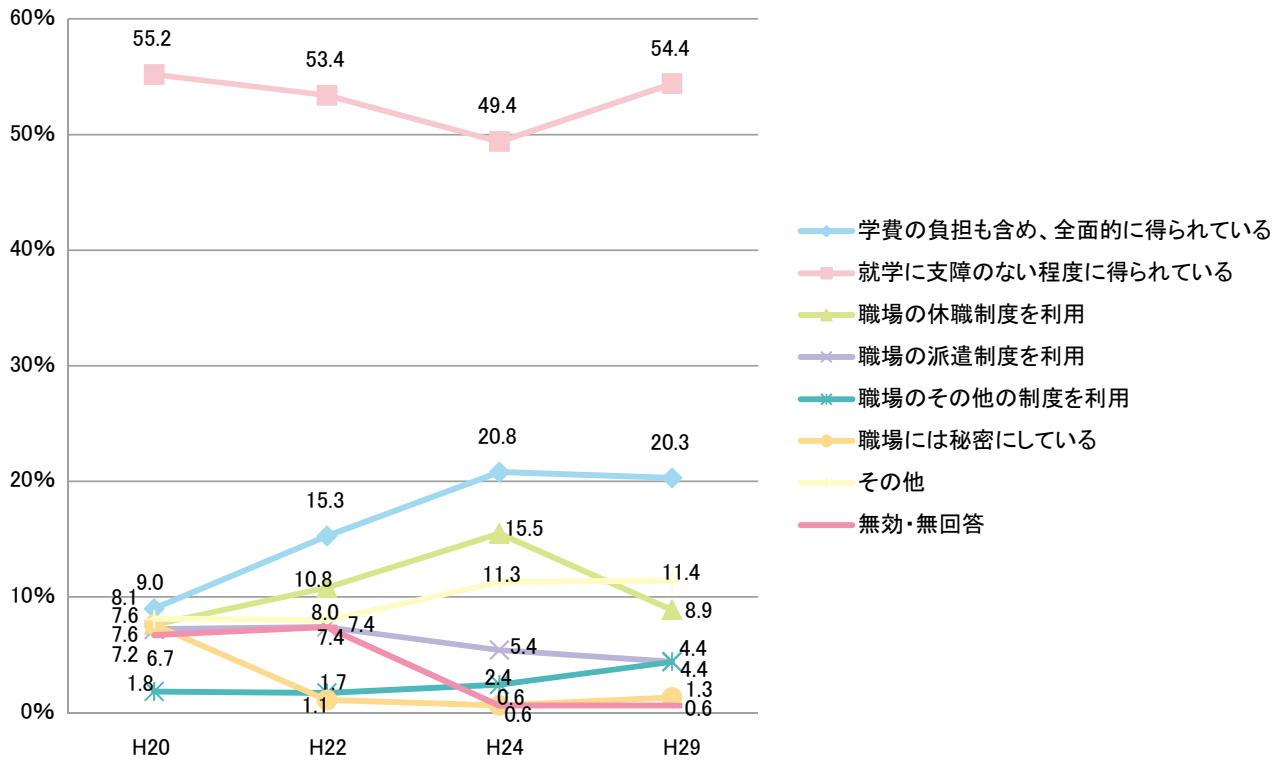


図 1.2 年度別推移【全体 (%)】



問 2. 筑波大学大学院を志望した理由について

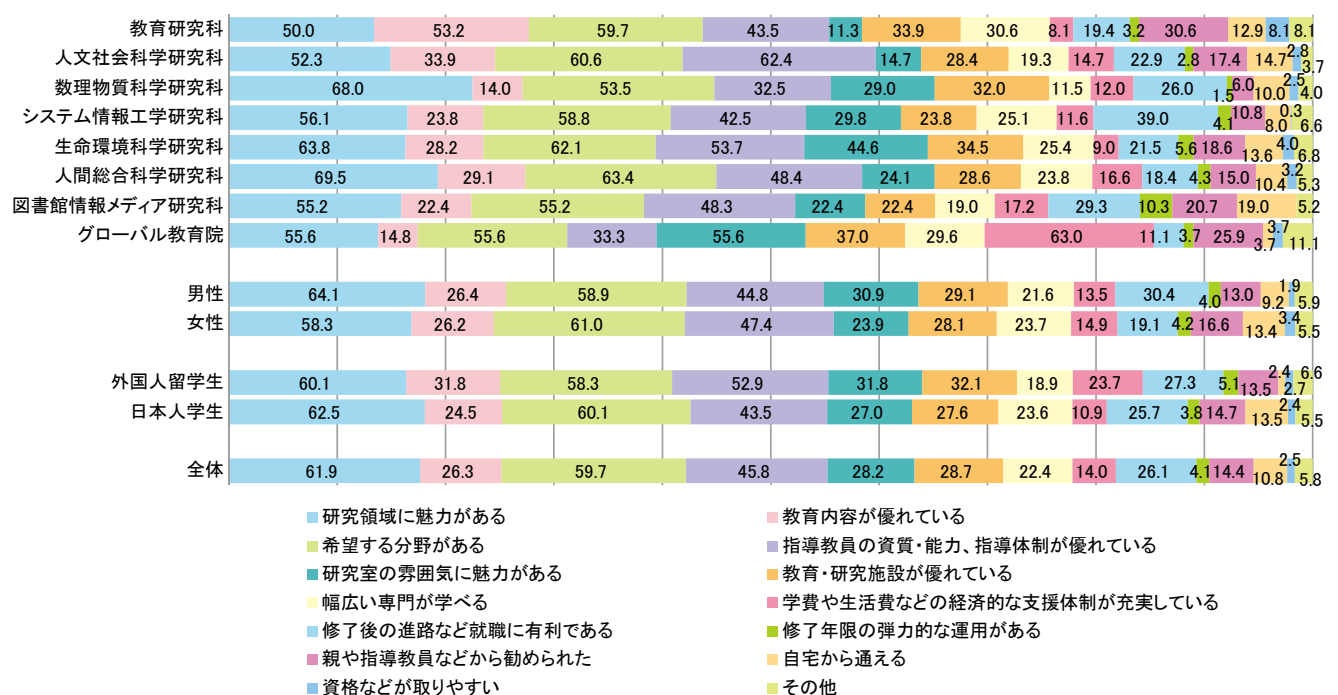
- ◎志望動機で最も多い理由は「研究領域に魅力がある」で全体の約6割。
- ◎学費等よりも研究環境に重きを置いて進学先を決めている。

筑波大学大学院を志望した理由について14項目の中からあてはまるものすべてを選択してもらった。集計結果は、志望動機の多い順に「研究領域に魅力がある」61.9%、「希望する分野がある」59.7%、「指導教員の資質・能力、指導体制が優れている」45.8%、「教育・研究施設が優れている」28.7%、「研究室の雰囲気に魅力がある」28.2%、「教育内容が優れている」26.3%、「修了後の進路など就職に有利である」26.1%、「幅広い専門が学べる」22.4%、「親や指導教員などから勧められた」14.4%、「学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している」14.0%、「自宅から通える」10.8%、「修了年限の弾力的な運用がある」4.1%、「資格などが取りやすい」2.5%、「その他」5.8%であった。

筑波大学大学院進学者の多くは、大学の教育・研究施設や学費等よりも、研究環境に重きを置いて進学先を決めていることがうかがえる。この傾向は男女別にみても差はなく、また、外国人留学生と日本人学生で比較しても差はない。

研究科等別にみると、研究科間に大きな差はないが、数理工学物質科学研究科では「研究領域に魅力がある」が68.0%と最も多く、教育研究科では「教育内容が優れている」が53.2%と他研究科等に比べて多くなっている。「希望する分野がある」が最も多いのは人間総合科学研究科63.4%で、生命環境科学研究科62.1%がそれに続く。「指導教員の資質・能力、指導体制が優れている」が最も多いのは人文社会科学研究所62.4%で、生命環境科学研究科53.7%がそれに続く。グローバル教育院は他研究科とはやや異なり、最も多かったのが「学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している」63.0%、次いで「研究室の雰囲気に魅力がある」55.6%で、一方、「教育内容が優れている」は14.8%と少ない。このように研究科等により志望動機に違いがみられた。

図 1.3 志望理由【研究科等別、男女別、外国人留学生・日本人学生別、全体 (%)】



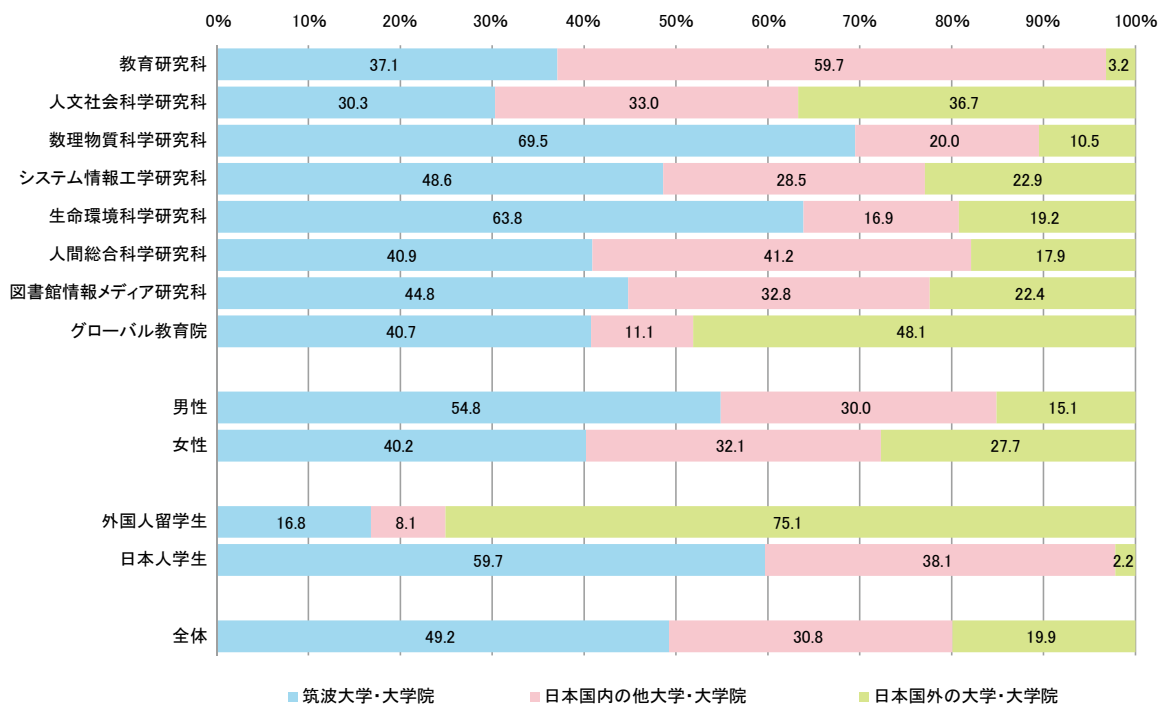
問3. 入学前に在籍していた大学または大学院について

- ◎全体の約半数が筑波大学・大学院出身。
- ◎外国人留学生の男女比をみると「筑波大学・大学院」からの進学者は男性の方が倍近く多い。
- ◎外国人留学生の約4人に1人が本学を含む国内の大学からの進学。

筑波大学大学院に入学する前に在籍していた大学・大学院について尋ねた。集計結果は、「筑波大学・大学院」49.2%、「日本国内の他大学・大学院」30.8%、「日本国外の大学・大学院」19.9%であった。前回調査では、それぞれ53.6%、30.2%、15.5%であったことから、海外からの入学者の割合が増加し、本学から進学する学生の割合が減少しているといえる。男女別にみると、「筑波大学・大学院」が男性54.8%、女性40.2%と男性が14.6ポイントも多い。「日本国内の他大学・大学院」は男性30.0%、女性32.1%とほとんど差はなく、「日本国外の大学・大学院」は男性15.1%、女性27.7%と女性が12.6ポイントも多い。外国人留学生の男女比では、「筑波大学・大学院」からの進学者は男性が倍近く多かった。外国人留学生と日本人学生で比較すると、「筑波大学・大学院」では外国人留学生16.8%、日本人学生59.7%、「日本国内の他大学・大学院」では外国人留学生8.1%、日本人学生38.1%、「日本国外の大学・大学院」では外国人留学生75.1%、日本人学生2.2%であった。外国人留学生の約4人に1人が本学を含む国内の大学からの進学であった。また、海外の大学から本学に入学してくる日本人学生は2.2%と少ない。

研究科等別にみると、筑波大学・大学院出身者が多い研究科は、数理物質科学研究科69.5%、生命環境科学研究科63.8%、システム情報工学研究科48.6%、図書館情報メディア研究科44.8%であるが、いずれも前回調査より減少している。教育研究科では、日本国内の他大学・大学院出身者が59.7%と高く、グローバル教育院ではそれが11.1%と低い代わりに、日本国外の大学・大学院出身者が48.1%と突出して多い。

図1.4 入学前の在籍大学または大学院【研究科等別、男女別、外国人留学生・日本人学生別、全体 (%)】



第2章 生活全般について

問4. あなたの家族の主たる家計支持者について

◎主たる家計支持者は、「父親・母親」が約7割であった。

主たる家計支持者について、「あなた自身」「配偶者」「父親・母親」「両親以外の親族」「その他」の5択で調査した。全体では、「あなた自身」24.3%、「配偶者」4.8%、「父親・母親」70.1%、「両親以外の親族」0.3%、「その他」0.6%であった。

前回調査では、主たる家計支持者は、「父親・母親」が68.9%で、今回もほとんど同じ値であった。課程別では、修士課程相当で「あなた自身」と「配偶者」をあわせて16.9%であるが、博士課程相当では「あなた自身」と「配偶者」で64.3%と、博士課程相当では独立生計者が半数以上であった。

外国人留学生は、主たる家計支持者が「あなた自身」と「配偶者」で33.6%であった。前回調査では、46.1%であったことから、独立生計者が減少し、「父親・母親」からの仕送りの割合が増加したと考えられる。

表 2.1 主な家計支持者【課程別、外国人留学生・日本人学生別、全体】

	修士課程相当		博士課程相当		外国人留学生		日本人学生		全体	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
あなた自身	145	14.3%	187	53.0%	95	28.5%	237	22.9%	332	24.3%
配偶者	26	2.6%	40	11.3%	17	5.1%	49	4.7%	66	4.8%
父親・母親	837	82.4%	122	34.6%	214	64.3%	745	71.9%	959	70.1%
両親以外の親族	3	0.3%	1	0.3%	2	0.6%	2	0.2%	4	0.3%
その他	5	0.5%	3	0.8%	5	1.5%	3	0.3%	8	0.6%

問 5. 大学に希望する経済支援について

問 5-1. 一時貸付金を希望する理由について

◎約 9 割の学生が何らかの経済支援を希望している。

希望する経済支援について調査した。全体の約 9 割の学生が何らかの経済支援を希望しており、希望する経済支援は、「給付型（返還義務なし）奨学金」67.1%、「貸与型（返還義務あり）奨学金」15.9%、「授業料免除」65.2%、「一時貸付金」3.2%、「その他」1.8%、「特に希望しない」11.7%であった。

外国人留学生も約 9 割が何らかの経済支援を希望しており、最も多いのは「授業料免除」74.2%、次いで「給付型（返還義務なし）奨学金」67.9%であった。一方、日本人学生は「給付型（返還義務なし）奨学金」が66.9%で最も高く、「授業料免除」が62.4%と、外国人留学生とは順位が逆になっている。貸与型奨学金よりも給付型奨学金の拡充が必要である。

一時貸付金を必要とする理由について、「授業料のため」「生活費のため」「その他」から、複数選択で尋ねた結果、「授業料のため」65.9%、「生活費のため」72.7%、「その他」6.8%、無効・無回答 6.8%であった。

表 2.2 希望する経済支援【外国人留学生・日本人学生別、全体】

	外国人留学生		日本人学生		全体	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
給付型（返還義務なし）奨学金	226	67.9%	693	66.9%	919	67.1%
貸与型（返還義務あり）奨学金	24	7.2%	193	18.6%	217	15.9%
授業料免除	247	74.2%	646	62.4%	893	65.2%
一時貸付金	13	3.9%	31	3.0%	44	3.2%
その他	10	3.0%	14	1.4%	24	1.8%
特に希望しない	23	6.9%	137	13.2%	160	11.7%

問 6. 1ヶ月の平均的な収入について

◎全体では、「6万円未満」と回答した割合が35.4%。

1ヶ月の平均的な収入について尋ねた。全体では、「6万円未満」が35.4%で最も多く、前回調査と同じ値であったが、前々回は40.0%であった。6～9万円が19.8%、9～12万円が15.0%、12～15万円が12.1%と減少し、30万円以上が5.3%であった。

修士課程相当と博士課程相当の差が大きく、修士課程相当では40.9%が「6万円未満」で、「6～9万円未満」とあわせて64.5%が9万円未満であるが、博士課程相当では、9万円未満は28.1%で、約7割は9万円以上の収入であった。

図 2.1 1ヶ月の収入【全体 (%)】

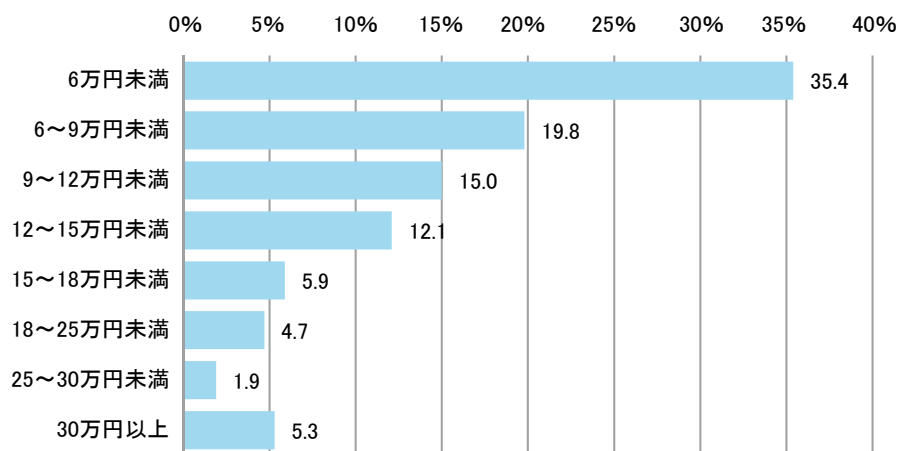
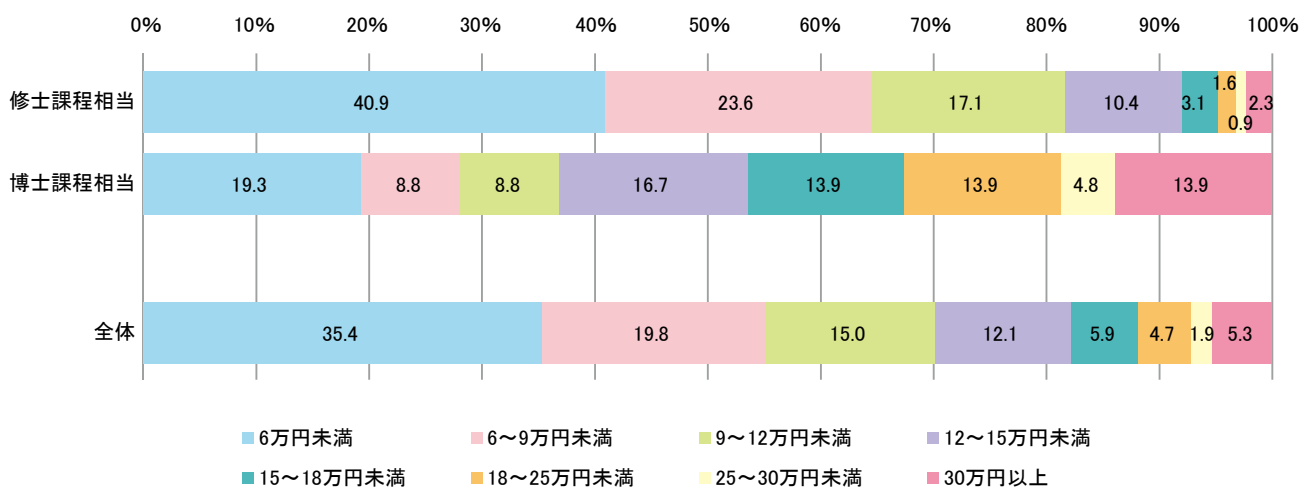


図 2.2 1ヶ月の収入【課程別、全体 (%)】



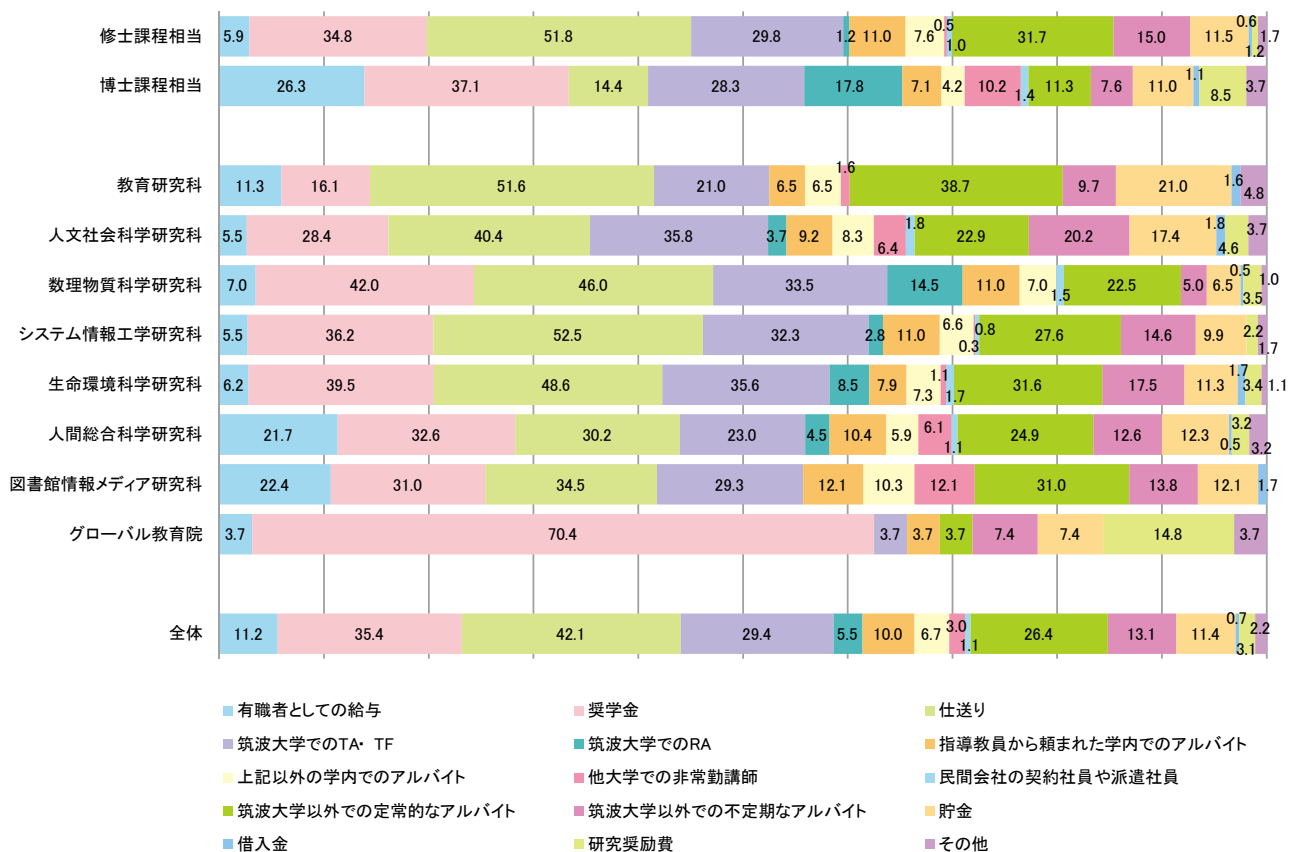
問7. 収入源について

◎「仕送り」は修士課程相当で51.8%、博士課程相当で14.4%と差がみられる。

収入源について、14項目から複数選択で回答を得た。集計結果は、「有職者としての給与」11.2%、「奨学金」35.4%、「仕送り」42.1%、「筑波大学でのTA・TF」29.4%、「筑波大学以外での定常的なアルバイト」26.4%などであった。

「奨学金」は前回調査の43.7%から8.3ポイントも減少しており、「仕送り」は前回調査の40.8%からやや増加した。研究科等別にみると、グローバル教育院の「奨学金」が70.4%と突出して大きく、「仕送り」はなく、アルバイトもほとんどしていないという特徴がみられる。「有職者としての給与」は、図書館情報メディア研究科、人間総合科学研究科、教育研究科で多い傾向にある。課程別では、「奨学金」はどちらの課程でも貴重な収入源になっており、また、「仕送り」は修士課程相当では51.8%、博士課程相当では14.4%と差が出ている。「筑波大学以外での定常的なアルバイト」は、修士課程相当31.7%に比べ、博士課程相当11.3%と半分以下であった。

図2.3 収入源【課程別、研究科等別、全体 (%)】

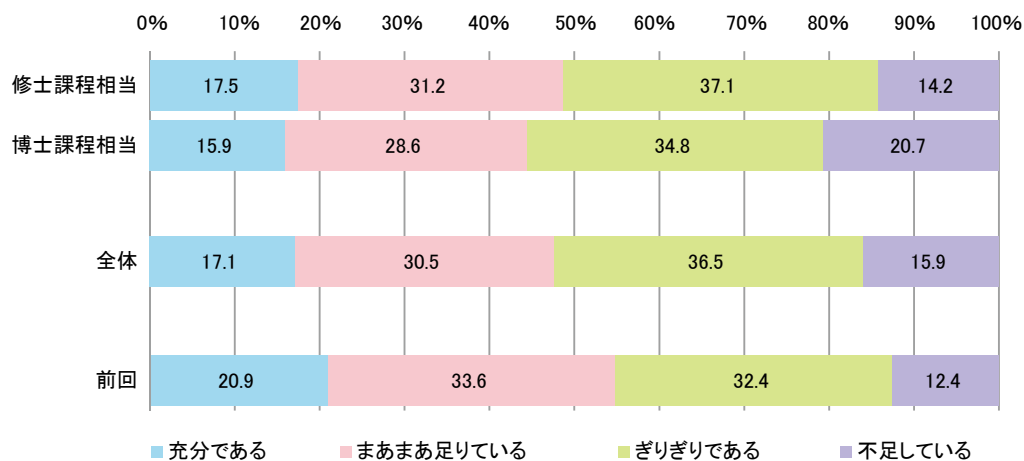


問 8. 1 ヶ月の生活費や研究活動費の充足度について

◎生活費や研究活動費などが「不足している」「ぎりぎりである」と回答した学生は52.4%で、前回調査から7.6ポイント増加している。

1か月の生活費や研究活動費などの充足度について、「充分である」「まあまあ足りている」「ぎりぎりである」「不足している」の4択で尋ねた。生活費や研究活動費などの充足度に関しては、全体で52.4%の学生が「ぎりぎりである」「不足している」と回答している。この傾向は、修士課程相当の学生よりも博士課程相当の学生で顕著である。前回調査では44.8%であったことから、生活費や研究活動費の不足の度合いが増していると言える。

図 2.4 生活費や研究活動費の充足度【課程別、全体、前回 (%)】

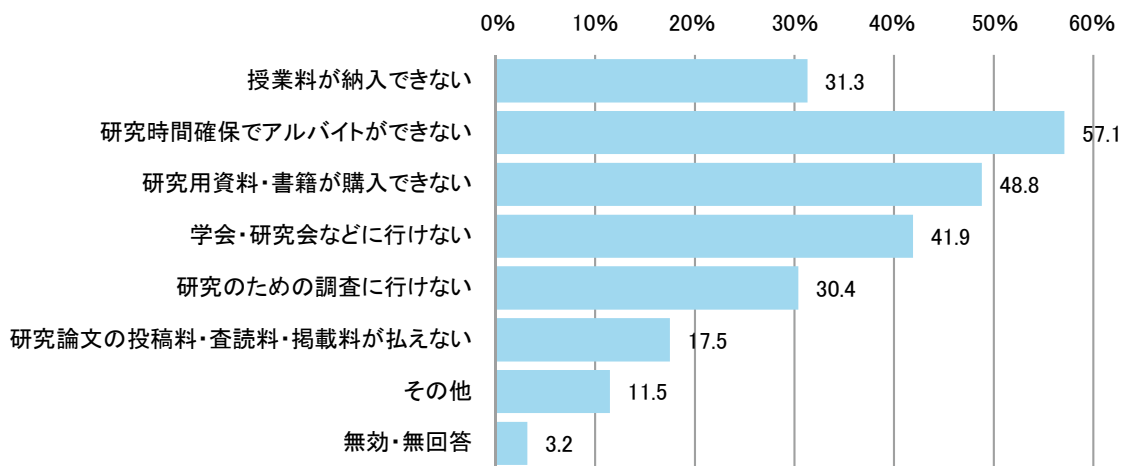


問 8-1. 生活費や研究活動費などで不足しているものについて

◎生活費や研究活動費などが不足している原因は、研究時間を確保するためにアルバイトができないこと。

生活費や研究活動費などが不足していると回答した者のうち、その原因について7項目をあげて、複数選択で尋ねたところ、約60%が「研究時間確保でアルバイトができない」と回答した。また、約50%が「研究用資料・書籍が購入できない」と回答し、「学会・研究会などに行けない」も約40%が回答している。

図 2.5 生活費や研究活動費などで不足しているものの内訳【全体 (%)】



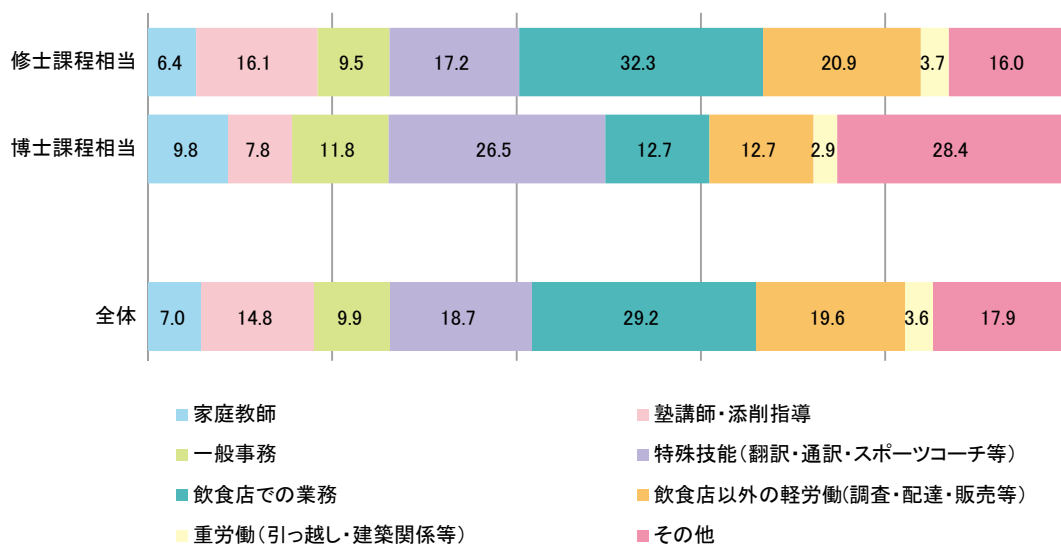
問 9. アルバイトの種類について

◎アルバイトは「飲食店での業務」が最も多く約 30%。

アルバイトの種類で最も多かったのは、「飲食店での業務」で 29.2%であった。「家庭教師」「塾講師・添削指導」「特殊技能（翻訳・通訳・スポーツコーチ等）」等の教育・特殊技能関連があわせて 40.5%である。

課程別にみると、修士課程相当では、「飲食店での業務」が最も多く 32.3%であるが、博士課程相当では、「特殊技能（翻訳・通訳・スポーツコーチ等）」が 26.5%と多く、「その他」も 28.4%と多いことから、選択項目以外の様々な職種のアルバイトをしていることがうかがえる。

図 2.6 アルバイトの種類【課程別、全体 (%)】



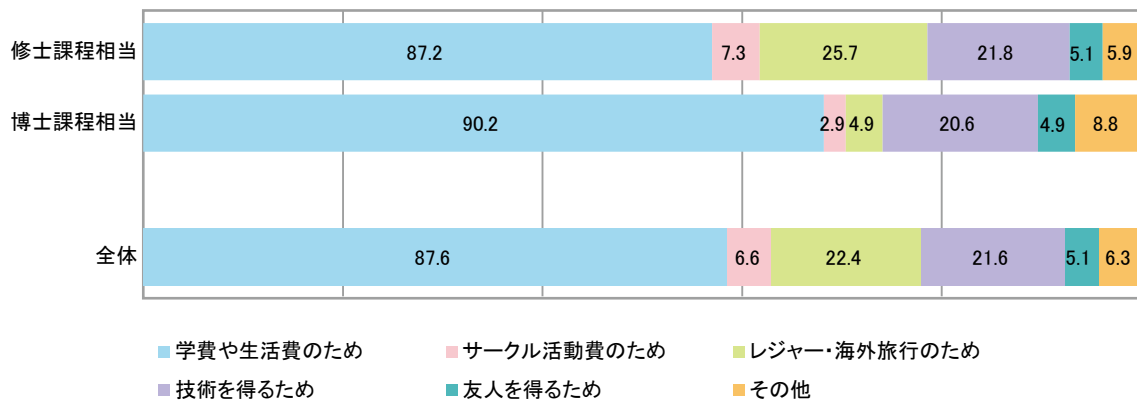
問 10. アルバイトをする理由について

◎アルバイトを行う理由は「学費や生活費のため」が最も多い。

アルバイトを行う理由を複数回答で尋ねた。選択肢は、「学費や生活費のため」「サークル活動費のため」「レジャー・海外旅行のため」「技術を得るため」「友人を得るため」「その他」の6択である。最も多いのは「学費や生活費のため」で87.6%であった。次いで「レジャー・海外旅行のため」22.4%、「技術を得るため」21.6%であった。

課程別にみると、博士課程相当では「レジャー・海外旅行のため」が4.9%と低く、修士課程相当とは、20.8ポイントもの差がある。

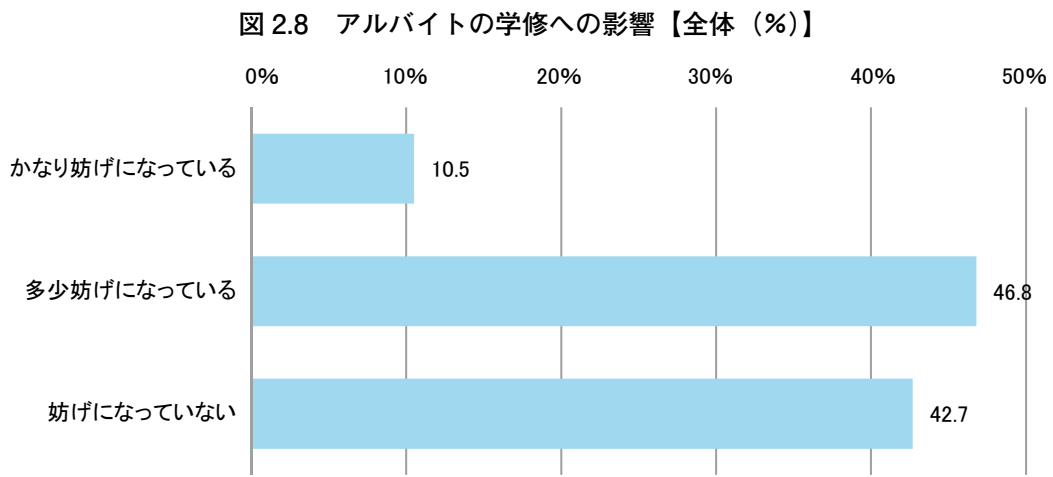
図 2.7 アルバイトをする理由【課程別、全体 (%)】



問 11. アルバイトの学修への影響について

◎アルバイトに費やされる時間が研究・学修の妨げになっているとの回答は約 60%。

アルバイトに費やされる時間は研究・学修の妨げになっているかを「かなり妨げになっている」「多少妨げになっている」「妨げになっていない」の3択で尋ねた。約 60%の学生がアルバイトに費やされる時間が研究や学修の「かなり妨げになっている」「多少妨げになっている」と回答している。



問 12. 現在の住まいについて

- ◎多くの学生が民間のアパートやマンションなどに住んでいる。
- ◎外国人留学生は学生宿舎に住む割合が大きい。

70%弱の学生が「民間のアパートやマンションなど」に住んでおり、男性は女性と比べてその割合が大きい。外国人留学生は54.1%が学生宿舎に居住しているが、日本人学生は6.6%と少なく、87.4%が「民間のアパート・マンションなど」と「親と同居」である。

経年変化をみると、「民間のアパート・マンションなど」は平成20年度に69.4%であったものが、平成29年度には66.3%まで減少した。一方、「学生宿舎」は平成20年度15.0%が平成29年度は18.1%に増加しており、近年の外国人留学生の増加が影響しているものと考えられる。

図 2.9 現在の住まい【男女別、外国人留学生・日本人学生別、全体 (%)】

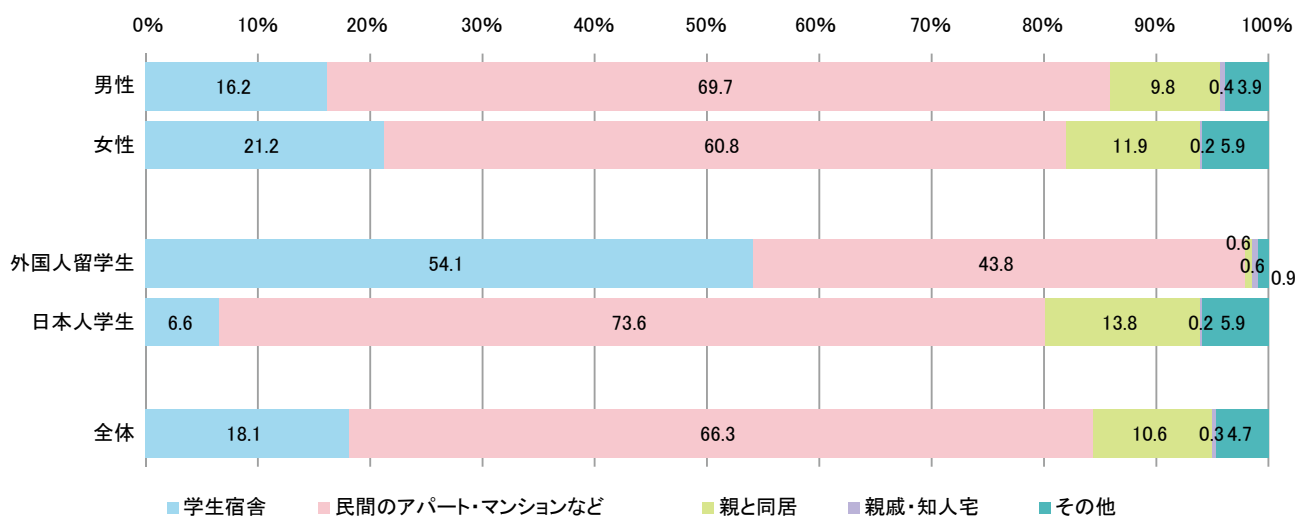
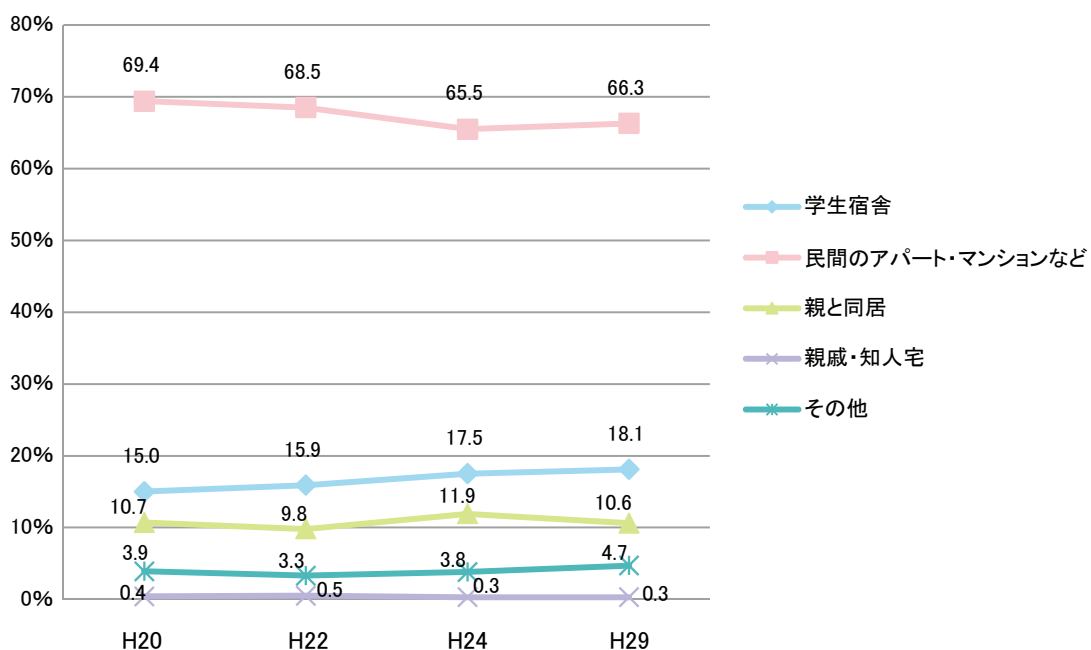


図 2.10 年度別推移【全体 (%)】

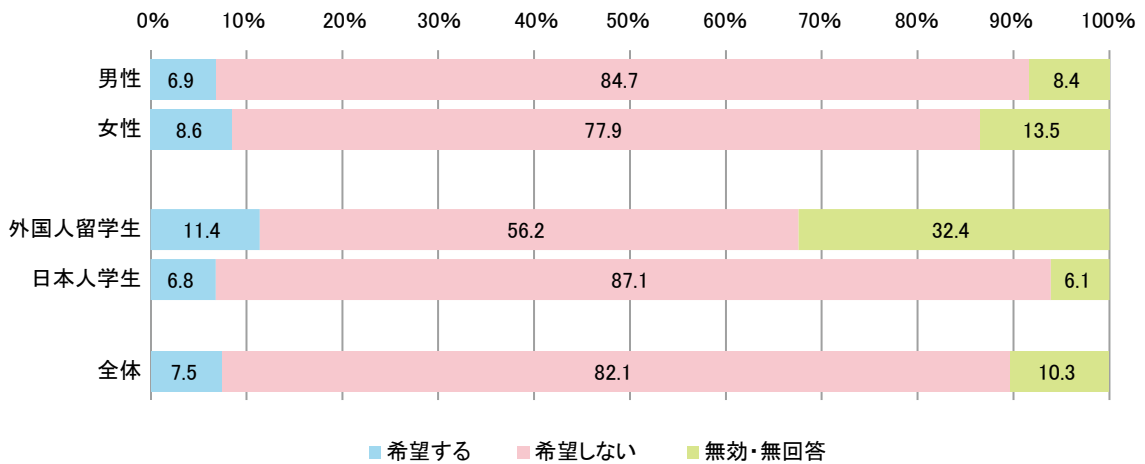


問 12-1. 学生宿舎への入居希望について

◎学生宿舎以外に住んでいる学生の多くが、学生宿舎への入居を希望していない。

学生宿舎以外に住んでいる学生に、学生宿舎への入居希望について尋ねた。82.1%の学生が学生宿舎への入居を希望しないと回答した。日本人学生では、87.1%の学生が学生宿舎への入居を希望しないと回答している。また、男女別にみると、女性と比べて男性が入居を「希望しない」と回答した割合がやや高い。

図 2.11 学生宿舎への入居希望【男女別、外国人留学生・日本人学生別、全体（％）】



問 12-2. 現在の居住地について

◎全体の約5割の学生がつくば市内の「天久保」と「春日」に住んでいる。

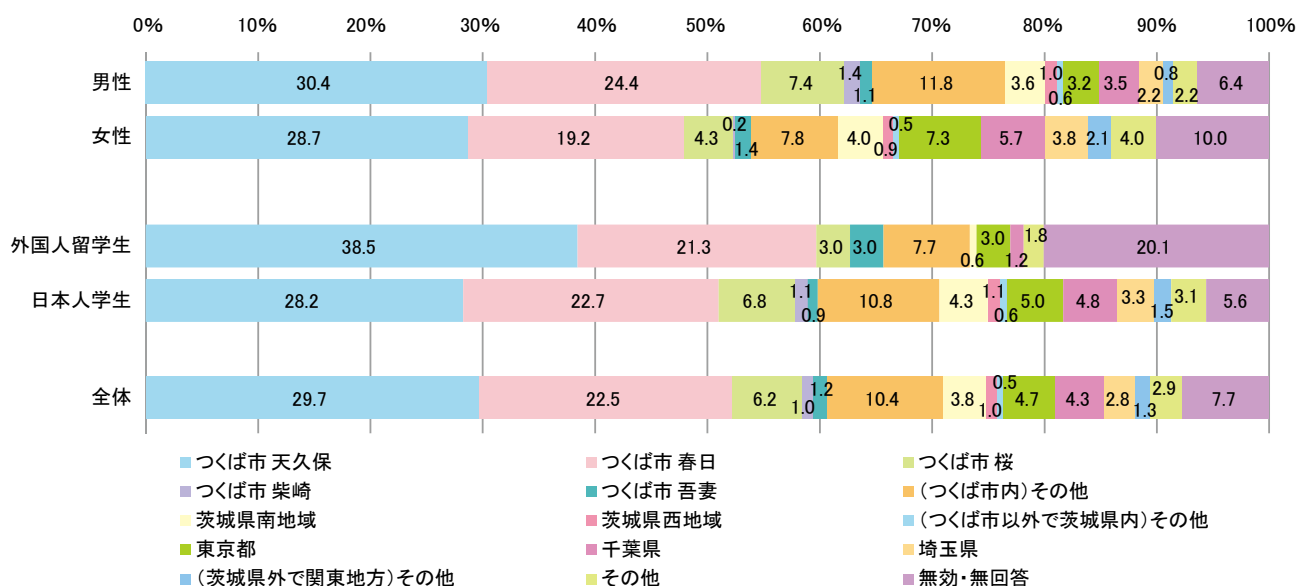
学生宿舎以外に住む学生に、現在の居住地を尋ねた。つくば市内では「天久保」29.7%、「春日」22.5%で最も多く、「桜」6.2%、「柴崎」1.0%、「吾妻」1.2%、「その他」10.4%であった。約半数の学生がつくば市内の「天久保」と「春日」に住んでいる。これは、男女別、外国人留学生・日本人学生別にみても差はない。市外では「茨城県南地域」3.8%、「茨城県西地域」1.0%、「茨城県内その他」0.5%であった。県外では「東京都」4.7%、「千葉県」4.3%、「埼玉県」2.8%、「茨城県外で関東地方その他」と「その他」で4.2%であった。

男女別にみると、男性は県内に住む学生が81.7%、県外に住む学生が11.9%で、女性はそれぞれ67.0%、22.9%と居住地に大きな差がみられた。外国人留学生はつくば市の「天久保」が38.5%で多い傾向がある。

表 2.3 現在の居住地【男女別、外国人留学生・日本人学生別、全体】

		男性	女性	外国人留学生	日本人学生	全体
県内	つくば市天久保	30.4%	28.7%	38.5%	28.2%	29.7%
	つくば市春日	24.4%	19.2%	21.3%	22.7%	22.5%
	つくば市桜	7.4%	4.3%	3.0%	6.8%	6.2%
	つくば市柴崎	1.4%	0.2%	0.0%	1.1%	1.0%
	つくば市吾妻	1.1%	1.4%	3.0%	0.9%	1.2%
	つくば市その他	11.8%	7.8%	7.7%	10.8%	10.4%
	茨城県南地域	3.6%	4.0%	0.6%	4.3%	3.8%
	茨城県西地域	1.0%	0.9%	0.0%	1.1%	1.0%
	その他	0.6%	0.5%	0.0%	0.6%	0.5%
県外	東京都	3.2%	7.3%	3.0%	5.0%	4.7%
	千葉県	3.5%	5.7%	1.2%	4.8%	4.3%
	埼玉県	2.2%	3.8%	0.0%	3.3%	2.8%
	茨城県外で関東地方その他	0.8%	2.1%	0.0%	1.5%	1.3%
	その他	2.2%	4.0%	1.8%	3.1%	2.9%
無効・無回答	6.4%	10.0%	20.1%	5.6%	7.7%	

図 2.12 現在の居住地【男女別、外国人留学生・日本人学生別、全体 (%)】



問 12-3. 入居している学生宿舎について

問 12-4. 学生宿舎の満足度について

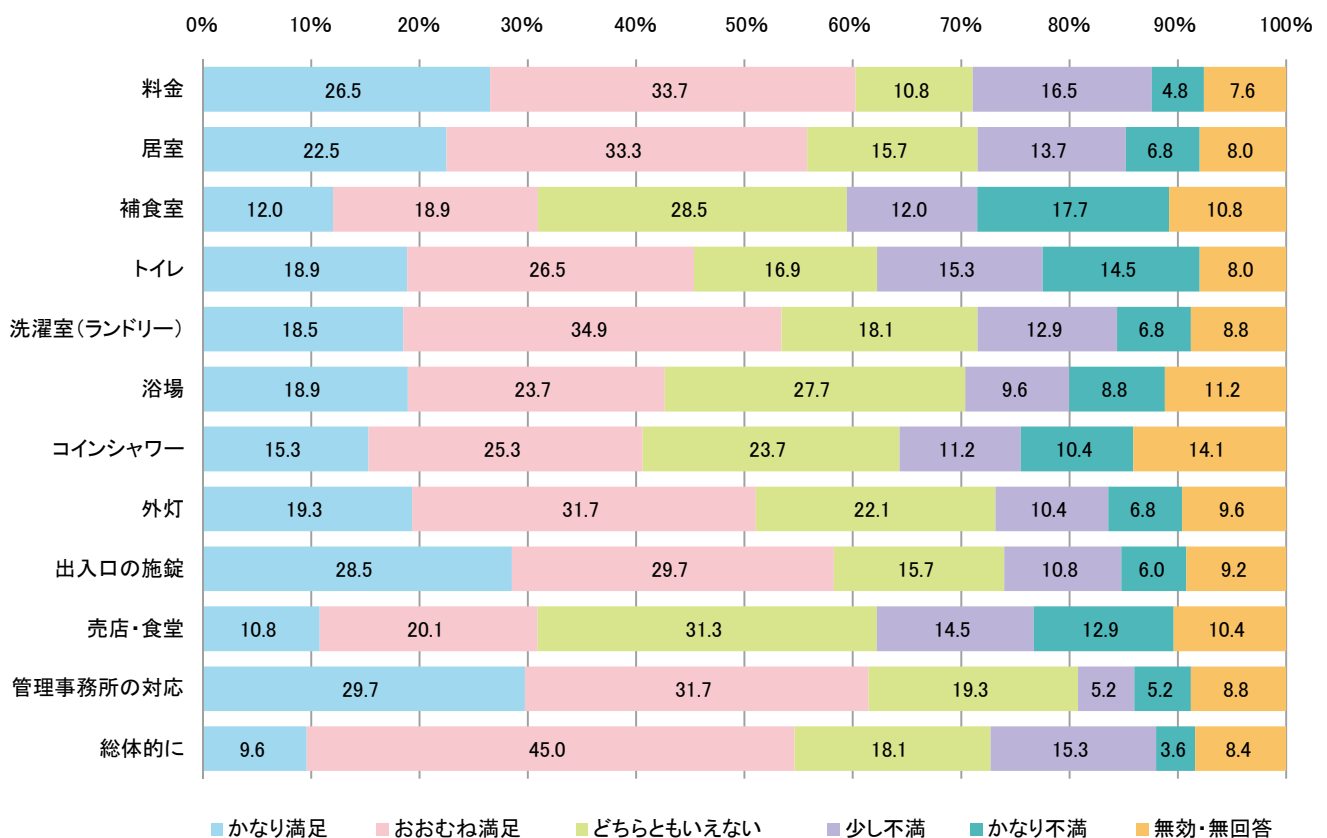
◎学生宿舎の満足度調査で、「かなり満足」「おおむね満足」と回答した割合が54.6%。

問 12 で学生宿舎に入居していると答えた学生の宿舎地区別の割合は、「一の矢地区」28.2%、「平砂地区」20.4%、「追越地区」37.3%、「春日地区」0.8%である。居室のタイプ別では、「単身宿舎」65.0%、「世帯宿舎」6.2%、「二人室」9.7%、「シェアハウス」6.2%、無効・無回答が12.8%であった。

学生宿舎の満足度は、総体的に「かなり満足」9.6%、「おおむね満足」45.0%、「どちらともいえない」18.1%、「少し不満」15.3%、「かなり不満」3.6%、「かなり満足」と「おおむね満足」をあわせると54.6%であった。

最も満足度が高い項目は、「管理事務所の対応」61.4%、次いで「料金」60.2%、「出入口の施錠」58.2%である。満足度が最も低かったのは、「売店・食堂」と「補食室」でいずれも30.9%であった。

図 2.13 学生宿舎満足度【全体 (%)】



問 13. 平均的な 1 日または 1 週間の過ごし方について

◎多くの時間を大学の授業・実習・研究等の時間、および授業以外の学習時間に使っている。

平日の 1 日または 1 週間の過ごし方について尋ねた。

1 日の過ごし方は、「大学の授業・実習・研究等の時間」6.6 時間、「授業等以外の学習時間」2.7 時間、「睡眠時間」6.7 時間であった。

1 週間の過ごし方では、「大学の授業・実習・研究等の時間」36.4 時間、「授業等以外の学習時間」15.8 時間、「サークル・ボランティアなどの活動時間」1.9 時間、「アルバイト・就業時間」9.7 時間で、「大学の授業・実習・研究等の時間」「授業以外の学習時間」をあわせて 52.2 時間を使っており、おおむねの活動時間を授業や研究に使っている様子がうかがえる。

図 2.14 1 日の過ごし方【全体平均（時間）】

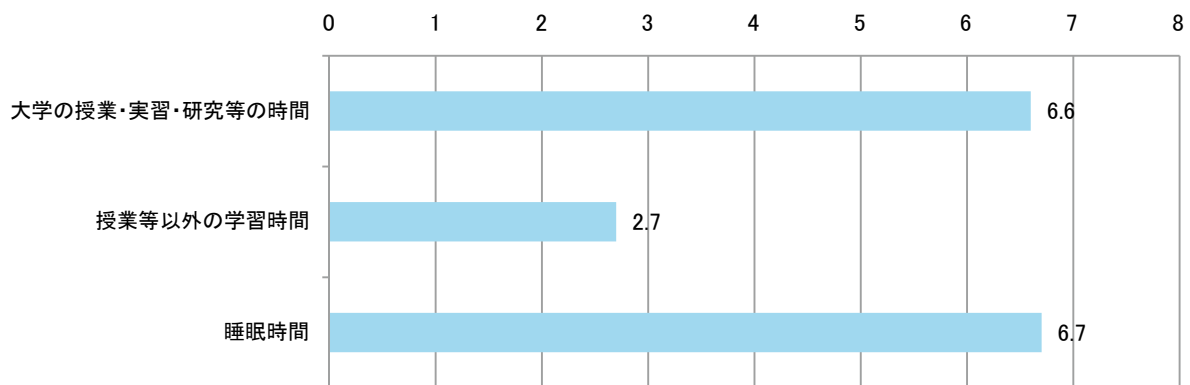
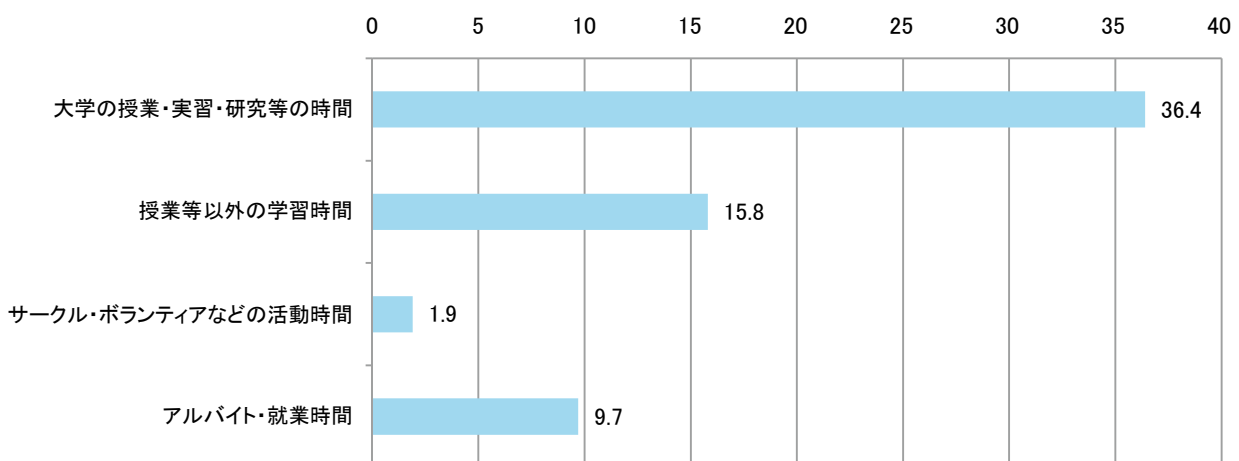


図 2.15 1 週間の過ごし方【全体平均（時間）】



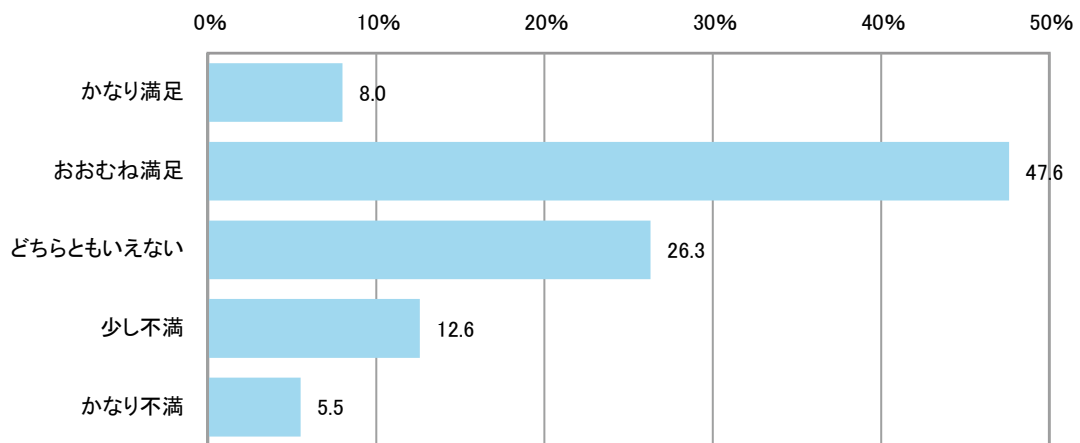
問 14. 日常生活の満足度について

◎現在の日常生活に 55.6%が「かなり満足」「おおむね満足」と回答している。

現在の日常生活に全体として満足しているかを「かなり満足」「おおむね満足」「どちらともいえない」「少し不満」「かなり不満」の5択で尋ねた。

55.6%が現在の日常生活に「かなり満足」「おおむね満足」と回答している。

図 2.16 日常生活の満足度【全体 (%)】



第3章 通学・事故等について

問 15. 通学時の交通手段について

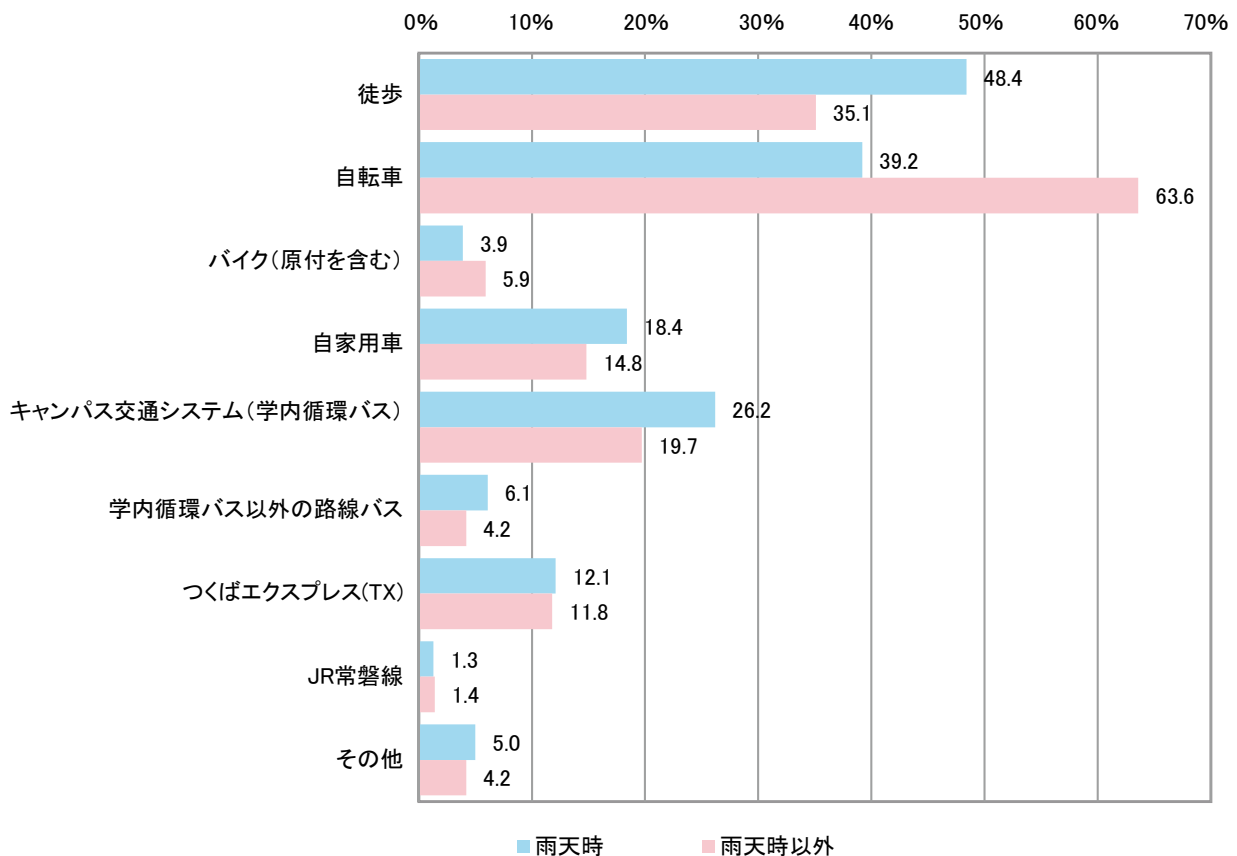
- ◎ほとんどの学生が徒歩か自転車で通学。
- ◎雨天時でも約4割の学生が自転車を利用。
- ◎前回調査と比べて、つくばエクスプレスの利用が微増。

雨天時以外および雨天時の通学の手段について、「徒歩」「自転車」「バイク（原付を含む）」「自家用車」「キャンパス交通システム（学内循環バス）」「学内循環バス以外の路線バス」「つくばエクスプレス（TX）」「JR常磐線」「その他」の9項目を選択肢としてあげ、複数回答方式で調査した。

雨天時以外では「自転車」の利用が最も多く63.6%、次いで「徒歩」35.1%、「キャンパス交通システム（学内循環バス）」19.7%であった。雨天時では、「徒歩」での通学が最も多く48.4%、「自転車」39.2%であった。天候にかかわらず「自転車」の利用は多く、駐輪マナーや交通違反など改善を図る課題は多々あり、安全対策、安全教育を入念に行わなければならない。特に、雨天時の自転車利用が4割近くあり、傘さし運転による事故やスリップなどのリスクも高まることが想定されるため、注意喚起が必要である。なお、自転車の利用率は、前回調査の雨天時以外68.0%、雨天時40.8%より減少している。

「キャンパス交通システム（学内循環バス）」は雨天時以外19.7%、雨天時26.2%で、前回調査の雨天時以外18.3%、雨天時26.6%とほぼ変わらなかった。「つくばエクスプレス（TX）」は、雨天時以外11.8%、雨天時12.1%で、前回調査の雨天時以外10.2%、雨天時10.5%から微増であった。

図 3.1 通学時の交通手段【全体 (%)】



問 16. 雨天時以外の通学時間について

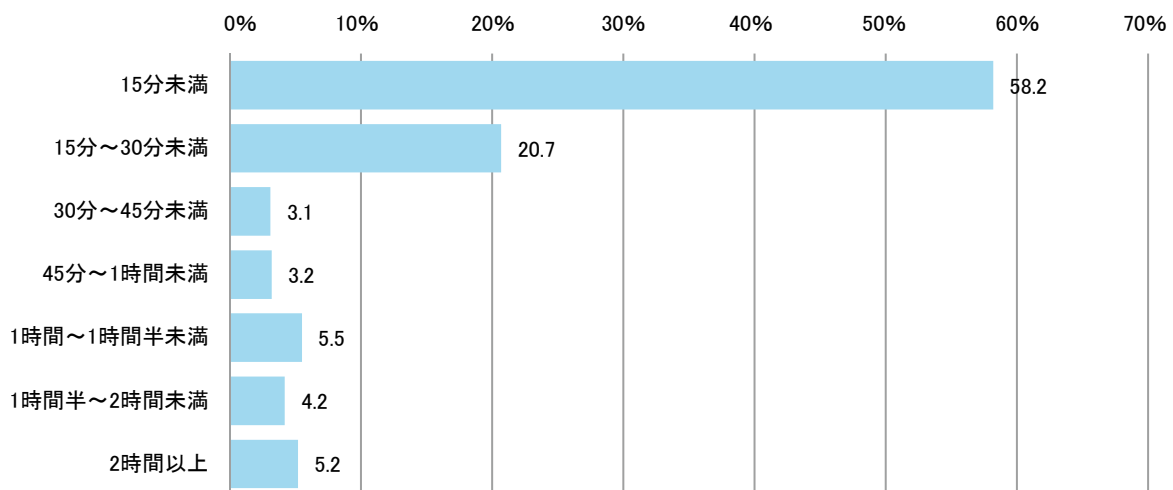
- ◎約 8 割の学生が 30 分未満の通学時間。
- ◎通学時間が 1 時間以上の学生は約 15%。

雨天時以外の通学時間について、「15分未満」「15分～30分未満」「30分～45分未満」「45分～1時間未満」「1時間～1時間半未満」「1時間半～2時間未満」「2時間以上」の7項目を選択肢としてあげ、単一選択方式で尋ねた。

最も多かったのは、「15分未満」58.2%で、次いで「15分～30分未満」20.7%であった。通学時間が30分未満の学生は8割近くに達し、ほとんどの学生が大学近辺に居住していることが推察される。前回調査では、「15分未満」61.6%、「15分～30分未満」20.4%で、今回調査との大きな変化はみられなかった。

通学時間が30分以上の学生は21.2%で、1時間以上は14.9%であった。前回調査では、30分以上17.2%、1時間以上11.8%であったことから、近年、車や電車等で遠距離通学している学生が増加してきたことが推察される。

図 3.2 雨天時以外の通学時間【全体 (%)】



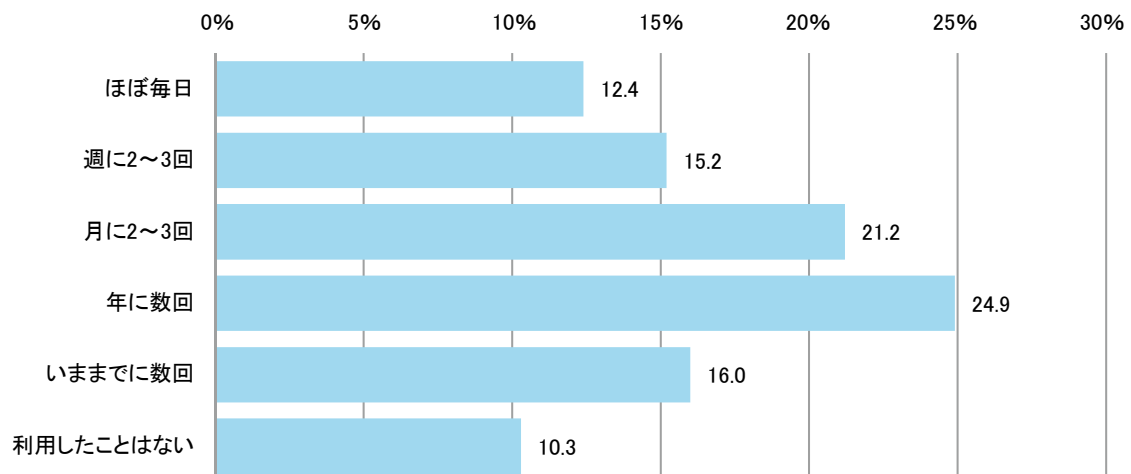
問 17. キャンパス交通システム（学内循環バス）の利用頻度について

◎約 3 割の学生が日常的に利用。

キャンパス交通システム(学内循環バス)の利用頻度について、「ほぼ毎日」「週に2～3回」「月に2～3回」「年に数回」「いままでに数回」「利用したことはない」の6項目を選択肢としてあげ、単一選択方式で尋ねた。

「年に数回」利用する学生が最も多く 24.9%、次いで「月に2～3回」が 21.2%であった。「ほぼ毎日」12.4%、「週2～3回」15.2%で、日常的に学内循環バスを利用している学生は3割近くいた。これは前回調査の「ほぼ毎日」10.2%、「週に2～3回」15.8%と比較すると、微増であった。「月に2～3回」以上の利用が48.8%と、約半数の学生の利用は認められるが、前回調査では50.6%で、1.8ポイント減少している。

図 3.3 キャンパス交通システム（学内循環バス）の利用頻度【全体（％）】



問 18. 自転車事故の経験について

- ◎ 6.1%の学生が自転車事故を経験。
- ◎ 女性の被害者が多い。

過去1年間（新生入生については大学院入学後）の自転車事故の経験について、「事故の経験はない」「加害者になったことがある」「被害者になったことがある」「自損事故の経験がある」の4項目を選択肢としてあげ、複数回答方式で尋ねた。

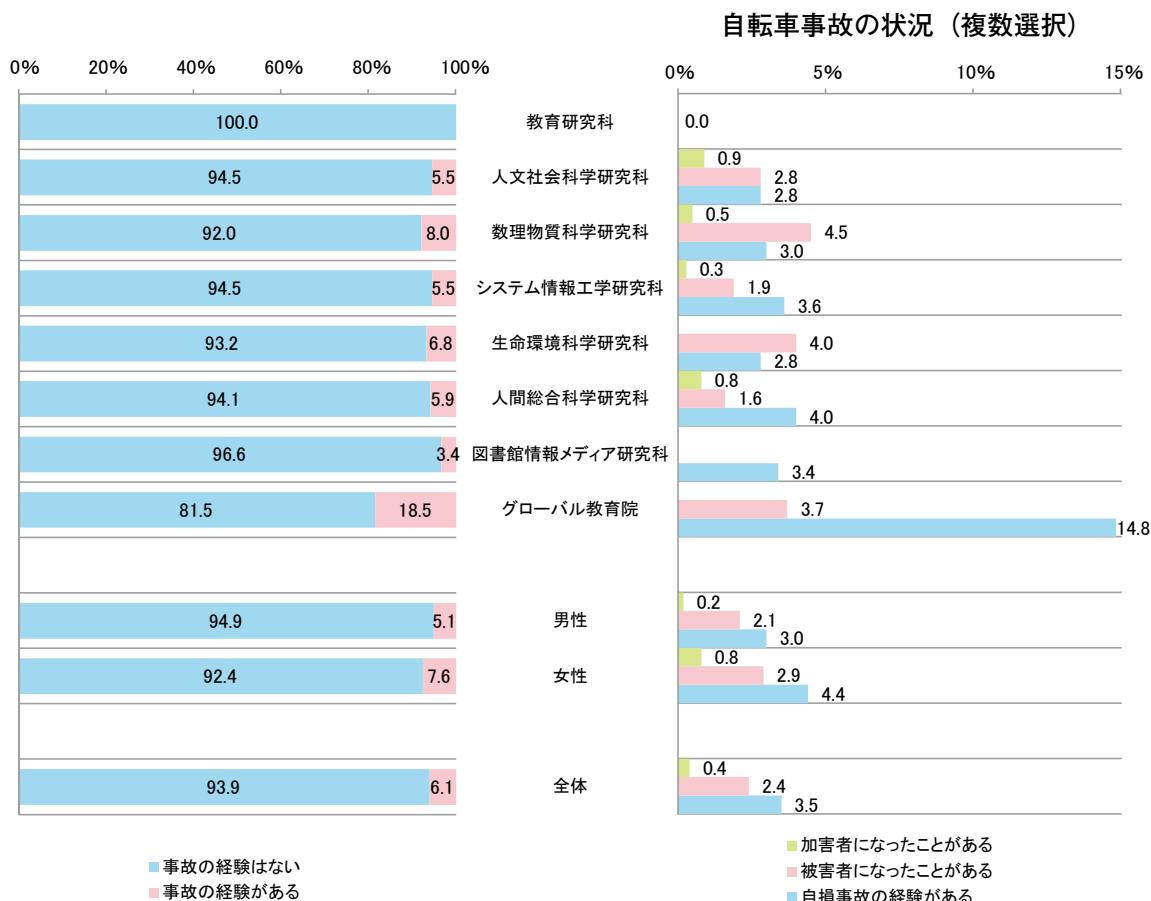
「事故の経験がない」学生は93.9%であった。

事故の経験がある者のうち、「自損事故の経験がある」3.5%、「被害者になったことがある」2.4%、「加害者になったことがある」0.4%であった。前回調査では、「事故の経験がない」94.4%で、今回の調査とほぼ変化はみられない。

男女別で見ると、「被害者になったことがある」学生は男性2.1%、女性3.3%と女性の方が多かった。この傾向は、前回調査でも確認でき、男性2.3%、女性3.2%で今回も同様の結果であった。

自転車を利用する学生は多く、事故を補償する保険への加入の促進やさらなる自転車運転の安全対策に取り組む必要がある。

図 3.4 自転車事故経験の有無【研究科等別、男女別、全体 (%)】



問 19. 交通事故（自転車事故を除く）の経験について

- ◎交通事故の経験がない学生は94.7%。前回調査より2.0ポイント向上。
- ◎交通事故を経験した学生は男性の方が多い。

過去1年間（新生入生については大学院入学後）の交通事故（自転車事故を除く）について、「事故の経験はない」「加害者になったことがある」「被害者になったことがある」「自損事故の経験がある」の4項目を選択肢としてあげ、複数回答方式で尋ねた。

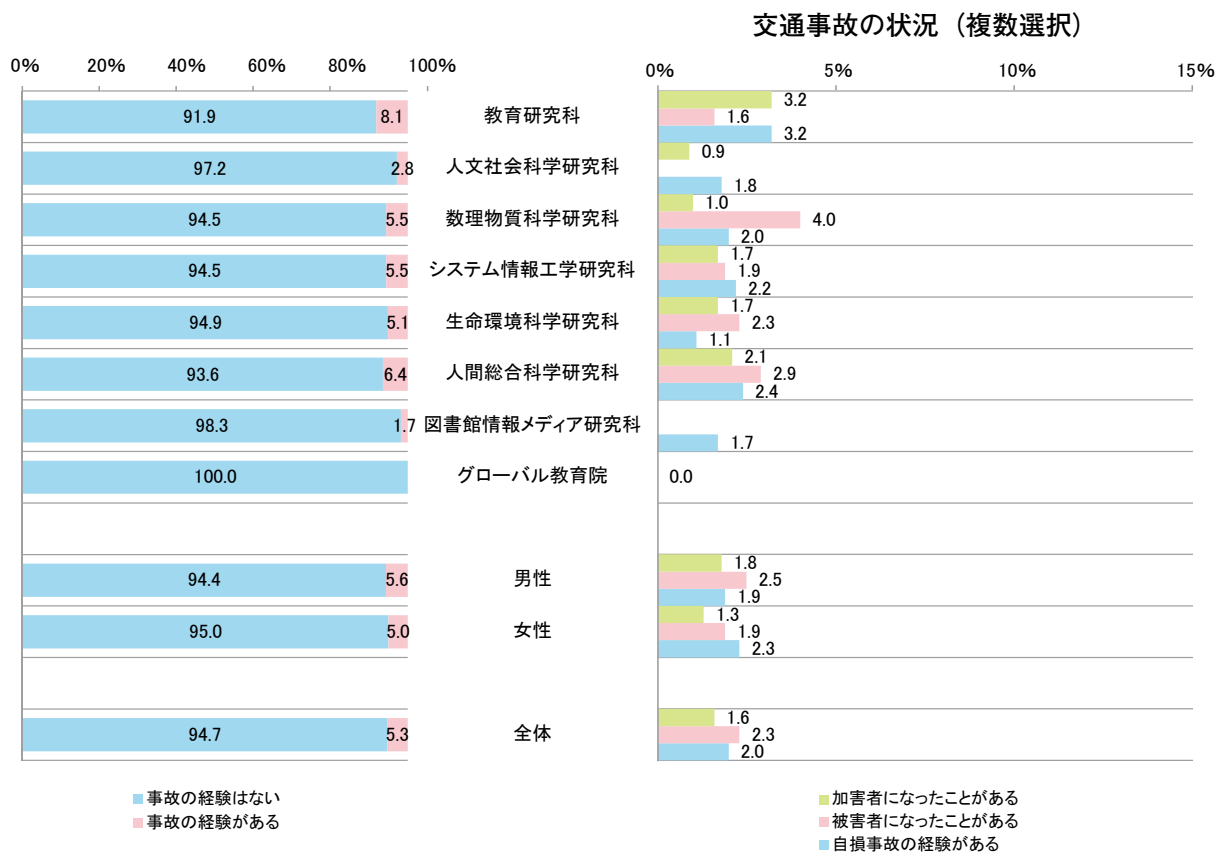
「事故の経験がない」学生は94.7%であった。

事故の経験がある者のうち、「被害者になったことがある」2.3%、「自損事故の経験がある」2.0%、「加害者になったことがある」1.6%であった。前回調査では、「事故の経験がない」92.7%で、前回調査より2.0ポイント向上した。「事故の経験がない」割合が100%に近づくよう、今後も継続した対策が必要である。

男女別でみると、交通事故を経験した学生（加害者、被害者、自損）は、男性5.6%、女性5.0%で、男性の方が若干多かった。この傾向は前回調査でも確認でき、男性7.3%、女性5.1%で今回も同様の結果であった。

大学院生は自家用車での通学者も増え、被害者だけでなく加害者となるリスクも高まることから、交通ルールの遵守や、安全運転の励行が求められる。

図 3.5 交通事故（自転車事故を除く）経験の有無【研究科等別、男女別、全体（%）】



問 20. 盗難被害について

- ◎約 1 割の学生が盗難の被害にあっている。
- ◎被害者の割合は減少。

大学院入学後の盗難被害について、「被害にあったことはない」「学内で被害にあった」「学外で被害にあった」の 3 項目を選択肢としてあげ、複数回答方式で尋ねた。

「被害にあったことはない」学生は 90.6%であった。

盗難の被害にあったことがある者のうち、「学内で被害にあった」5.8%、「学外で被害にあった」4.2%であった。盗難物は自転車が最も多く、次いで傘、現金であった。前回調査では、「被害にあったことがない」84.7%で、被害にあったことがない学生の割合は 5.9 ポイント上昇した。盗難被害の割合は改善したが、100%に近づけるよう今後も注意喚起を促すとともに、継続した対策が必要である。

表 3.1 盗難被害経験の有無【研究科等別、男女別、全体】

	回答数	被害にあったことはない		学内で被害にあった		学外で被害にあった	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
教育研究科	62	58	93.5%	2	3.2%	2	3.2%
人文社会科学研究科	109	96	88.1%	7	6.4%	6	5.5%
数理物質科学研究科	200	182	91.0%	10	5.0%	8	4.0%
システム情報工学研究科	367	329	90.9%	21	5.8%	17	4.7%
生命環境科学研究科	178	162	91.5%	11	6.2%	5	2.8%
人間総合科学研究科	375	332	88.8%	24	6.4%	19	5.1%
図書館情報メディア研究科	58	58	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
グローバル教育院	27	23	85.2%	4	14.8%	0	0.0%
男性	851	763	90.2%	47	5.6%	41	4.8%
女性	525	477	91.2%	32	6.1%	16	3.1%
全体	1,376	1,240	90.6%	79	5.8%	57	4.2%

問 21. 傷害等の被害について

- ◎ 1.7%の学生が傷害等の被害に遭遇。
- ◎ 女性の被害が多い。

大学院入学後の、引ったくりや暴行・傷害・たかり・恐喝などの被害について、「被害にあったことはない」「学内で被害にあった」「つくば市内で被害にあった」「上記以外の場所で被害にあった」の4項目を選択肢としてあげ、複数回答方式で尋ねた。

「被害にあったことはない」学生は98.2%であった。

傷害等の被害にあった者のうち、「学内で被害にあった」0.4%、「つくば市内で被害にあった」0.9%、「上記以外で被害にあった」0.4%であった。前回調査では、「被害にあったことはない」学生は97.9%でほぼ変化はなかった。

男女別でみると、被害にあったことがあるのは男性1.2%、女性2.7%で女性の方が被害の経験が多かった。大学校内だけでなく、周辺地域も含めて、安全で安心な環境を整備し、充実したキャンパスライフが送れるように、学生への注意喚起活動などを継続して行っていく必要がある。

表 3.2 傷害等の被害経験の有無【研究科等別、男女別、全体】

	回答数	被害にあったことはない		学内で被害にあった		つくば市内で被害にあった		上記以外の場所で被害にあった	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
教育研究科	62	61	98.4%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
人文社会科学研究科	109	105	96.3%	2	1.8%	2	1.8%	0	0.0%
数理物質科学研究科	200	196	98.0%	1	0.5%	2	1.0%	1	0.5%
システム情報工学研究科	362	357	98.6%	0	0.0%	3	0.8%	2	0.6%
生命環境科学研究科	177	175	98.9%	1	0.6%	1	0.6%	0	0.0%
人間総合科学研究科	374	369	98.7%	1	0.3%	2	0.5%	2	0.5%
図書館情報メディア研究科	58	57	98.3%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
グローバル教育院	27	25	92.6%	0	0.0%	1	3.7%	1	3.7%
男性	846	836	98.8%	1	0.1%	6	0.7%	3	0.4%
女性	523	509	97.3%	5	1.0%	6	1.1%	3	0.6%
全体	1,369	1,345	98.2%	6	0.4%	12	0.9%	6	0.4%

第4章 健康状態について

問 22. 過去1年間の健康状態について

- ◎全体の約57%は身体的に健康であるが、前回調査の約65%からは低下した。
- ◎全体的に見て、男性よりも女性の方が心身ともに健康状態が良くない傾向がある。
- ◎心理的問題で来談経験があるものは全体の約5%である。

過去1年の身体的および心理的・精神的健康状態についてあてはまるものすべてを選択させた。健康であると回答したものは全体の約57%であった。受診を伴わない日常的な体調不良を選択したものが約30%であった。前回調査では65.3%が健康であると回答しており、前々回は58.0%、その前の回は70.5%であったことから、前々回と同水準であった。学年による差はあまりみられない。

また、受診や入院を要する疾病に罹患したものは15.6%、入院や受診を要する負傷をしたものは2.8%であった。以上の結果から、大半の学生は日常的な体調不良を除けば、身体的に健康であったことが推測される。

一方、心理的問題を感じて相談機関を利用したと回答したものは全体の4.9%で、M1よりM2が、D1よりD3の値が多くなっており、学年が長じるにつれてその割合は増加する傾向がある。

また、身体的健康、心理的健康を表す指標は両方とも男性より女性の方が値が悪く、女子学生の心身の健康さに注意を払う必要が示唆された。

表 4.1 過去1年間の健康状態【学年別、男女別、全体】

	M1	M2	D1	D2	D3	男性	女性	全体
健康である	55.5%	58.5%	59.8%	56.0%	57.0%	60.5%	51.1%	56.9%
健康不良で数日寝込んだ（受診・入院を除く）	29.1%	28.0%	29.5%	35.0%	33.1%	27.0%	34.0%	29.7%
身体の病気で受診・入院した	16.0%	14.6%	12.1%	15.0%	21.5%	13.9%	18.4%	15.6%
精神的な問題で受診・入院した	4.4%	5.5%	6.1%	4.0%	5.8%	4.0%	6.5%	5.0%
心理的な問題で相談機関を利用した	3.5%	6.6%	5.3%	5.0%	6.6%	3.3%	7.5%	4.9%
けがで受診・入院した	2.9%	2.5%	2.3%	2.0%	4.1%	2.2%	3.6%	2.8%
その他	0.9%	0.5%	0.0%	1.0%	1.7%	0.9%	0.6%	0.8%

問 23. 過去 1 年間の困り事・悩み事について

- ◎困り事悩み事としてあげられた最も多い項目は「学業や研究の不振」であった。
- ◎「進路」「就職」も約 4 割の学生が悩んでいる。
- ◎自分の性格や精神的・心理的問題についても 2～3 割が該当していた。

最も多かったのは「学業や研究の不振」で、全体の約 57%であった。中でも、M2 の約 60%、D2、D3 の 66～68%が選択している。また、「進路」に関する悩みは M1 の 47.5%、「就職」に関する悩みは M2 の 47.3%が選択しており、2 人に 1 人は進路や就職の悩みを抱えていると推測される。「経済状態」についても全体で 30.2%が悩んでおり、これらは前回調査と同様の傾向である。5 番目に多いのは「自分の精神的・心理的状态」28.0%であり、「自分の性格」20.6%とあわせて考えると、約 3 人に 1 人は自分自身について悩み考えていることが推測される。学業不振についての悩みが女性の方が男性より 10.0 ポイント多かったが、自分に関する悩みについても両項目とも女性の方が多く、男性よりも女性が悩みを抱える傾向にある。

ハラスメントについては全体で 3.7%が悩んでいると回答している。修士課程相当より博士課程相当学年の方が割合が高く、前回調査より上昇している。実際に表面化する事例以外にも問題がある可能性もあり、看過すべきではない状態にある。

表 4.2 過去 1 年間の困り事・悩み事【学年別、男女別、全体】

	M1	M2	D1	D2	D3	男性	女性	全体
学業や研究の不振	53.7%	59.1%	51.5%	66.0%	68.6%	53.3%	63.3%	57.1%
単位修得の問題	13.7%	8.0%	6.8%	7.0%	5.8%	11.1%	9.0%	10.3%
転研究科・転専攻	4.6%	1.4%	1.5%	4.0%	0.8%	2.1%	4.6%	3.1%
休学・退学	2.9%	5.8%	5.3%	6.0%	20.7%	4.7%	7.3%	5.7%
進路	47.5%	32.4%	25.8%	34.0%	29.8%	39.4%	38.0%	38.9%
就職	40.6%	47.3%	16.7%	24.0%	32.2%	39.7%	35.6%	38.1%
友人との関係	13.3%	11.3%	6.8%	14.0%	5.8%	10.3%	13.6%	11.5%
教員との関係	13.0%	17.9%	15.2%	15.0%	16.5%	13.9%	16.6%	15.0%
研究室内の問題	14.9%	18.4%	15.9%	17.0%	16.5%	15.7%	17.0%	16.2%
部活動・サークル内の問題	3.5%	3.6%	0.0%	3.0%	1.7%	3.3%	2.5%	3.0%
恋愛関係	16.3%	12.4%	10.6%	10.0%	11.6%	14.4%	12.8%	13.8%
家族関係	9.7%	11.0%	9.8%	13.0%	13.2%	8.5%	14.0%	10.6%
自分の性格	24.5%	20.9%	11.4%	18.0%	10.7%	18.7%	23.7%	20.6%
自分の精神的・心理的状态	29.9%	27.5%	19.7%	29.0%	27.3%	24.6%	33.5%	28.0%
自分の身体的病気・けが等の状態	12.0%	9.1%	9.8%	7.0%	12.4%	9.3%	12.8%	10.7%
経済状態	28.4%	28.6%	30.3%	44.0%	33.9%	29.4%	31.5%	30.2%
ハラスメント	2.6%	3.3%	6.8%	6.0%	5.0%	2.8%	5.0%	3.7%
その他	2.3%	1.4%	4.5%	6.0%	3.3%	2.5%	2.9%	2.6%
特になし	12.3%	14.3%	25.0%	13.0%	10.7%	14.8%	12.6%	14.0%

問 24. あなたの感じ方について

- ◎「自分のやりたいことができている」「大学生活が充実している」等心理的健康度は高い。
- ◎一方、「何となく不安になることがある」に該当するものも同様に高い。
- ◎「気分が憂鬱である」は10.0%、「『死にたい』と思ったことがある」は約6%が高頻度で該当。

本項目では心理的健康度についていくつかの指標で「とてもあてはまる」から「全くあてはまらない」の4件法で尋ねた。「自分のやりたいことができている」「大学生活が充実している」「自分のことをよくわかってきている人がいる」の3項目はどれも約7～8割程度がYES群（注参照）に該当しており、心理的健康度の高さがうかがえた。3項目とも前回調査と同様で変化はなかった。

一方、「何となく不安になることがある」に約73%がYES群として回答しており、前回調査と同様に漠然とした不安を感じている学生は多い。全国の大学院平均（『学生の健康白書』2005）では、「はい」と回答したのは40%弱であったのに比してかなり多いと言える^{*}。また、「気分が憂鬱である」は約42%で前回調査では40%、「何をやってもうまくいかない気がする」は約38%で前回調査では約37%であった。

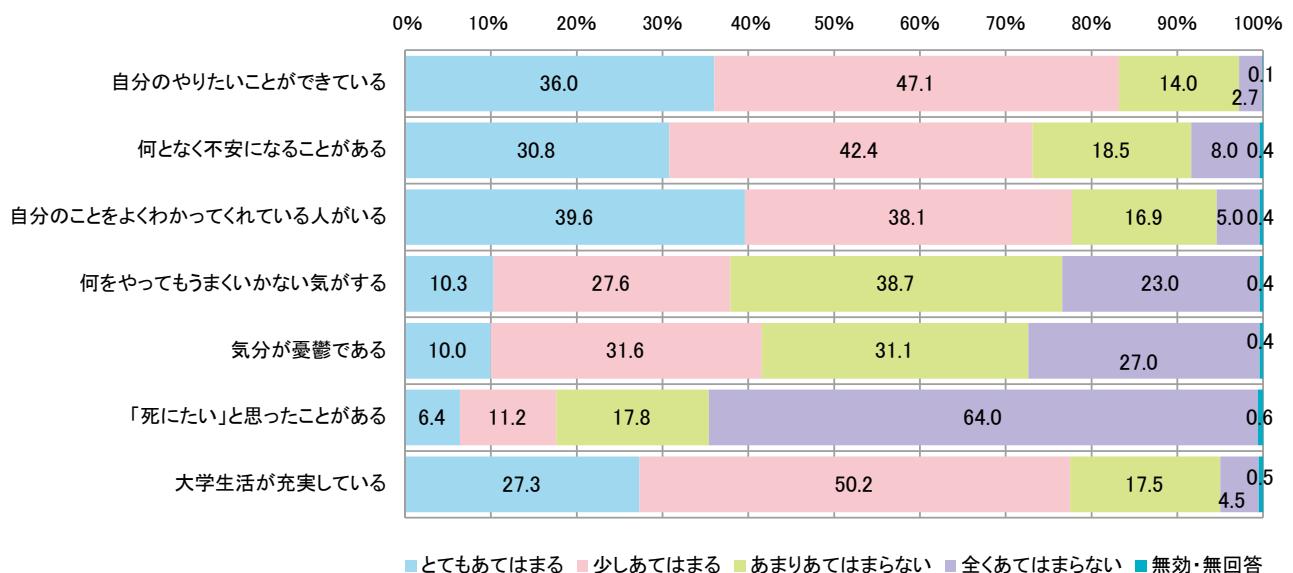
また、「『死にたい』と思ったことがある」という希死念慮にYES群として該当するものは17.6%で、前回調査とほとんど変化はなかった。

全体的に本学の大学院生の心理的健康状態は良いとは言えず、今後いっそうの対策が求められる。

注) 把握しやすいよう、YESは「とてもあてはまる」「少しあてはまる」を合算し、NOは「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」を合算した。

※全国調査が「はい」「いいえ」の二択法であるのに対して、本調査では「少しあてはまる」という選択肢も選択可能なため、YES群には軽度の不安を抱える学生も含まれるとも考えられる。

図 4.1 過去1年間の精神的な健康状態【全体 (%)】



第5章 相談相手・情報の得方について

問 25-1. 主な相談相手について

- ◎総じて相談相手として最も選ばれやすいのは家族で、その割合は学群生より多い傾向がある。
- ◎学群生と比較して恋人や学外の友人を相談相手とする割合が多い。
- ◎男性は相談相手を持たない者が女性より多い。

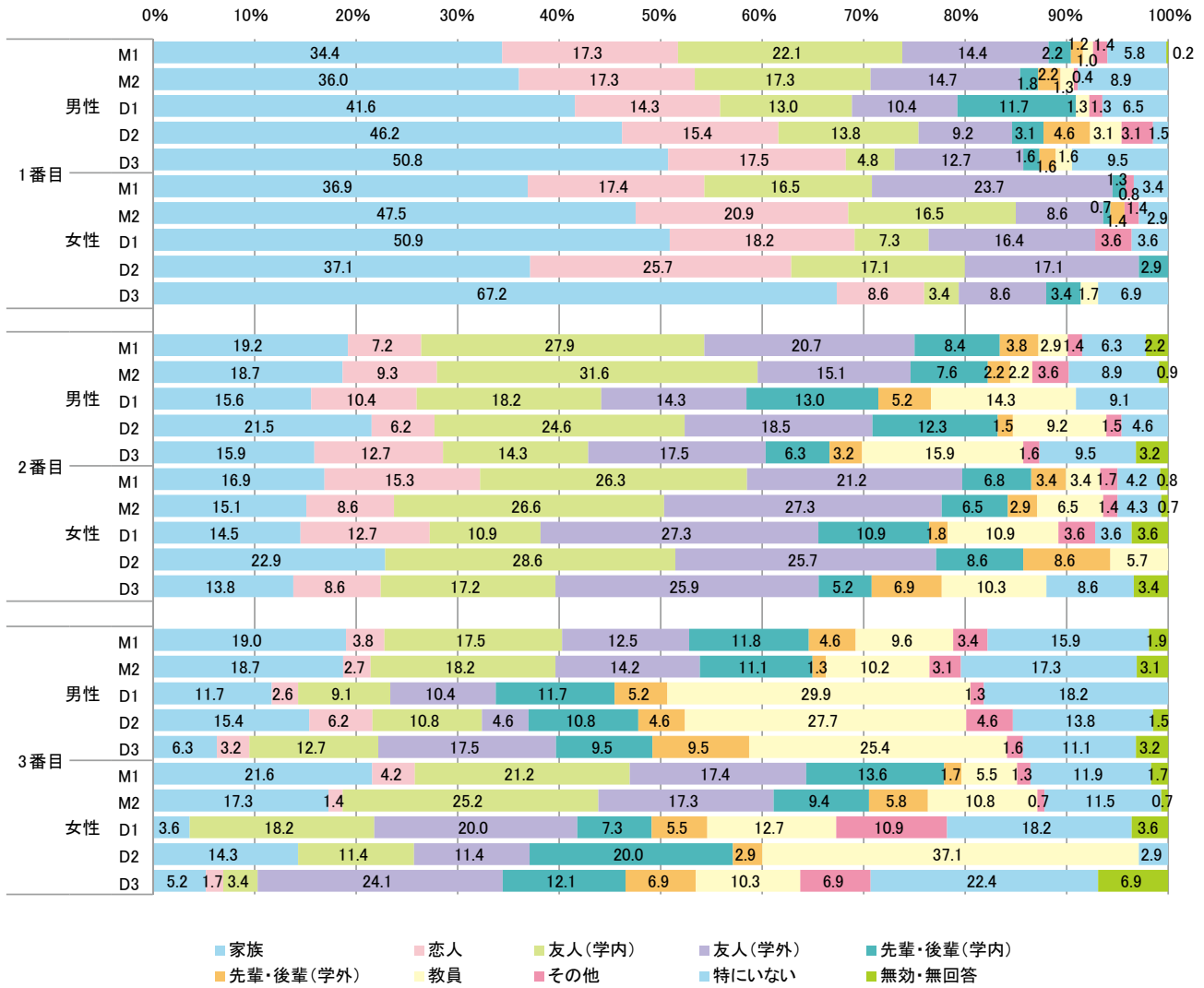
重要なことを話したり、悩みを相談する人として、該当する上位3番目までを選択させた。全体として、1番目に最も多く選ばれるのは「家族」で、その割合は学群生より多い傾向にある。次いで「恋人」「友人(学内)」がほぼ同率で選ばれている。特に学年が進むにつれて「家族」が増えているのは、社会に出てから大学院生となる学生が学群生より多いことや、年月を経て「恋人」が「家族」のカテゴリーへと移り変わっていることが推測される。

学群生と比較して、1番目と2番目に「友人(学外)」を選ぶ割合も増加している。学内進学者においては、「友人(学内)」であった相談相手が卒業を得て「友人(学外)」へと移り変わるケースもあること、学外進学者においては、既存の人間関係が筑波大学の外であることから、学群生とは異なる様相を呈していると考えられる。また、研究活動を通じて学外の人間関係を広げる機会が多いことも寄与しているであろう。

2番目以降に「教員」を選択する学生が、学年を経るにしたがって増えている。研究活動の進展やそれを踏まえた進路設計など、指導教員との相談を要する事柄が、大学院の学年が上がるにつれて増えると考えられる。特に大学院生にとって相談相手としての教員の重要性が示された結果と言えよう。

そして学群生と同様に、相談相手を持たないと考えられる学生が、特に男性において多いことは注意が必要な点である。

図 5.1 相談相手【男女別、学年別 (%)】



問 25-2. 相談相手と話す機会について

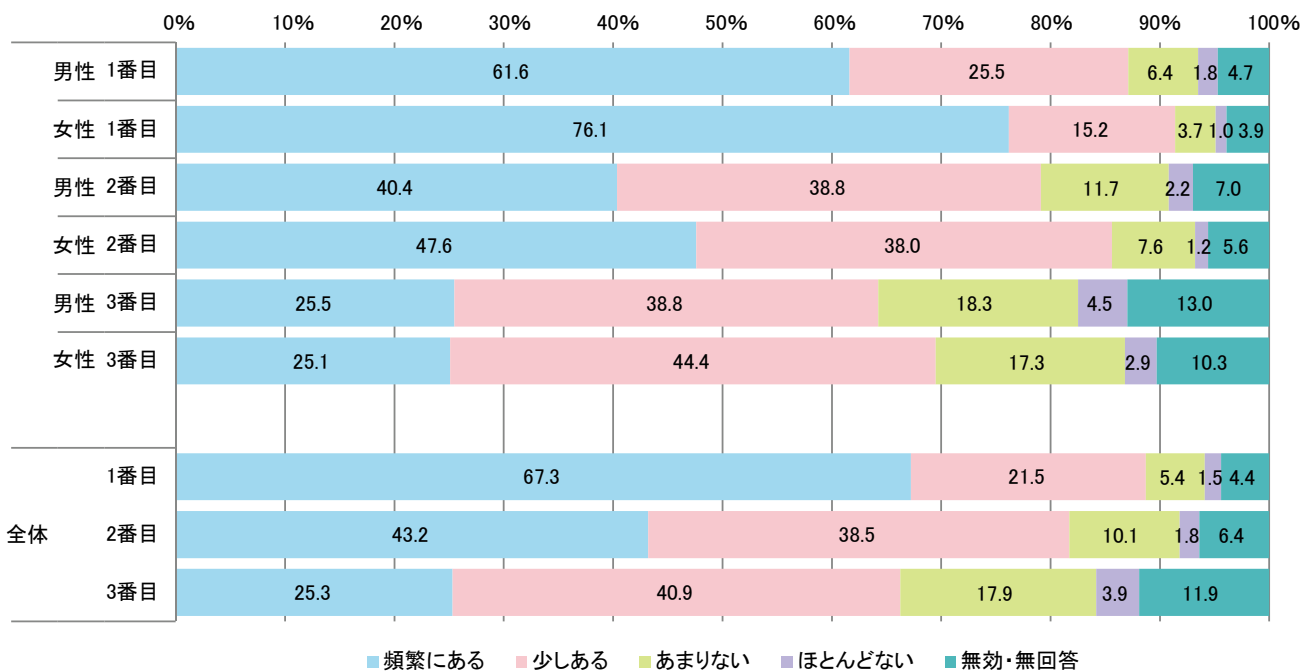
- ◎相談相手として1番目に選択した人に話す機会は多い。
- ◎男性は女性に比べて相談相手と話す機会が少なく、悩みを話せる機会が限られやすい。
- ◎学群生と比較して、全体的に話す機会が減っている。

重要なことを話したり、悩みを相談する相手として選択した上位3番目までのそれぞれの人に対して、どのくらい話をする機会があるかを尋ねた。全体では、88.8%の学生が1番目に選択した相談相手と話す機会が「頻繁にある」「少しある」と回答し、66.2%の学生が3番目に選択した相談相手とも「頻繁にある」「少しある」と回答したことから、多くの学生において相談相手と話す機会はあると言える。

しかしながら、学群生と比較すると、2番目、3番目の相談相手と「頻繁に」話す機会が減少し、その分「少しある」が増えている。全体的にみても「あまりない」「ほとんどない」と答えた割合が微増している。全体的な傾向においても、男女別の傾向においても、2番目以降の相談相手と話す機会が「ほとんどない」の割合が増えている。すなわち、学群生に比較して大学院生は、相談相手と話す頻度が低下していると言える。

大学院生において重要な相談相手として教員、特に指導教員があげられるであろう。研究を進めていくことが求められる大学院において、それを指導する役割を持つ指導教員が学生と丁寧に関わることは非常に重要であると考えられる。問25-1の結果においても、2番目、3番目の相談相手に教員が選択されており、大学院における学生と教員の関係の重要性は示唆されている。その2番目、3番目の相談相手と話す機会が減少しているという今回の結果を踏まえると、特に大学院においては、教員は学生との丁寧なコミュニケーションを心掛ける必要があると言えよう。

図 5.2 相談相手と話す機会【男女別、全体 (%)】



問 26. 情報の得方について

- ◎大学院生にとっての主な情報取得源は「友人等」「指導教員」「大学のHP」。
- ◎大学が用意した Web 掲示板の利用率は向上しているものの、学群生ほどではない。
- ◎ SNS が情報源とする回答も増加した。

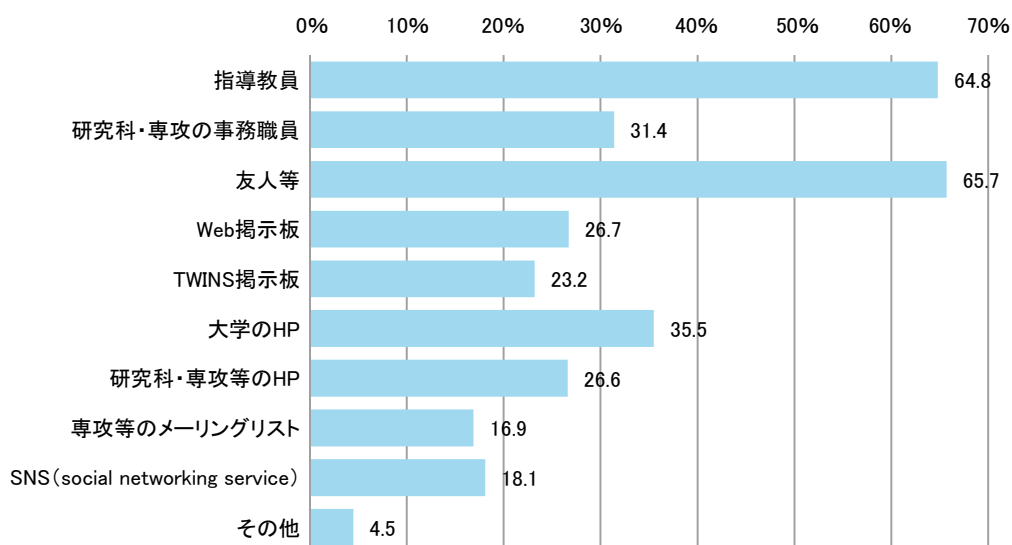
学生生活に関わる情報を得ようとするとき、どういった情報源にアクセスするかを複数回答で尋ねた。全体では、選択された割合が多い順から「友人等」「指導教員」「大学のHP」であった。前回調査でも、多い順に「友人等」「指導教員」「大学のHP」で、大学院生の上位3つの回答傾向に変化はみられないが、他の項目では割合に大きな変化がみられるものもある。

前回調査と比較して「TWINS 掲示板」の選択率が4.4%から23.2%と大幅に増加している。学群生と同様に、前回調査時には学内に設けられていた「研究科・専攻等の掲示板」が廃止され、「Web 掲示板」に移行されたため、学生が参照する掲示板が軒並み Web に移行したことが、「TWINS 掲示板」選択率の向上と「Web 掲示板」の利用率に寄与したと考えられる。大学院生においても、掲示板の利便性向上を図り、情報源ツールとしての役割をより一層強化する重要性が示唆されたと言えるであろう。

前回調査では6.6%であった「SNS (social networking service)」の選択率が18.1%まで増加していることも、学群生と同様に大きな変化と言える。とはいえ、その増加率は学群生には及ばず、全体の中での情報源としての重要性は学群生ほどは高くないと考えられる。

友人が情報源としても重要であることは学群生と同様であるが、それと同じくらい指導教員が情報源の役割を果たしている。問 25-1、問 25-2 を踏まえると、大学院生にとっての指導教員がいかに重要な対人関係の相手であるかが読み取れる。

図 5.3 情報取得源【全体 (%)】



問 27. 相談機関について

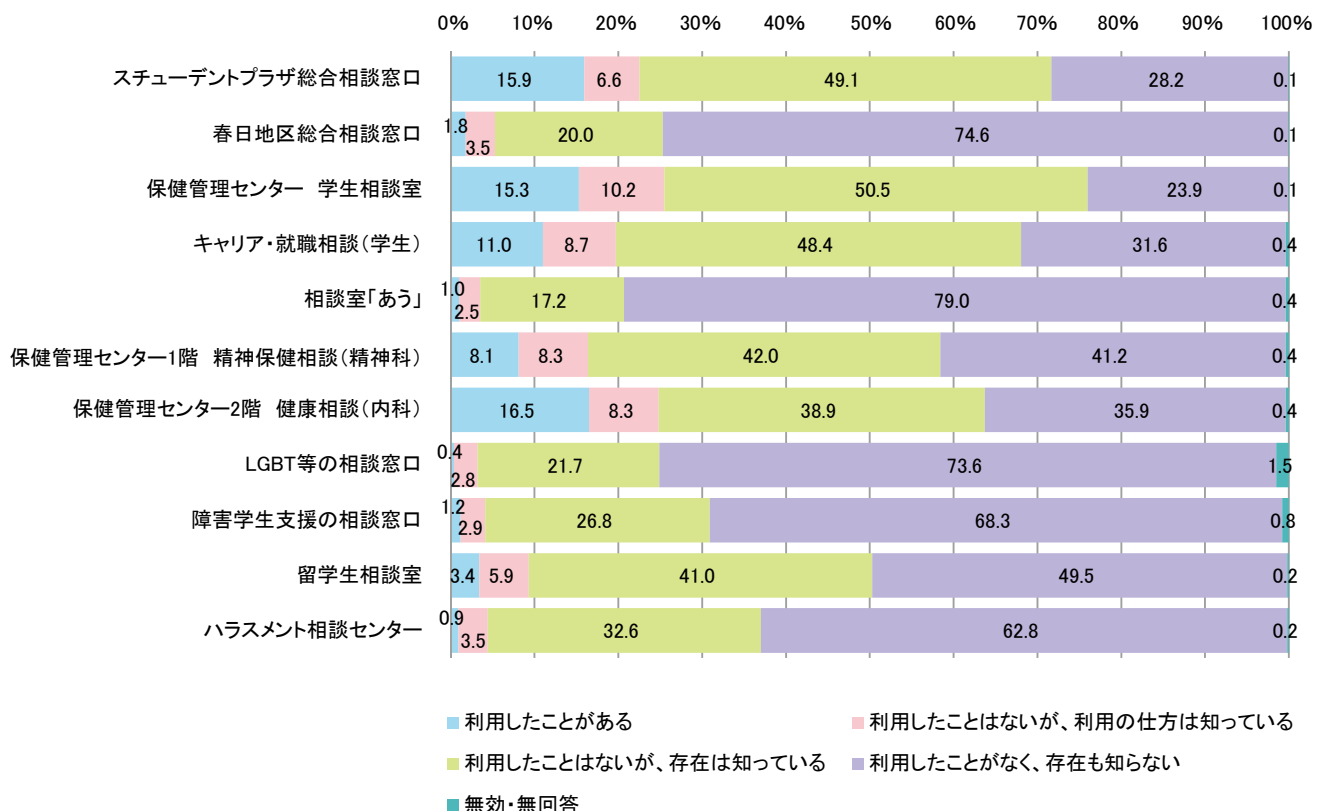
- ◎学内相談機関の存在を知っているが、利用方法までは知らない学生が多い。
- ◎「総合相談窓口」「学生相談室」「健康相談（内科）」は、大学院生の周知率・利用率ともに高く、ニーズの高さを感じさせる。
- ◎特に「キャリア・就職相談（学生）」「留学生相談室」「ハラスメント相談センター」の周知率が学群生よりも高い。

学内にある相談機関の周知状況や利用状況について尋ねた。前回調査時は学内5か所の機関のみの調査であったが、今回の調査では学内11か所すべての機関を対象とした。

「利用したことがある」と回答された割合を「利用率」、利用率に「利用したことはないが、利用の仕方は知っている」と回答された割合を足したものを「利用方法の周知率」、利用方法の周知率に「利用したことはないが、存在は知っている」と回答された割合を足したものを「存在の周知率」とする。存在および利用方法の周知率、利用率が高かったのは「学生プラザ総合相談窓口」「保健管理センター学生相談室」「保健管理センター2階 健康相談（内科）」「キャリア・就職相談（学生）」であった。存在の周知率に比較して利用方法の周知率が軒並み低いという結果は学群生と同様であり、利用方法も含めた周知には課題が残ると言える。

学群生に比較して、「キャリア・就職相談（学生）」「留学生相談室」の利用率・周知率や「相談室『あう』」「ハラスメント相談センター」の周知率が高い。これは、ワーク・ライフ・バランスを考える発達段階であること、より多くの割合で外国人留学生が在籍していること、指導教員をはじめとする縦の関係性が密になることなどを考えると、妥当な結果であると言える。現在の周知率、利用率が高いか低いかは一概には言えないが、より一層の周知と迎え入れの体制を整える努力は今後とも続けていく必要がある。

図 5.4 相談機関の周知率、利用率【全体（％）】



問 28. 学内広報誌について

- ◎学内広報誌を定期的に読まない大学院生が75%を越える。
- ◎約5人に1人は筑波大学新聞を定期的に読んでいる。

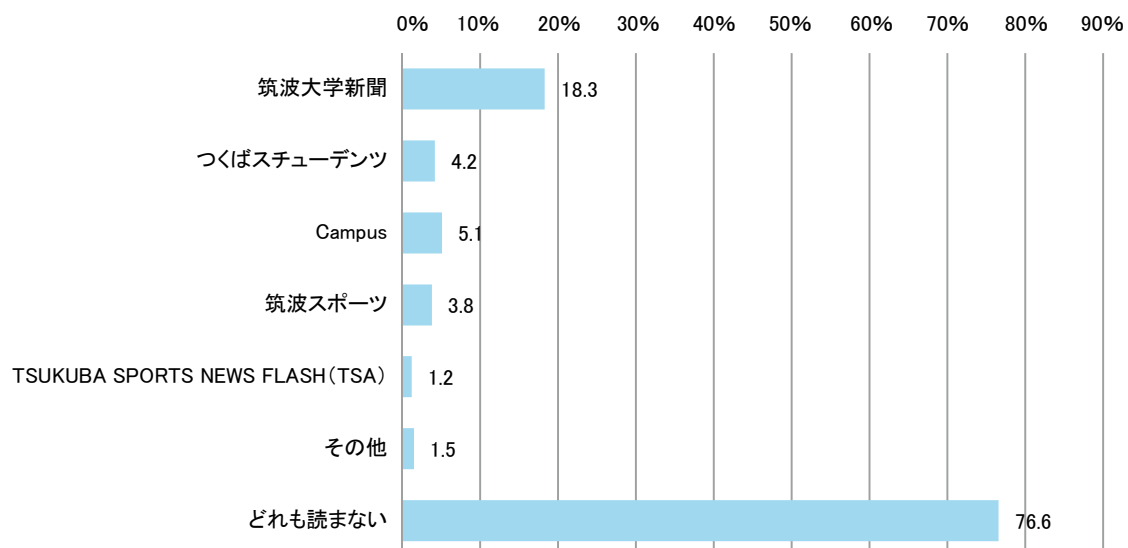
定期的に読む学内広報誌は何かを複数回答で尋ねた。今回の調査では、前回調査時と同様の学内広報誌5誌と、その他という選択肢を設けた。回答傾向をみると、男女別の差はほとんど認められない。

いずれも読まないと回答した学生が75%を越えており、前回調査時と比較して微増している。筑波大学新聞以外の広報誌は、読むと答えた大学院生の割合が軒並み低下している。学群生と同様に、「定期的」ではなく、時々読んだり、目に入った時には読んだりする程度の場合、今回の設問では回答が得られなかったと考えられ、実際はもう少し大学院生の目に触れている可能性もある。しかしながら、大学院生は研究活動を第一に自らのすべきことで忙しく、問26などに示されたように情報源が指導教員、学内のWeb掲示板が主になることから、必要としている情報の質が学群生と異なっているとも推測できる。すなわち、自分とは関連の薄い学内の広い物事よりも、自分が関係する物事や自らの専門性に関する情報に時間を割くようになっているのかもしれない。

一方で、筑波大学新聞を定期的に読むと回答した学生の割合は、前回調査の14.4%から今回調査では18.3%と微増している。他の広報誌とは異なり上昇が見られた理由の詳細は不明であるが、筑波大学新聞の取組やコンテンツを参考にすることで得られるものもあるであろう。

今後は、大学院生が学内広報誌に求める情報とは何なのかといった学内広報誌の意義を確認するところから検討し、紙面構成や周知方法の検討を行う必要があるかもしれない。

図 5.5 定期的に読む学内広報誌【全体 (%)】



第6章 課外活動について

問 29. サークル活動について

- ◎大学院生の約2割はサークル活動に参加している。
- ◎人間総合科学研究科ではコーチなどとしての活動が顕著。

サークル活動への参加について、「正式メンバーで現在活動中」「コーチなどで現在活動中」「正式メンバーやコーチなど以外で現在活動中」「以前は活動していた」「活動したことはない」の5項目から1つ選択してもらった。

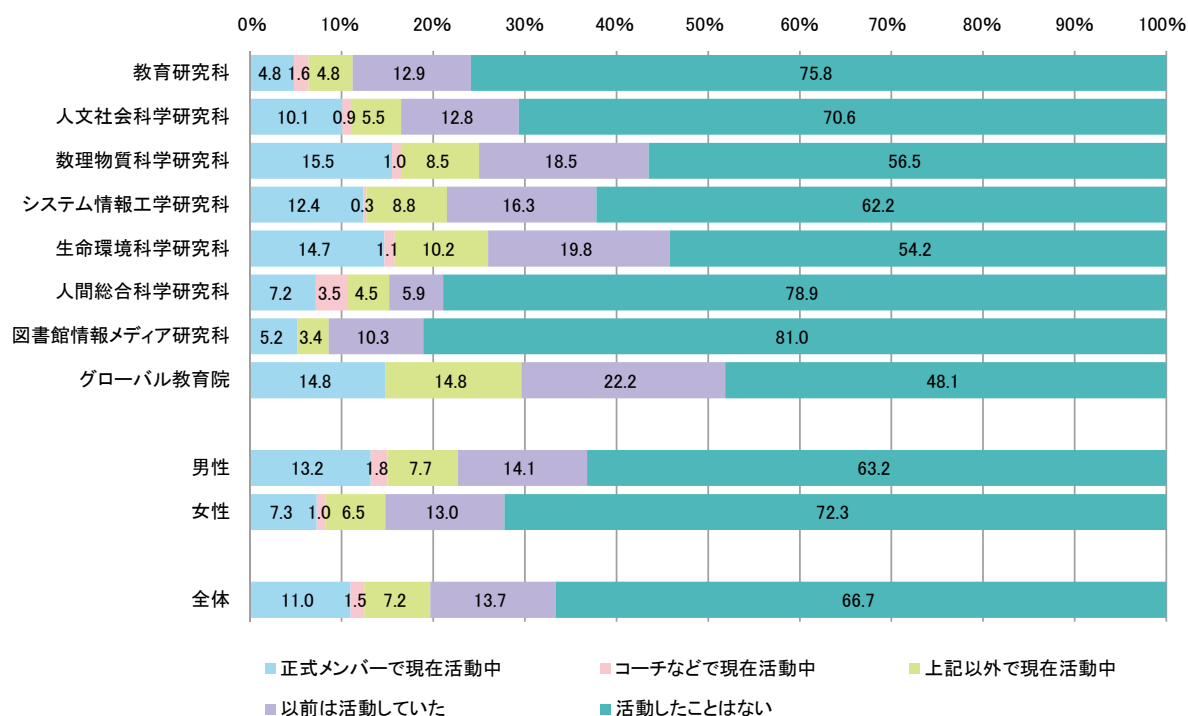
全体では、「活動中（正式メンバーで現在活動中、コーチなどで現在活動中、正式メンバーやコーチなど以外で現在活動中）」と回答した学生の割合は19.7%で、前回18.4%、前々回17.3%とほぼ同様であった。大学院における課外活動への参加率は、学群と比べて2割程度である。

研究科等別にみると、数理工学系研究科、システム情報工学研究科、生命環境科学研究科、グローバル教育院ではサークル活動を行っている学生が他の研究科に比べて比較的多い。この4研究科等だけでみると、26%程度の参加率となる。人間総合科学研究科では、コーチなどで活動する学生が他研究科等に比べて2倍程度いる。

課程別にみると、修士課程相当で活動中であるのは22.4%、博士課程相当で活動中であるのは11.6%であった。修士課程相当のみで見ると、前述の4研究科等で活動中の学生は25.9%である。

外国人留学生・日本人学生の別で見ると、外国人留学生で活動しているのは17.4%、日本人学生で活動しているのは20.4%でほぼ変わらない。

図 6.1 サークル活動への参加【研究科等別、男女別、全体 (%)】



問 29-1. サークル活動を行う理由について

◎サークル活動の動機は、「趣味と一致」「友人がほしくて」が上位。

◎課程別や外国人留学生・日本人学生別により、サークル活動を続ける理由が異なる。

現在、サークル活動をしている、あるいは、以前していた学生を対象に、サークル活動の動機について、複数回答で調査した。

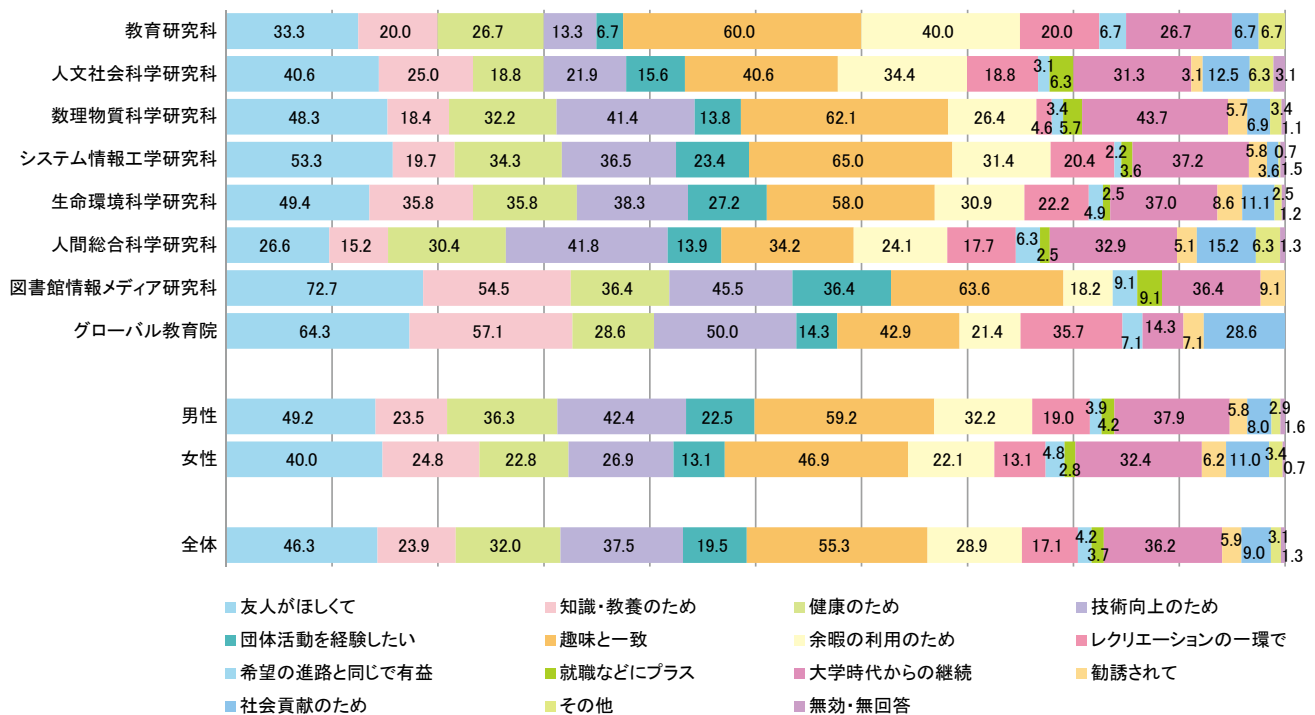
全体では、「趣味と一致」55.3%および「友人がほしくて」46.3%が大きな割合を占め、前回調査の傾向と同様であった。前回調査と大きく異なったのは、「技術向上のため」が11.7ポイント増、「団体生活を体験したい」9.9ポイント増、「余暇の利用のため」9.4ポイント増であった。

研究科等別では、図書館情報メディア研究科やグローバル教育院で「友人がほしくて」の回答が多く、それぞれ72.7%、64.3%であった。

課程別にみると、修士課程相当と博士課程相当で大きく異なるのは、「知識・教養のため」21.3%、35.3%、「余暇の利用のため」32.3%、14.1%、「希望の進路と同じで有益」2.7%、10.6%、「社会貢献のため」6.2%、21.2%であった。博士課程相当の学生は、学業でいっそう忙しくなる中で、課外活動を通じて幅広い知識や教養を得たり社会貢献を行ったりしていることが示唆される。

外国人留学生・日本人学生の別でみると、外国人留学生では64.3%の学生が「友人がほしくて」と回答した。以降の「知識・教養のため」48.0%、「趣味と一致」42.9%と大きく差が開いた。日本人学生ではそれぞれ「友人がほしくて」41.3%、「知識・教養のため」17.3%、「趣味と一致」58.7%であった。

図 6.2 サークル活動の動機【研究科等別、男女別、全体 (%)】



問 30. 宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘について

◎3割以上の学生が、「勧誘を受けたことがある」と回答。

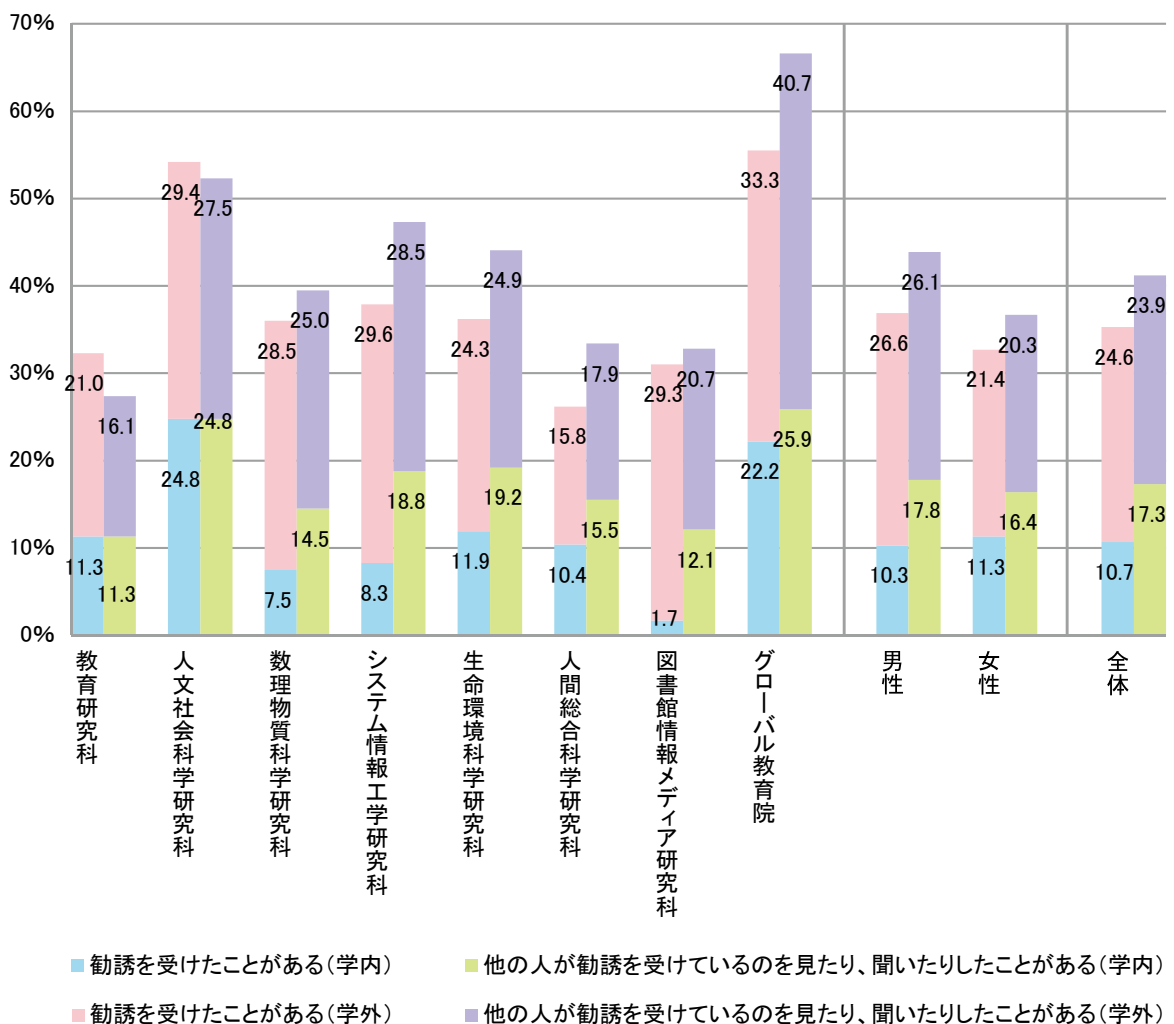
◎外国人留学生の方が日本人学生よりも、勧誘を受けたり、他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしている割合が高い。

大学院入学後の宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘に関して、勧誘を受けたことの有無、他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことの有無を、キャンパス内外の別に答えてもらった。

全体では3割以上の学生が学内または学外で宗教団体や啓発セミナーの勧誘を受けており、4割以上の学生が学内または学外で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしている。特に学外での勧誘が多い。

男女別では大きな差は認められなかったが、外国人留学生・日本人学生の別では大きな違いがみられ、学内外を問わず、外国人留学生の方が日本人学生よりも勧誘を受けたり、他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしている割合が高かった。

図 6.3 宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘【研究科等別、男女別、全体 (%)】



問 31. ボランティア活動について

- ◎ 26.6%の学生がボランティア活動に参加したことがある。
- ◎ 約 5 人に 1 人の学生がボランティア活動に参加したいと考えている。
- ◎ 約 45%の学生は、ボランティア活動に関心を持っている。

ボランティア活動の状況について、「授業やゼミを通じて参加したことがある」「つくばアクションプロジェクト (T-ACT) を通じて参加したことがある」「サークル活動を通じて参加したことがある」「その他の機会に参加したことがある」「参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている」「ボランティア活動に参加する予定はない」に複数回答で答えてもらった。

「授業やゼミを通じて参加したことがある」「つくばアクションプロジェクト (T-ACT) を通じて参加したことがある」「サークル活動を通じて参加したことがある」「その他の機会に参加したことがある」のいずれかに該当すると答えた学生の割合は 26.6%であった。また、「参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている」に該当すると答えた学生の割合は 18.3%であったことから、4 割以上の学生は、何かしらのボランティア活動に参加した経験があるか、または、今後参加したいと考えており、ボランティアに関心があると考えられる。

研究科等別では、生命環境科学研究科、人間総合科学研究科の学生は、すでにボランティア活動に参加している学生が多く、それぞれ 35.0%、34.2%、また、グローバル教育院と人文社会科学研究科の学生は、在学中に参加したいと考えている学生がそれぞれ 33.3%、25.7%と多いことがわかった。

表 6.1 ボランティア活動について【全体】

	回答数	回答率
授業やゼミを通じて参加したことがある	152	11.1%
つくばアクションプロジェクト (T-ACT) を通じて参加したことがある	23	1.7%
サークル活動を通じて参加したことがある	55	4.0%
その他の機会に参加したことがある	202	14.8%
ボランティア活動に参加したことがある (上記いずれかに該当した者)	364	26.6%
参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている	250	18.3%
ボランティア活動に参加する予定はない	755	55.1%

問 32. T-ACT の活動について

- ◎約 10 人に 1 人の学生がなんらかの形で T-ACT に関わったことがある。
- ◎ T-ACT の活動に参加したいと考えている学生が 20% 近くいる。
- ◎約 3 割の学生が T-ACT の活動に関心を持っている。

つくばアクションプロジェクト (T-ACT) の活動について、「T-ACT で企画の発案者 (プランナー) や運営者 (オーガナイザー) を行ったことがある」「T-ACT の企画に参加者 (パーティシパント) として関わったことがある」「総合科目「みんなで創ろう『つくばアクションプロジェクト』」を受けたことがある」「T-ACT 主催のイベント (活動報告会や公開シンポジウムなど) に参加したことがある」「その他の機会 で T-ACT に関わったことがある」「参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている」「T-ACT の活動に参加する予定はない」から複数回答で選んでもらった。

回答者のうち、9.7%の学生がなんらかの形で T-ACT に関わったことがあり、T-ACT の活動に「参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている」に該当すると答えた学生の割合は 17.5%であった。これらをあわせて、約 3 割の学生が T-ACT の活動になんらかの関心を持っていると考えられる。

研究科等別では、T-ACT の活動に実際に関わったと回答した学生の割合が最も高かったのは、図書館情報メディア研究科の 17.2%であった。グローバル教育院では、今回の調査の範囲では実際に関わったことがある学生はいなかったものの、全体平均の 2 倍近い 37.0%の学生が在学中に参加したいという回答であった。

表 6.2 T-ACT の活動について【全体】

	回答数	回答率
T-ACT で企画の発案者 (プランナー) や運営者 (オーガナイザー) を行ったことがある	25	1.8%
T-ACT の企画に参加者 (パーティシパント) として関わったことがある	43	3.1%
総合科目「みんなで創ろう『つくばアクションプロジェクト』」を受けたことがある	25	1.8%
T-ACT 主催のイベント (活動報告会や公開シンポジウムなど) に参加したことがある	20	1.5%
その他の機会 で T-ACT に関わったことがある	49	3.6%
T-ACT の活動に参加したことがある (上記いずれかに該当した者)	133	9.7%
参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている	239	17.5%
T-ACT の活動に参加する予定はない	997	72.8%

問 33. 学外研修施設の利用について

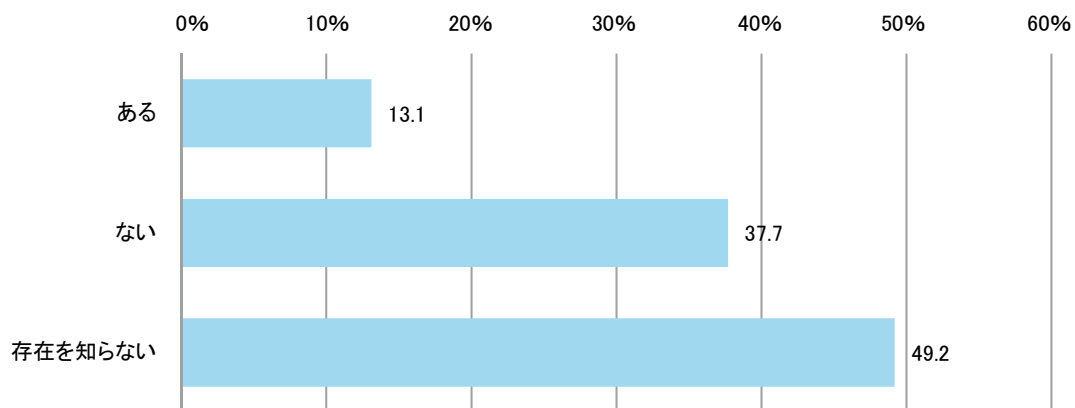
- ◎学外研修施設を実際に利用したことが「ある」と回答した学生は1割程度。
- ◎「存在を知らない」学生が約半数。

本学は、山中、館山の2箇所に研修施設を保有しているが、その好立地条件にもかかわらず、実際に利用したことが「ある」と回答した学生は1割程度であり、利用したことが「ない」と回答した学生は3割を超えた。「存在を知らない」と回答した学生が約5割に及んでいる。

本年度は大規模な改修工事を行っており、長期間にわたって利用できない時期が続いていた。このことが、正課および課外活動における利用経験の減少につながり、「存在を知らない」という結果に結びついたものと思われる。

研究科等別で、利用経験が「ある」と回答した学生が多かったのは、生命環境科学研究科の22.6%で、「存在を知らない」という回答が最も多かったのはグローバル教育院で77.8%であった。

図 6.4 学外研修施設利用の有無【全体 (%)】



第7章 進路や就職活動について

問 34. 修了後の進路について

- ◎修了後の進路は「進学」15.0%、「就職」69.8%、「復職」4.7%。
 ◎修士課程相当は「企業への就職」52.1%、博士課程相当は「大学教員」34.6%が最も多い。

大学院修了後の進路は、15.0%が進学、69.8%が就職と回答している。進学では、「筑波大学大学院」への進学が進学者中の62.9%と大半を占めており、筑波大学大学院での研究の継続を志向していることがうかがえる。就職では、「企業」への就職が就職者中の60.0%と最も多く、次いで「大学教員」14.0%、「小・中・高校の教員」8.2%が続く。

修士課程相当と博士課程相当の傾向をみると、修士課程相当では、「企業」への就職52.1%が群を抜いて多く、「筑波大学大学院」への進学12.4%、「小・中・高校の教員」への就職7.2%と続く。博士課程相当では、「大学教員」34.6%が最も多く、次いで「研究員」13.0%、「企業」への就職12.5%であった。博士課程相当では、「決まっていない」「まだ考えていない」の進路未定の割合が修士課程相当と比べると多く、博士課程相当の学生に対するキャリア形成支援の充実が期待される。

表 7.1 修了後の進路【課程別、研究科等別、男女別、全体】

	回答数	進学計	就職計	復職計	未決定 その他
修士課程相当	1,016	16.4%	70.9%	4.1%	8.6%
博士課程相当	353	10.8%	66.6%	6.5%	16.1%
教育研究科	62	4.8%	75.8%	12.9%	6.5%
人文社会科学研究科	109	18.3%	67.9%	3.7%	10.1%
数理物質科学研究科	200	16.0%	72.5%	2.0%	9.5%
システム情報工学研究科	362	9.7%	80.4%	2.5%	7.5%
生命環境科学研究科	177	17.5%	70.6%	5.6%	6.2%
人間総合科学研究科	374	19.5%	57.2%	6.1%	17.1%
図書館情報メディア研究科	58	6.9%	70.7%	12.1%	10.3%
グローバル教育院	27	25.9%	66.7%	0.0%	7.4%
男性	846	14.8%	72.0%	4.4%	8.9%
女性	523	15.3%	66.2%	5.4%	13.2%
全体	1,369	15.0%	69.8%	4.7%	10.5%

表 7.2 修了後の進路【課程別、研究科等別、男女別、全体】

		修士課程相当	博士課程相当	教育研究科	人文社会科学研究科	数理工学物質科学研究科	システム情報工学研究科	生命環境科学研究科	人間総合科学研究科	図書館情報メディア研究科	グローバル教育院	男性	女性	全体
進学等	筑波大学大学院	12.4%	0.8%	3.2%	12.8%	13.0%	5.5%	10.2%	12.3%	3.4%	3.7%	9.2%	9.8%	9.4%
	国内の他大学大学院	1.6%	1.1%	1.6%	0.9%	1.0%	1.4%	0.6%	2.1%	1.7%	3.7%	1.3%	1.7%	1.5%
	海外の大学院	1.5%	0.8%	0.0%	1.8%	0.0%	1.4%	2.3%	1.3%	1.7%	3.7%	1.4%	1.1%	1.3%
	研究員、研究生等	0.9%	7.1%	0.0%	2.8%	2.0%	1.4%	4.5%	2.9%	0.0%	11.1%	2.6%	2.3%	2.5%
	その他	0.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	3.7%	0.2%	0.4%	0.3%
就職	企業	52.1%	12.5%	4.8%	23.9%	56.0%	70.7%	41.2%	17.9%	46.6%	33.3%	47.4%	32.9%	41.9%
	大学教員	1.2%	34.6%	0.0%	22.9%	2.0%	2.5%	6.8%	19.0%	17.2%	11.1%	8.0%	12.6%	9.8%
	研究員	1.5%	13.0%	3.2%	5.5%	5.0%	2.8%	4.0%	5.6%	0.0%	18.5%	4.1%	5.0%	4.5%
	小・中・高校の教員	7.2%	1.4%	62.9%	3.7%	4.0%	0.0%	2.8%	5.9%	0.0%	0.0%	4.6%	7.5%	5.7%
	公務員	6.1%	1.4%	3.2%	7.3%	4.5%	3.3%	12.4%	2.9%	5.2%	0.0%	5.0%	4.8%	4.9%
	自営・起業	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	1.1%	0.0%	0.0%	3.7%	0.5%	0.0%	0.3%
	その他	2.6%	3.4%	1.6%	4.6%	1.0%	0.8%	2.3%	5.9%	1.7%	0.0%	2.4%	3.4%	2.8%
復職	企業	1.2%	0.8%	0.0%	0.9%	0.5%	1.4%	1.1%	1.3%	1.7%	0.0%	1.2%	1.0%	1.1%
	大学教員	0.2%	1.1%	0.0%	2.8%	0.5%	0.0%	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.4%	0.4%
	研究員	0.3%	1.7%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	2.8%	0.5%	1.7%	0.0%	0.7%	0.6%	0.7%
	小・中・高校の教員	1.0%	0.6%	12.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.5%	1.5%	0.9%
	公務員	0.8%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	1.1%	0.8%	6.9%	0.0%	0.9%	0.8%	0.9%
	自営	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%
	その他	0.7%	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%	0.3%	0.0%	1.9%	1.7%	0.0%	0.5%	1.1%	0.7%
その他	決まっていない	6.1%	7.9%	4.8%	5.5%	7.5%	5.8%	4.5%	8.8%	3.4%	7.4%	5.9%	7.6%	6.6%
	まだ考えていない	1.1%	1.4%	0.0%	2.8%	0.5%	0.6%	0.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.7%	1.9%	1.2%
	その他	1.4%	6.8%	1.6%	1.8%	1.5%	1.1%	1.1%	5.9%	6.9%	0.0%	2.2%	3.6%	2.8%

問 35. 修了後の外国での就労希望について

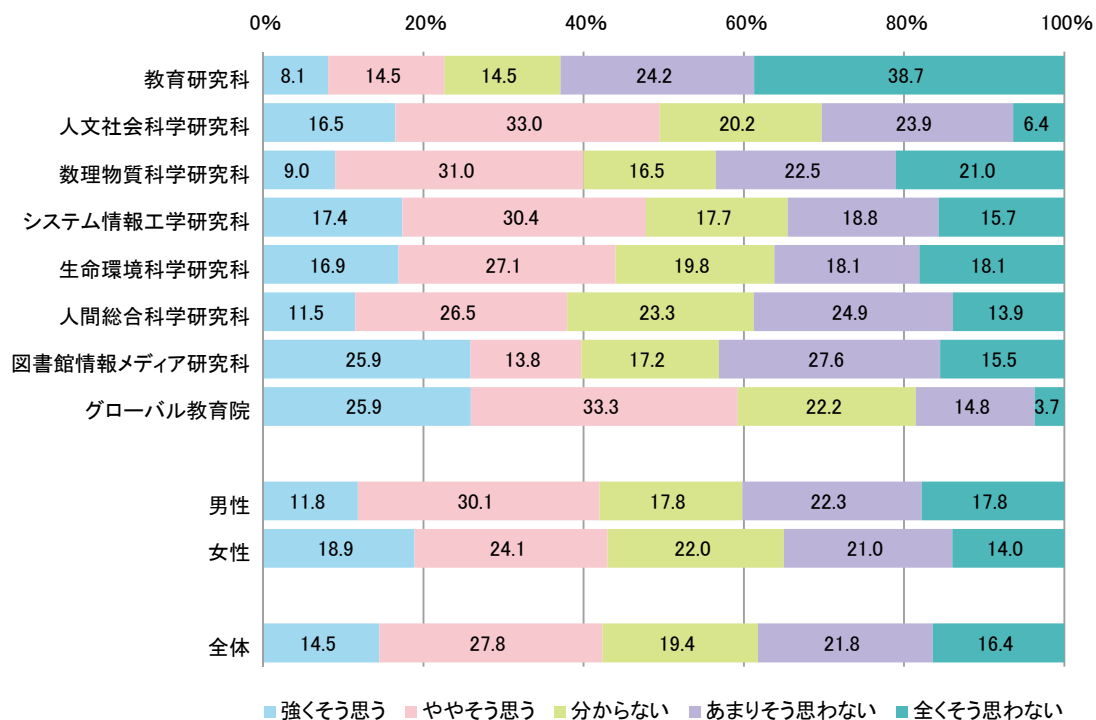
- ◎約 4 割の学生が「外国での就労」を希望。
- ◎学群生より高い大学院生の国際志向。

修了後の外国での就労希望について尋ねたところ、「強くそう思う」「ややそう思う」で 42.3%と、約 4 割の学生が外国での就労を視野に入れていることがわかった。グローバル教育院を除いた研究科別では、前回調査と同様に人文社会科学研究科が 49.5%と高く、教育研究科は 22.6%と低い傾向がある。男女別では、男性 41.9%、女性 43.0%と男性に比べて女性の方がやや高い。

学群生と大学院生を比較すると、外国での就労を視野に入れている学生の割合は、大学院生 42.3%、学群生 31.1%と大学院生の方がかなり高い。学群生に比べて外国人留学生が多いことが影響していることも考えられる。

なお、今回初めて外国人留学生の卒業後の日本での就労希望の状況について調査したところ、「強くそう思う」と「ややそう思う」の割合の合計が 62.1%と非常に高い結果となった。現在、大学院の外国人留学生の日本での就職は、修了生の約 3 割であり、今後は就労を希望する外国人留学生の就職につながるような支援プログラムの充実を図る必要がある。

図 7.1 修了後の外国での就労希望【研究科等別、男女別、全体 (%)】



問 36. 進路を決めた（これから決める時に考慮する）理由について

- ◎進路は、「自分の能力や適性」「やりがい」「年収」「安定した生活」を考慮して決定。
- ◎「大学院での学修の活用」「大学院での研究の活用」を重視する割合は低い。

進路選択の理由について、「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して複数回答を求めたところ、全体では、「自分の能力や適性」62.3%が最も多く、次いで「やりがい」56.9%、「年収」53.9%、「安定した生活」53.0%があげられた。「大学院での学修の活用」23.3%、「大学院での研究の活用」24.5%は相対的に低い。

男女別にみると、どちらも「自分の能力や適性」を最も重視する傾向で差はないが、差が比較的大きいものをみていくと、男性は女性と比べて「年収」や「将来性」を重視する傾向がある。

研究科等別にみると、ほとんどの研究科等で「自分の能力や適性」が最も重視される傾向があるが、教育研究科と人間総合科学研究科は「やりがい」の比率が高く、「年収」や「安定した生活」の比率が比較的低い傾向にある。

表 7.3 進路決定の理由【研究科等別、男女別、全体】

	教育研究科	人文社会科学研究科	数理解物質科学研究科	システム情報工学研究科	生命環境科学研究科	人間総合科学研究科	図書館情報メディア研究科	グローバル教育院	男性	女性	全体
集計母数※	33	44	129	250	108	193	35	8	511	289	800
やりがい	75.8%	52.3%	49.6%	56.4%	50.9%	66.3%	42.9%	50.0%	56.4%	57.8%	56.9%
社会的貢献	33.3%	27.3%	37.2%	32.0%	42.6%	37.3%	22.9%	50.0%	35.4%	34.6%	35.1%
年収	24.2%	56.8%	59.7%	66.8%	45.4%	42.0%	51.4%	75.0%	58.9%	45.0%	53.9%
安定した生活	48.5%	54.5%	56.6%	56.8%	48.1%	49.2%	48.6%	62.5%	52.3%	54.3%	53.0%
ワーク・ライフ・バランス	24.2%	36.4%	45.0%	49.6%	50.9%	36.8%	54.3%	62.5%	43.2%	46.7%	44.5%
自分の能力や適性	60.6%	61.4%	60.5%	64.8%	63.0%	57.5%	68.6%	100.0%	62.2%	62.3%	62.3%
専門知識を深める	21.2%	25.0%	20.9%	29.6%	29.6%	34.7%	22.9%	75.0%	29.5%	28.0%	29.0%
大学院での学修の活用	39.4%	9.1%	16.3%	22.0%	28.7%	24.4%	28.6%	62.5%	23.9%	22.1%	23.3%
大学院での研究の活用	18.2%	20.5%	23.3%	24.4%	25.0%	27.5%	22.9%	25.0%	24.7%	24.2%	24.5%
社会的評価	15.2%	15.9%	20.9%	30.8%	24.1%	17.6%	8.6%	12.5%	26.2%	15.9%	22.5%
将来性	27.3%	31.8%	43.4%	49.6%	41.7%	31.6%	40.0%	75.0%	44.0%	36.0%	41.1%
地理的利便性	12.1%	18.2%	21.7%	26.0%	22.2%	19.7%	31.4%	62.5%	23.7%	21.5%	22.9%
その他	0.0%	6.8%	0.8%	2.8%	4.6%	2.6%	0.0%	0.0%	2.5%	2.8%	2.6%

※集計母数は無回答を除く回答者数

問 37. 将来の進路への感じ方について

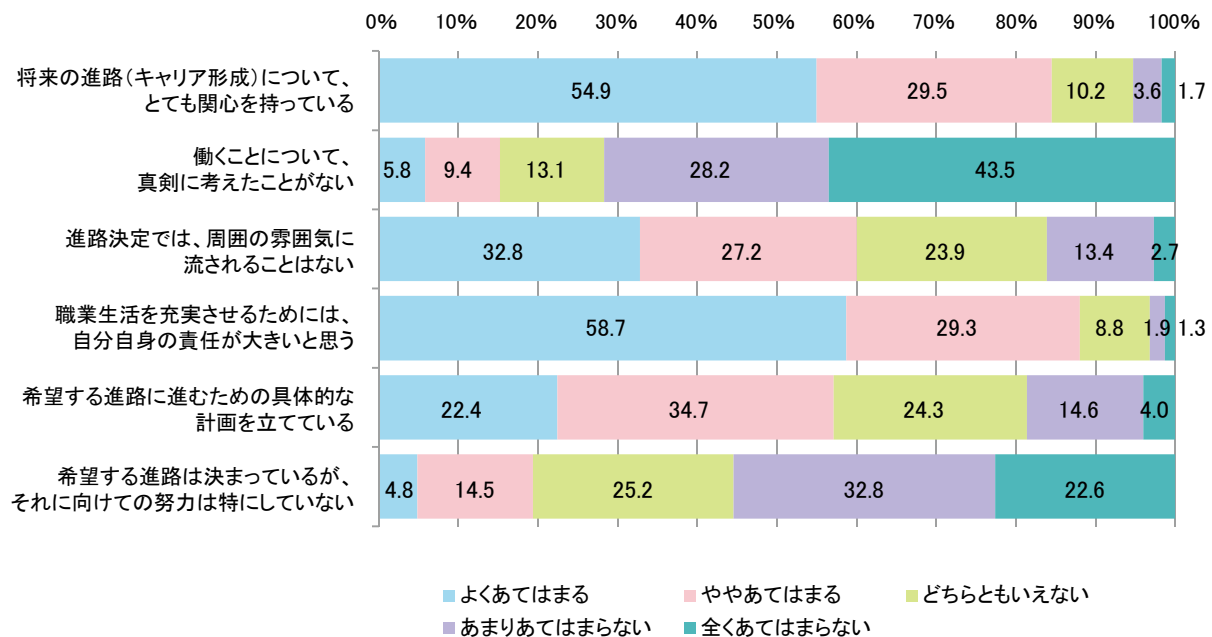
- ◎将来の進路について関心を持っている者は84.4%。
- ◎職業生活を充実させるためには、自分自身の責任が大きいと感じている者は88.0%。
- ◎希望する進路に進むための具体的な計画を立てている者は57.1%。

「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して、将来の進路についての感じ方を尋ねたところ、進路への関心の程度については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が84.4%であった。働くことについて真剣に考えた経験についての肯定的な回答では、設問が反転項目のため「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の合計で71.7%で、将来への関心の高さと比較すると、働くことへの関心はやや低い結果となっている。

進路決定や職業生活に対する自立の程度を尋ねたところ、進路決定場面における自立度については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計は60.0%であった。職業生活全体における自立度においては、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計は88.0%であり、職業生活の充実のためには自立が重要であると認識されていた。

進路を実現するための計画や実行の程度を尋ねたところ、計画の具体性については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答の合計が57.1%であった。

図 7.2 将来の進路についての感じ方【全体 (%)】



問 38. 就職活動に役だった情報源について

- ◎「就職情報サイト」「ゼミの同輩・先輩」の割合が高い。
- ◎修士課程相当の1年次で特に「インターンシップ」を重視。

「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して、就職活動の情報源について複数回答を求めたところ、「就職情報サイト」38.0%、「ゼミの同輩・先輩」37.0%と割合が高く、次いで「企業・自治体等のHP」28.6%、「インターンシップ」26.6%があげられている。

前回調査時と比べ、採用広報開始から選考開始までの期間が短くなっている中、前述したインターネットによる情報をはじめ、学内外の就職イベントやガイダンスといった様々なツールを活用するとともに、「ゼミの同輩・先輩」といった生の声や「インターンシップ」によって企業等と直に触れる機会を重視している傾向がみられる。

表 7.4 就職活動に役だった情報取得源【研究科等別、男女別、全体】

	教育研究科	人文社会科学研究科	数理物質科学研究科	システム情報工学研究科	生命環境科学研究科	人間総合科学研究科	図書館情報メディア研究科	グローバル教育院	男性	女性	全体
集計母数※	33	44	129	250	108	193	35	8	511	289	800
指導教員	6.1%	18.2%	14.0%	18.0%	25.0%	26.4%	45.7%	25.0%	21.1%	21.1%	21.1%
専攻などの就職委員	0.0%	2.3%	4.7%	6.4%	7.4%	4.1%	8.6%	25.0%	6.3%	4.2%	5.5%
ゼミの同輩・先輩	33.3%	31.8%	37.2%	44.8%	37.0%	30.1%	31.4%	25.0%	39.7%	32.2%	37.0%
キャリアサポート部門/就職課	18.2%	4.5%	11.6%	9.2%	22.2%	8.3%	17.1%	0.0%	10.8%	12.8%	11.5%
キャリアサポート部門/就職課HP	9.1%	2.3%	9.3%	8.8%	18.5%	4.1%	11.4%	25.0%	7.8%	11.1%	9.0%
学内の就職ガイダンス	30.3%	18.2%	35.7%	24.8%	26.9%	9.3%	17.1%	0.0%	24.3%	19.0%	22.4%
就職情報誌	9.1%	4.5%	10.9%	10.4%	13.9%	6.7%	11.4%	0.0%	9.4%	10.0%	9.6%
就職情報サイト	9.1%	36.4%	45.0%	44.8%	38.9%	30.1%	42.9%	0.0%	38.9%	36.3%	38.0%
学外の就職イベント	3.0%	22.7%	29.5%	30.8%	26.9%	13.5%	17.1%	25.0%	23.7%	23.5%	23.6%
企業・自治体等のHP	12.1%	20.5%	36.4%	30.8%	35.2%	20.7%	34.3%	25.0%	27.6%	30.4%	28.6%
インターンシップ	6.1%	13.6%	21.7%	41.2%	29.6%	14.5%	28.6%	50.0%	28.4%	23.5%	26.6%
OB・OG 訪問	3.0%	6.8%	14.7%	23.2%	9.3%	6.2%	8.6%	12.5%	14.9%	10.7%	13.4%
その他	12.1%	4.5%	2.3%	4.4%	6.5%	12.4%	2.9%	0.0%	5.7%	8.0%	6.5%

※集計母数は無回答を除く回答者数

問 39. 進路決定の際の指導教員への相談について

- ◎全体では約 4 割が指導教員に相談。
- ◎図書館情報メディア研究科は約 7 割が指導教員に相談。

「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して、進路について指導教員にどの程度相談しているかを尋ねたところ、全体では、指導教員に「たびたび相談した」と「時々相談した」をあわせると 36.9%で、約 4 割の学生が指導教員に相談している。

研究科等別にみると、指導教員に相談している割合が高いのは、図書館情報メディア 72.4%、生命環境科学研究科 48.9%、一方、低いのは数理工学科学研究科 24.3%、人文社会科学科学研究科 29.7%であった。

また、前回調査では、わずかではあるが、「相談しようとしたが断られた」と答えた学生がいたが、今回の調査ではいなかった。

表 7.5 進路決定の際の指導教員への相談【研究科等別、男女別、全体】

	教育研究科	人文社会科学科学研究科	数理工学科学研究科	システム情報工学研究科	生命環境科学研究科	人間総合科学研究科	図書館情報メディア研究科	グローバル教育院	男性	女性	全体
集計母数※	25	37	115	217	88	159	29	6	431	245	676
たびたび相談した	0.0%	5.4%	4.3%	5.5%	12.5%	12.6%	27.6%	0.0%	7.9%	9.8%	8.6%
時々相談した	36.0%	24.3%	20.0%	24.4%	36.4%	30.8%	44.8%	50.0%	26.9%	30.6%	28.3%
ほとんど相談していない	20.0%	29.7%	28.7%	29.0%	26.1%	28.9%	6.9%	16.7%	26.2%	29.0%	27.2%
相談はしていない	44.0%	40.5%	47.0%	40.1%	25.0%	25.8%	20.7%	33.3%	38.3%	29.8%	35.2%
相談しようとしたが断られた	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.7%	0.8%	0.7%

※集計母数は無回答を除く回答者数

問 40. 就職活動の学修・研究への影響について

◎約 5 割が「学修・研究に支障あり」と回答。

学生の学修環境の確保の観点から、ここ数年、就職・採用活動時期の見直しが繰り返されているが、前回調査と同様に、就職活動によって学修・研究に支障が出ているか、対象を「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して尋ねたところ、「支障がととてもでている」9.3%、「支障が多少はでている」38.5%で、前回調査に比べてそれぞれ 8.6 ポイント、4.3 ポイント減少したが、依然 47.8%と約 5 割の学生が学修や研究に支障があったと回答している。

研究科等別にみると、「支障が多少はでている」「支障がととてもでている」とする割合が相対的に高いのは図書館情報メディア研究科の 67.8%で、相対的に低いのは人文社会科学研究科の 38.3%であった。男女別では際立った差はみられなかった。

表 7.6 就職活動の学修・研究への影響【研究科等別、男女別、全体】

	教育研究科	人文社会科学研究科	数理物質科学研究科	システム情報工学研究科	生命環境科学研究科	人間総合科学研究科	図書館情報メディア研究科	グローバル教育院	男性	女性	全体
集計母数※	24	34	113	215	85	153	28	5	420	237	657
支障は全くでていない	12.5%	26.5%	17.7%	20.0%	20.0%	24.8%	14.3%	0.0%	20.5%	20.3%	20.4%
支障はほとんどでていない	29.2%	35.3%	31.0%	32.6%	31.8%	34.0%	17.9%	20.0%	32.4%	30.8%	31.8%
支障が多少はでている	54.2%	26.5%	40.7%	40.0%	37.6%	34.0%	46.4%	40.0%	37.4%	40.5%	38.5%
支障がととてもでている	4.2%	11.8%	10.6%	7.4%	10.6%	7.2%	21.4%	40.0%	9.8%	8.4%	9.3%

※集計母数は無回答を除く回答者数

第8章 本学への期待や要望等について

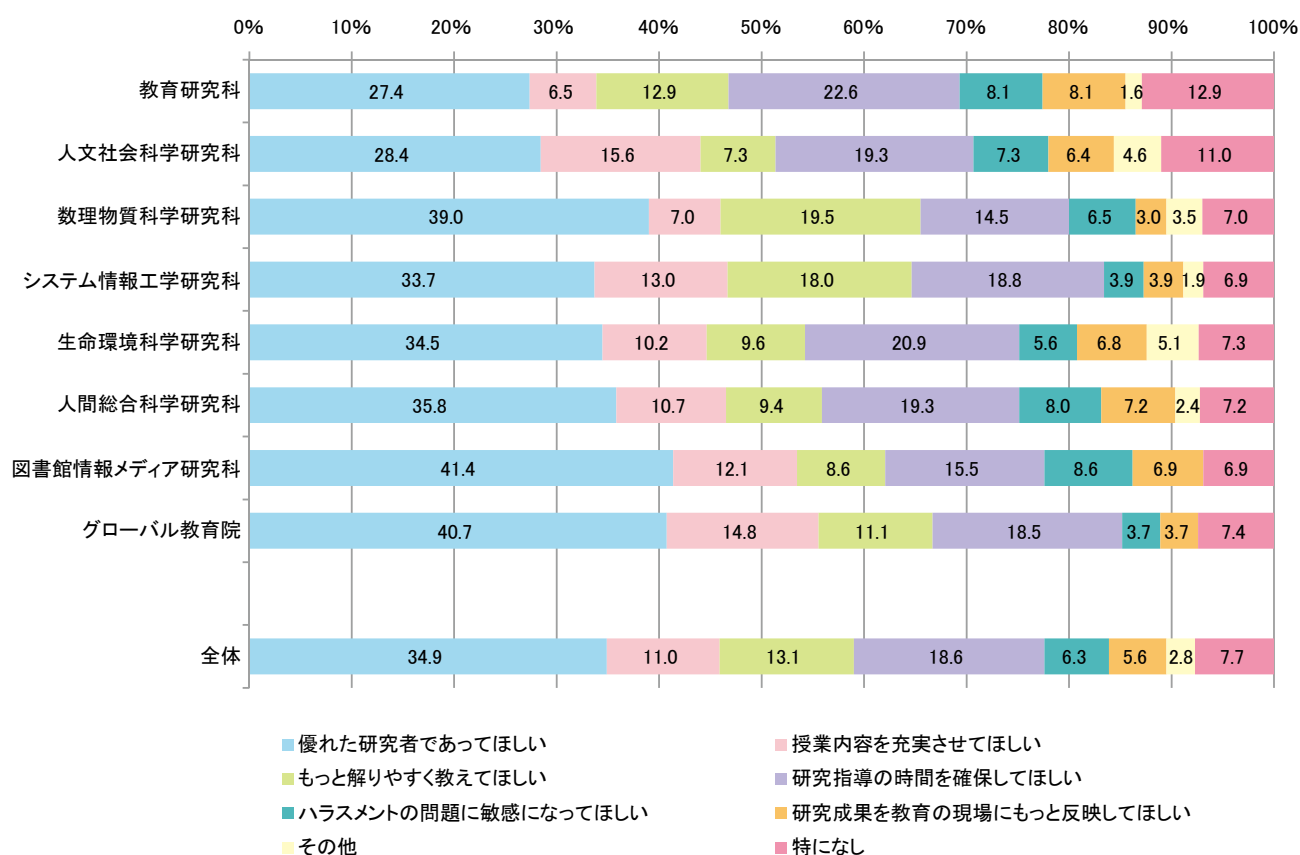
問41. 教員に最も期待することについて

◎多くの学生は、教員に対して「優れた研究者であってほしい」「研究指導の時間を確保してほしい」と望んでいる。

◎いくつかの研究科等では「授業内容の充実」「解りやすい授業」などを要望する意見が高い。

教員に最も期待することについて、前回調査と同じ形式で尋ねた。選択の上位は、「優れた研究者であってほしい」34.9%、「研究指導の時間を確保してほしい」18.6%で、次いで「もっと解りやすく教えてほしい」13.1%、「授業内容を充実させてほしい」11.0%といった授業内容の改善を求める意見が多く、この点において、前回調査との変化はなかった。前回調査と比較すると、「優れた研究者であってほしい」の要望は、33.3%から34.9%とほぼ変化していないが、特に教育研究科15.1%から27.4%、グローバル教育院7.1%から40.7%でそれぞれ大きく増加している点が目に付く。また、「研究指導の時間を確保してほしい」の要望が15.5%から18.6%と若干増加しており、研究科等別でも、グローバル教育院7.1%から18.5%を筆頭に、教育研究科12.3%から22.6%、システム情報工学研究科14.2%から18.8%、人文社会科学研究科15.5%から19.3%、生命環境科学研究科17.6%から20.9%、数理工学物質科学研究科12.9%から14.5%、人間総合科学研究科17.9%から19.3%と軒並み増加しており、唯一減少したのは図書館情報メディア研究科の16.9%から15.5%であった。これは前回調査時と比べて教員が多忙になり、十分な研究指導の時間を取れないことを反映しているのかもしれない。「その他」の項目にも、教員に対して「事務仕事に忙殺されずに研究してほしい」という意見が複数あがっていた。

図8.1 教員に期待すること【研究科等別、全体 (%)】

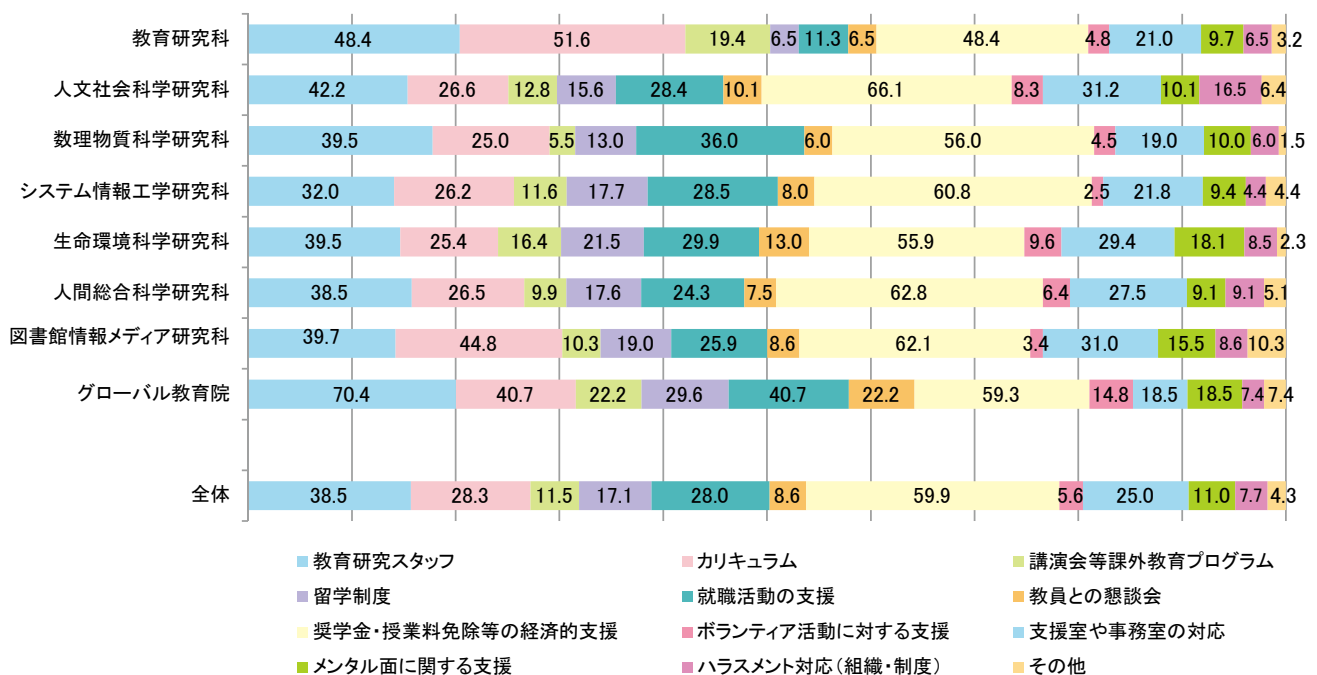


問 42. 教育面や制度面で充実してほしい点について

- ◎「奨学金・授業料免除等の経済的支援」が上位。
- ◎グローバル教育院では「教育研究スタッフ」の充実、「就職活動の支援」を求める声が大幅に増加。

教育面や制度面で充実してほしい点について前回調査と同じ内容で、選択数を制限せずに尋ねた。選択の上位は前回調査同様「奨学金・授業料免除等の経済的支援」であるが、経済支援の充実を求める声は47.6%から59.9%と大きく増加しており、今後の改善が必要である。一方、「就職活動の支援」を求める声は33.7%から28.0%と顕著に減少しており、前回調査からの5年間で就職活動の支援体制が整ってきたことを反映しているのではないかと考えられる。しかし、グローバル教育院と数理物質科学研究科は「就職活動の支援」を求める声が平均より顕著に高い。特に、グローバル教育院は選択率も7.1%から40.7%と大きく増加している。また、グローバル教育院では「教育研究スタッフ」の充実を求める声70.4%と非常に高く、気になる点である。「その他」では、外国人留学生から英語授業の拡充と質の向上を求める声が多数あがっていた。

図 8.2 教育面や制度面で充実してほしい点【研究科等別、全体 (%)】



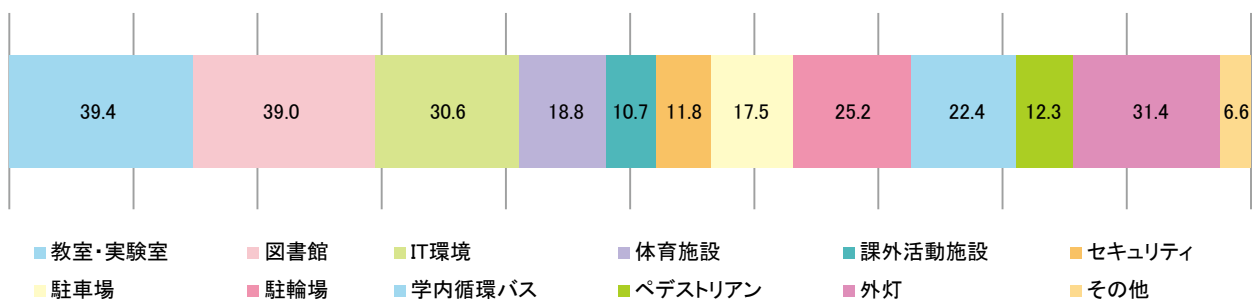
問 43. 整備・充実してほしい施設等について

◎選択上位は「教室・実験室」、「図書館」、「外灯」、「IT 環境」。

整備・充実してほしい施設等について前回調査と同じ項目で、前回調査では3つまで選択としたが、今回は選択数を制限せずに調査した。

要望の上位にある項目は前回調査と変化はなかった。なお、前回調査と直接比較はできないが、「図書館」の充実を求める声は27.1%から39.0%と明らかに増加している。「その他」の項目では、空調の整備、トイレ、食堂に関する意見が多かった。

図 8.3 整備・充実してほしい施設等【全体 (%)】



問 44. 学内の福利厚生施設の満足度について

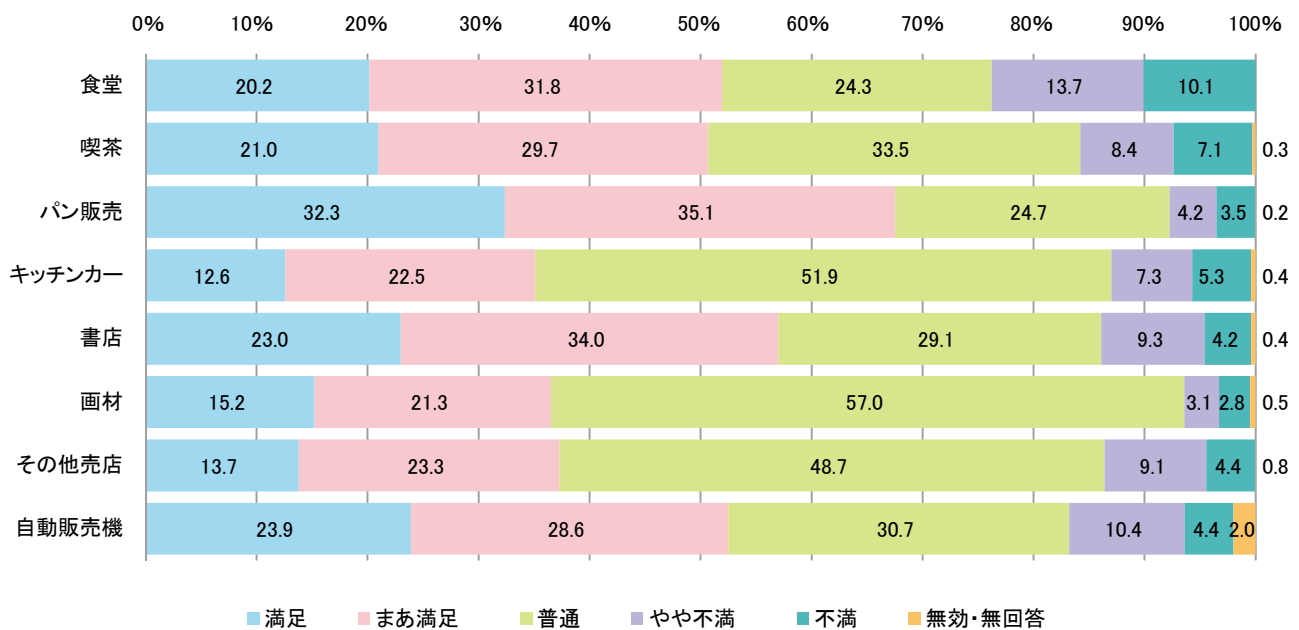
- ◎全体としてはおおむね満足。
- ◎食堂は「やや不満・不満」の割合が高い。

学内の福利厚生施設の満足度について前回の調査項目に、新たに導入されたキッチンカーの項目を加えて調査を行った。

食堂を除くと「やや不満」「不満」が全体の2割未満であり、おおむね満足している様子がうかがえる。食堂に関しては、「満足」「やや満足」が52.0%を占めるが、「やや不満」「不満」の意見も23.8%あり、両極端に分かれている感がある。

自由記述欄では、食堂に関して「値段が高いので安くしてほしい」「味や質を向上させてほしい」という意見が多数を占めた。また、外国人留学生が増加したこともあり、「英語のメニュー表」「ハラルフードなどの国際的なメニュー」を求める意見も多くあった。春日地区では「食堂の味や質」以外にも、「喫茶やパン販売の設置」を求める意見が多く、改善が望まれる。キッチンカーについては、「価格が高い」「もっと多くの場所に導入してほしい」といった意見があった。

図 8.4 福利厚生施設の満足度【全体 (%)】

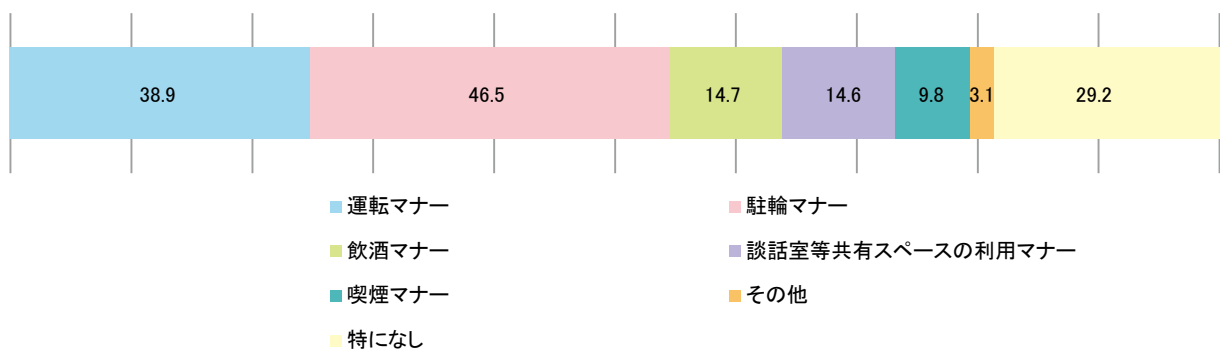


問 45. 向上を望むキャンスマナーについて

- ◎ 「運転マナー」、「駐輪マナー」が上位。
- ◎ 「駐輪マナー」を指摘する声は前回調査よりやや減少。

向上を望むキャンスマナーについて前回調査と同じ内容で尋ねた。上位の項目に前回調査との変化はみられなかったが、「駐輪マナー」は50.2%から46.5%とやや減少しており、マナーが少し改善されてきたのではないかと推測される。「その他」では、自転車の運転マナーを指摘する意見が多く、今後、これについても改善を目指す必要がある。

図 8.5 向上を望むキャンスマナー【全体 (%)】



問 46. 筑波大学への要望や提言等について

筑波大学への要望や提言等について、A. 制度等に関する要望、B. 教職員に対する要望、C. 施設に対する要望、D. その他の4つの大項目に分けて尋ねた。自由記述には309名から意見があり、以下はそれぞれの項目にあげられた意見等の概要である。

A. 制度等に関する要望

A1. カリキュラム (47件)

授業負担が大きく研究を進められないという意見が複数あった。授業の実施形態に関しては、隔年開講は不便であることや集中講義の日程重複の問題が指摘されており、他専攻の授業を取りやすくしてほしいという意見もあった。授業内容に関しては、広く浅く学べる科目の開設を求める意見と、より専門に関連する授業を求める意見の両方が出されていた。外国人留学生からは、日本語補修コースの拡充と、英語の授業の拡充を求める意見があった。

A2. 学生生活支援 (26件)

支援室の開室時間の延長や事務手続きのメール・Web化の要望が、特に社会人学生から出された。また、他大学からの進学生に対して、情報伝達の手段やWebシステム(TWINS、manaba、KdBなど)の説明が不足していることを指摘する意見もあった。外国人留学生からは、英語での情報を増やすことに加えて、サークル活動に参加する敷居を下げてほしいとの要望があった。また、来日時の各種手続きや新生活に慣れるために、十分な時間とサポートの確保を望む意見もあった。

A3. 経済支援 (53件)

奨学金や授業料免除などの経済支援に関する情報伝達を望む意見があった。大学院生(特に後期学生)は、研究に集中するためにアルバイトなどを行う時間も取れず、また、親からの経済支援も限られるため、奨学金・授業料免除を求める意見が多数あった。これらの支援の可否が親の年収を基準に判断されることへの不満の意見もあった。上記以外には、学会参加費・旅費や、論文投稿の際の英文校閲費など、研究遂行に必要な経費の支援を求める意見が多数あり、また、一時貸し付けの制度を求める意見もあった。

A4. キャリア・就職支援 (25件)

就職課と各研究科・専攻の就職担当教員の連携、専門職の就職情報の提供、地方の就職情報の提供を求める意見があった。また、就職課の予約がとりにくい点も指摘されていた。外国人留学生からは、英語での情報提供、英語で受けられるインターンシップ情報の提供、国際的な就職情報の提供のほか、日本での就活マナーや日本企業の情報提供を求める意見があった。

A5. その他 (61件)

Web掲示板(TIPS)に関連する要望が31件を占めており、大部分が、使いにくい、必要な情報にたどり着けないなど、検索・通知機能の設定を求めるものであった。また、PDFファイルは読みにくいとの意見もあった。中には紙の掲示板の復活を求める声もあり、研究科等单位での情報の整理などが必要であろう。他には、TWINSとmanaba、Web掲示板の統一を求める意見もあった。外国人留学生からは、英語での情報提供を求める意見があった。また、研究倫理申請の簡素化やハラスメント対応の改善、自転車のICタグ制度についての意見、教員の補充を求める意見もあった。

B. 教職員に対する要望

B1. 教員に対して (43 件)

教員の増員や、教員の事務負担などを減らして研究指導の時間を確保してほしいという意見が多数あった。また、授業の質が低いことやアカデミックハラスメントなど、教員のモラルを指摘する意見も複数あった。

B2. 事務職員に対して (40 件)

学生に対する対応の悪さを指摘する意見が 23 件と過半数を占めた。具体的には、相談しやすい雰囲気作りを求める意見と、手続きのミスの減少、窓口間のたらいまわしの減少を求めるものであった。

B3. その他 (11 件)

教職員の雑務の効率化、教員数の増加、ハラスメント対応の質の向上などの意見があった。外国人留学生からは、職員の学生対応の改善と英語での情報提供を求める意見があった。

C. 施設に対する要望

C1. 学修・研究環境 (31 件)

空調に関するものが 6 件、古い建物の改修・耐震化に関するものが 6 件あった。他には共同利用機器の使用時間の延長、研究施設の充実を求める意見や、デスクスペースの確保を求める意見があった。

C2. IT (22 件)

Wi-Fi に関して、繋がらないところをなくしてほしい、速度を早くしてほしいという要望があった。また、manaba と TWINS などの IT システムが使いにくい、他大学からの進学者には使い方がわからないなどの指摘があった。

C3. 図書館 (37 件)

蔵書に関するもの(新しい書籍や online journal の充実、専門書以外の図書の実)を求める意見が 18 件、開館時間の延長を求める意見が 5 件あった。他には、パソコン台数の増加や、ラウンジスペースとパソコンスペースの隔離、貸出期間の延長を求める意見があった。

C4. 宿舎 (30 件)

未改修宿舎の改修関係が 6 件、利用費を安くするが 2 件あった。また、一の矢宿舎の風呂の再開やシャワー料金の減額、コインランドリーの無料化、部屋内の設備の更新、LAN 環境の充実 (学外業者委託をしない) などの意見もあった。さらに、利用者のマナーが悪いことを指摘する意見(女性宿舎に男性が立ち入る、キッチンの使用方法、ごみの出し方) もあった。

C5. 食堂・売店 (19 件)

食堂に関して、値段が高い、美味しくないという意見があった。また、営業時間の延長を求める意見も多数あった。

C6. 駐輪場 (26 件)

駐輪スペースが足りない・狭いという指摘が多くあった。また、放置自転車に対する対処を求める意見も多数あり、さらに ICycle システムの有効活用を求める意見もあった。

C7. ペデ・道路等 (28 件)

大学全体にわたって、ペデやループ道路に凹凸や段差があり危険という指摘が数多く出された。他にも、ペデが狭くて危険・タイルやレンガの場所は雨天時に滑るなどの指摘があった。また、歩行者と自転車のレーンを分けるといった提案もあった。他には、外灯の設置を求める意見も複数あった。

C8. その他 (28 件)

体育館など運動施設に対する要望（利用しやすく）、文科系サークル館の改修・文化系サークルの活動場所の拡充、駐車場に対する要望、トイレに対する要望などがあった。中には、ライティングセンター（日本語、英語文章の添削）の設置、証明書発行機の利用時間延長、施設の改修予定を学生に周知することを望む意見もあった。

D. その他 (37 件)

TWINS、KdB などの Web システムに関する意見、自転車運転マナーや学内循環バスなどの交通手段に関する意見、子供を持つ学生や社会人学生へのサポートなど、様々な要望が出された。また、この調査に関しても項目が多すぎるなどの指摘があった。外国人留学生からは、やはり英語での情報提供を求める意見があった。

【資料】

平成 29 年度筑波大学 学生生活実態調査（大学院）データ集計表＜全体＞

I. あなた自身について

1. 社会人経験

	回答数	回答率
1 社会人の経験がある	316	23.1%
2 社会人の経験はない	1,053	76.9%
合計	1,369	

1-1. 在職状況

	回答数	回答率
1 在職中	140	36.5%
2 休職中	18	4.7%
3 退・辞職し、現在、定職はない	134	34.9%
4 定職はなかった	6	1.6%
5 その他	16	4.2%
無効・無回答	70	18.2%
合計	384	

1-1-1. 職場の理解（複数選択）

	回答数	回答率
1 学費の負担も含め、全面的に得られている	32	20.3%
2 就学に支障のない程度に得られている	86	54.4%
3 職場の休職制度を利用	14	8.9%
4 職場の派遣制度を利用	7	4.4%
5 職場のその他の制度を利用	7	4.4%
6 職場には秘密にしている	2	1.3%
7 その他	18	11.4%
無効・無回答	1	0.6%
合計	167	

2. 志望理由（複数選択）

	回答数	回答率
1 研究領域に魅力がある	847	61.9%
2 教育内容が優れている	360	26.3%
3 希望する分野がある	817	59.7%
4 指導教員の資質・能力、指導体制が優れている	627	45.8%
5 研究室の雰囲気に魅力がある	386	28.2%
6 教育・研究施設が優れている	393	28.7%
7 幅広い専門が学べる	307	22.4%
8 学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している	192	14.0%
9 修了後の進路など就職に有利である	357	26.1%
10 修了年限の弾力的な運用がある	56	4.1%
11 親や指導教員などから勧められた	197	14.4%
12 自宅から通える	148	10.8%
13 資格などが取りやすい	34	2.5%
14 その他	79	5.8%
合計	4,800	

3. 入学前の在籍大学・大学院

	回答数	回答率
1 筑波大学・大学院	674	49.2%
2 日本国内の他大学・大学院	422	30.8%
3 日本国外の大学・大学院	273	19.9%
合計	1,369	

Ⅱ. 生活全般について

4. 家計支持者

	回答数	回答率
1 あなた自身	332	24.3%
2 配偶者	66	4.8%
3 父親・母親	959	70.1%
4 両親以外の親族	4	0.3%
5 その他	8	0.6%
合計	1,369	

5. 大学に希望する経済支援（複数選択）

	回答数	回答率
1 給付型（返還義務なし）奨学金	919	67.1%
2 貸与型（返還義務あり）奨学金	217	15.9%
3 授業料免除	893	65.2%
4 一時貸付金	44	3.2%
5 その他	24	1.8%
6 特に希望しない	160	11.7%
合計	2,257	

5-1. 一時貸付金の必要理由（複数選択）

	回答数	回答率
1 授業料のため	29	65.9%
2 生活費のため	32	72.7%
3 その他	3	6.8%
無効・無回答	3	6.8%
合計	67	

6. 1ヶ月の収入

	回答数	回答率
1 6万円未満	484	35.4%
2 6～9万円未満	271	19.8%
3 9～12万円未満	205	15.0%
4 12～15万円未満	165	12.1%
5 15～18万円未満	81	5.9%
6 18～25万円未満	65	4.7%
7 25～30万円未満	26	1.9%
8 30万円以上	72	5.3%
合計	1,369	

7. 収入源（複数選択）

	回答数	回答率
1 有職者としての給与	153	11.2%
2 奨学金	485	35.4%
3 仕送り	577	42.1%
4 筑波大学でのTA・TF(ティーチングアシスタント、ティーチングフェロー)	403	29.4%
5 筑波大学でのRA(リサーチ・アシスタント)	75	5.5%
6 指導教員から頼まれた学内でのアルバイト	137	10.0%
7 「4」～「6」以外の学内でのアルバイト	92	6.7%
8 他大学での非常勤講師	41	3.0%
9 民間会社の契約社員や派遣社員	15	1.1%
10 筑波大学以外での定常的なアルバイト	362	26.4%
11 筑波大学以外での不定期なアルバイト	179	13.1%
12 貯金	156	11.4%
13 借入金	10	0.7%
14 研究奨励費	42	3.1%
15 その他	30	2.2%
合計	2,757	

8. 1ヶ月の生活費・研究活動費

	回答数	回答率
1 充分である	234	17.1%
2 まあまあ足りている	418	30.5%
3 ぎりぎりである	500	36.5%
4 不足している	217	15.9%
合計	1,369	

8-1. 生活費・研究活動費で不足しているもの（複数選択）

	回答数	回答率
1 授業料が納入できない	68	31.3%
2 研究時間確保でアルバイトができない	124	57.1%
3 研究用資料・書籍が購入できない	106	48.8%
4 学会・研究会などに行けない	91	41.9%
5 研究のための調査に行けない	66	30.4%
6 研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない	38	17.5%
7 その他	25	11.5%
無効・無回答	7	3.2%
合計	525	

9. アルバイトの種類（複数選択）

	回答数	回答率
1 家庭教師	45	7.0%
2 塾講師・添削指導	96	14.8%
3 一般事務	64	9.9%
4 特殊技能(翻訳・通訳・スポーツコーチ等)	121	18.7%
5 飲食店での業務	189	29.2%
6 飲食店以外の軽労働(調査・配達・販売等)	127	19.6%
7 重労働(引越し・建築関係等)	23	3.6%
8 その他	116	17.9%
合計	781	

10. アルバイトを行う理由（複数選択）

	回答数	回答率
1 学費や生活費のため	567	87.6%
2 サークル活動費のため	43	6.6%
3 レジャー・海外旅行のため	145	22.4%
4 技術を得るため	140	21.6%
5 友人を得るため	33	5.1%
6 その他	41	6.3%
合計	969	

11. アルバイトの研究・学修への影響

	回答数	回答率
1 かなり妨げになっている	67	10.5%
2 多少妨げになっている	300	46.8%
3 妨げになっていない	274	42.7%
合計	641	

12. 現在の住まい

	回答数	回答率
1 学生宿舎	248	18.1%
2 民間のアパート・マンションなど	908	66.3%
3 親と同居	145	10.6%
4 親戚・知人宅	4	0.3%
5 その他	64	4.7%
合計	1,369	

12.1 学生宿舎への入居

	回答数	回答率
1 希望する	87	7.5%
2 希望しない	948	82.1%
無効・無回答	119	10.3%
合計	1,154	

12.2 現在の居住地

	回答数	回答率
A1 つくば市 天久保	339	29.7%
A2 つくば市 春日	256	22.5%
A3 つくば市 桜	71	6.2%
A4 つくば市 柴崎	11	1.0%
A5 つくば市 吾妻	14	1.2%
A6 (つくば市内) その他	118	10.4%
B1 茨城県南地域	43	3.8%
B2 茨城県西地域	11	1.0%
B3 (つくば市以外で茨城県内)その他	6	0.5%
C1 東京都	54	4.7%
C2 千葉県	49	4.3%
C3 埼玉県	32	2.8%
C4 (茨城県外で関東地方) その他	15	1.3%
D1 (その他の地域) その他	33	2.9%
無効・無回答	88	7.7%
合計	1,140	

12-3. ①学生宿舎の地区

		回答数	回答率
1	一の矢地区	72	28.2%
2	平砂地区	52	20.4%
3	追越地区	95	37.3%
4	春日地区	2	0.8%
無効・無回答		34	13.3%
合計		255	

12-3. ②居室のタイプ

		回答数	回答率
1	単身宿舎	167	65.0%
2	世帯宿舎	16	6.2%
3	二人室	25	9.7%
4	シェアハウス	16	6.2%
無効・無回答		33	12.8%
合計		257	

12-4. 学生宿舎満足度

		かなり満足		おおむね満足		どちらとも いえない		少し不満		かなり不満		無効・無回答	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	料金	66	26.5%	84	33.7%	27	10.8%	41	16.5%	12	4.8%	19	7.6%
2	居室	56	22.5%	83	33.3%	39	15.7%	34	13.7%	17	6.8%	20	8.0%
3	補食室	30	12.0%	47	18.9%	71	28.5%	30	12.0%	44	17.7%	27	10.8%
4	トイレ	47	18.9%	66	26.5%	42	16.9%	38	15.3%	36	14.5%	20	8.0%
5	洗濯室(ランドリー)	46	18.5%	87	34.9%	45	18.1%	32	12.9%	17	6.8%	22	8.8%
6	浴場	47	18.9%	59	23.7%	69	27.7%	24	9.6%	22	8.8%	28	11.2%
7	コインシャワー	38	15.3%	63	25.3%	59	23.7%	28	11.2%	26	10.4%	35	14.1%
8	外灯	48	19.3%	79	31.7%	55	22.1%	26	10.4%	17	6.8%	24	9.6%
9	出入口の施錠	71	28.5%	74	29.7%	39	15.7%	27	10.8%	15	6.0%	23	9.2%
10	売店・食堂	27	10.8%	50	20.1%	78	31.3%	36	14.5%	32	12.9%	26	10.4%
11	管理事務所の対応	74	29.7%	79	31.7%	48	19.3%	13	5.2%	13	5.2%	22	8.8%
12	総体的に	24	9.6%	112	45.0%	45	18.1%	38	15.3%	9	3.6%	21	8.4%

13. 平均的な1日または1週間の過ごし方

		平均時間
1	大学の授業・実習・研究等の時間	6.6時間/日
2	授業等以外の学習時間	2.7時間/日
3	睡眠時間	6.7時間/日
1	大学の授業・実習・研究等の時間	36.4時間/週
2	授業等以外の学習時間	15.8時間/週
3	サークル・ボランティアなどの活動時間	1.9時間/週
4	アルバイト・就業時間	9.7時間/週

14. 日常生活満足度

		回答数	回答率
1	かなり満足	110	8.0%
2	おおむね満足	651	47.6%
3	どちらともいえない	360	26.3%
4	少し不満	173	12.6%
5	かなり不満	75	5.5%
合計		1,369	

Ⅲ. 通学・事故等について

15. 通学手段（複数選択）

		雨天時		雨天以外	
		回答数	回答率	回答数	回答率
1	徒歩	662	48.4%	481	35.1%
2	自転車	537	39.2%	870	63.6%
3	バイク（原付を含む）	53	3.9%	81	5.9%
4	自家用車	252	18.4%	203	14.8%
5	キャンパス交通システム(学内循環バス)	358	26.2%	270	19.7%
6	学内循環バス以外の路線バス	84	6.1%	57	4.2%
7	つくばエクスプレス (TX)	165	12.1%	161	11.8%
8	JR 常磐線	18	1.3%	19	1.4%
9	その他	69	5.0%	57	4.2%
合計		2,198		2,199	

16. 片道の通学時間（雨天以外）

		回答数	回答率
1	15分未満	797	58.2%
2	15分～30分未満	283	20.7%
3	30分～45分未満	42	3.1%
4	45分～1時間未満	44	3.2%
5	1時間～1時間半未満	75	5.5%
6	1時間半～2時間未満	57	4.2%
7	2時間以上	71	5.2%
合計		1,369	

17. 学内循環バスの利用頻度

		回答率	回答数
1	ほぼ毎日	170	12.4%
2	週に2～3回	208	15.2%
3	月に2～3回	290	21.2%
4	年に数回	341	24.9%
5	いままでに数回	219	16.0%
6	利用したことはない	141	10.3%
合計		1,369	

18. 自転車事故経験の有無（過去1年間、新入生は大学院入学後）（複数選択）

		回答数	回答率
1	事故の経験はない	1,286	93.9%
2	加害者になったことがある	6	0.4%
3	被害者になったことがある	35	2.6%
4	自損事故の経験がある	48	3.5%
合計		1,375	

19. 交通事故経験の有無（過去1年間、新入生は大学院入学後）（複数選択）

		回答数	回答率
1	事故の経験はない	1,296	94.7%
2	加害者になったことがある	23	1.7%
3	被害者になったことがある	32	2.3%
4	自損事故の経験がある	30	2.2%
合計		1,381	

20. 盗難被害の有無（大学院入学後）（複数選択）

		回答数	回答率
1	被害にあったことはない	1,240	90.6%
2	学内で被害にあった	84	6.1%
3	学外で被害にあった	58	4.2%
合計		1,382	

21. 引ったくり・暴行・傷害・たかり・恐喝等被害の有無（大学院入学後）（複数選択）

		回答数	回答率
1	被害にあったことはない	1,345	98.2%
2	学内で被害にあった	8	0.6%
3	つくば市内で被害にあった	12	0.9%
4	上記以外の場所で被害にあった	6	0.4%
合計		1,371	

IV. 健康状態について

22. 健康状態（過去1年間）（複数選択）

	回答数	回答率
1 健康である	779	56.9%
2 健康不良で数日寝込んだ(受診・入院を除く)	454	33.2%
3 身体の病気で受診・入院した	232	16.9%
4 精神的な問題で受診・入院した	72	5.3%
5 心理的な問題で相談機関を利用した	73	5.3%
6 けがで受診・入院した	51	3.7%
7 その他	14	1.0%
合計	1,675	

23. 悩みの原因（過去1年間）（複数選択）

	回答数	回答率
1 学業や研究の不振	782	57.1%
2 単位修得の問題	141	10.3%
3 転研究科・転専攻	42	3.1%
4 休学・退学	78	5.7%
5 進路	532	38.9%
6 就職	522	38.1%
7 友人との関係	158	11.5%
8 教員との関係	205	15.0%
9 研究室内の問題	222	16.2%
10 部活動・サークル内の問題	41	3.0%
11 恋愛関係	189	13.8%
12 家族関係	145	10.6%
13 自分の性格	282	20.6%
14 自分の精神的・心理的状态	383	28.0%
15 自分の身体的病気・けが等の状態	146	10.7%
16 経済状態	414	30.2%
17 ハラスメント	50	3.7%
18 その他	36	2.6%
19 特になし	191	14.0%
合計	4,559	

24. 感じ方（過去1年間）

	とてもあてはまる		少しあてはまる		あまりあてはまらない		全くあてはまらない		無効・無回答	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 自分のやりたいことができている	493	36.0%	645	47.1%	192	14.0%	37	2.7%	2	0.1%
2 何となく不安になることがある	421	30.8%	580	42.4%	253	18.5%	110	8.0%	5	0.4%
3 自分のことをよくわかってきている人がある	542	39.6%	522	38.1%	232	16.9%	68	5.0%	5	0.4%
4 何をやってもうまくいかない気がする	141	10.3%	378	27.6%	530	38.7%	315	23.0%	5	0.4%
5 気分が憂鬱である	137	10.0%	432	31.6%	426	31.1%	369	27.0%	5	0.4%
6 「死にたい」と思ったことがある	88	6.4%	154	11.2%	243	17.8%	876	64.0%	8	0.6%
7 大学生活が充実している	374	27.3%	687	50.2%	239	17.5%	62	4.5%	7	0.5%

V. 相談相手・情報の得方について

25-1. 相談相手

	1 番目		2 番目		3 番目	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 家族	551	40.2%	243	17.8%	229	16.7%
2 恋人	237	17.3%	131	9.6%	43	3.1%
3 友人 (学内)	227	16.6%	351	25.6%	237	17.3%
4 友人 (学外)	203	14.8%	281	20.5%	200	14.6%
5 先輩・後輩 (学内)	32	2.3%	111	8.1%	159	11.6%
6 先輩・後輩 (学外)	16	1.2%	48	3.5%	55	4.0%
7 教員	12	0.9%	75	5.5%	174	12.7%
8 その他	16	1.2%	24	1.8%	40	2.9%
9 特になし	74	5.4%	85	6.2%	203	14.8%
無効・無回答	1	0.1%	20	1.5%	29	2.1%
合計	1,369		1,369		1,369	

25-2. 相談相手と話す機会

	頻繁にある		少しある		あまりない		ほとんどない		無効・無回答	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 1番目の人とは	876	66.9%	280	21.4%	72	5.5%	25	1.9%	57	4.4%
2 2番目の人とは	559	42.4%	497	37.7%	131	9.9%	48	3.6%	83	6.3%
3 3番目の人とは	312	25.3%	504	40.9%	220	17.9%	48	3.9%	147	11.9%

26. 情報取得源 (複数選択)

	回答数	回答率
1 指導教員	887	64.8%
2 研究科・専攻の事務職員	430	31.4%
3 友人等	899	65.7%
4 Web 掲示板	365	26.7%
5 TWINS 掲示板	317	23.2%
6 大学の HP	486	35.5%
7 研究科・専攻等の HP	364	26.6%
8 専攻等のメーリングリスト	231	16.9%
9 SNS (social networking service)	248	18.1%
10 その他	61	4.5%
合計	4,288	

27. 相談機関

	利用したことがある		利用したことはないが、利用の仕方は知っている		利用したことはないが、存在は知っている		利用したことがなく、存在も知らない		無効・無回答	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 スチューデントプラザ総合相談窓口	218	15.9%	91	6.6%	672	49.1%	386	28.2%	2	0.1%
2 春日地区総合相談窓口	24	1.8%	48	3.5%	274	20.0%	1,021	74.6%	2	0.1%
3 保健管理センター 学生相談室	209	15.3%	140	10.2%	691	50.5%	327	23.9%	2	0.1%
4 キャリア・就職相談(学生)	150	11.0%	119	8.7%	662	48.4%	433	31.6%	5	0.4%
5 相談室「あう」	14	1.0%	34	2.5%	235	17.2%	1,081	79.0%	5	0.4%
6 保健管理センター1階 精神保健相談(精神科)	111	8.1%	114	8.3%	575	42.0%	564	41.2%	5	0.4%
7 保健管理センター2階 健康相談(内科)	226	16.5%	113	8.3%	532	38.9%	492	35.9%	6	0.4%
8 LGBT等の相談窓口(DACセンターダイバーシティ部門)	6	0.4%	38	2.8%	297	21.7%	1,007	73.6%	21	1.5%
9 障害学生支援の相談窓口(DACセンターアクセシビリティ部門)	16	1.2%	40	2.9%	367	26.8%	935	68.3%	11	0.8%
10 留学生相談室	46	3.4%	81	5.9%	561	41.0%	678	49.5%	3	0.2%
11 ハラスメント相談センター	12	0.9%	48	3.5%	446	32.6%	860	62.8%	3	0.2%

28. 定期的に読む学内広報誌 (複数選択)

	回答数	回答率
1 筑波大学新聞	251	18.3%
2 つくばスチューデント	57	4.2%
3 Campus	70	5.1%
4 筑波スポーツ	52	3.8%
5 TSUKUBA SPORTS NEWS FLASH(TSA)	16	1.2%
6 その他	21	1.5%
7 どれも読まない	1,049	76.6%
合計	1,516	

VI. 課外活動について

29. サークル活動

	回答数	回答率
1 正式メンバーで現在活動中	150	11.0%
2 コーチなどで現在活動中	20	1.5%
3 「1」「2」以外で現在活動中	99	7.2%
4 以前は活動していた	187	13.7%
5 活動したことはない	913	66.7%
合計	1,369	

29-1. サークル活動の動機（複数選択）

	回答数	回答率
1 友人がほしくて	211	46.3%
2 知識・教養のため	109	23.9%
3 健康のため	146	32.0%
4 技術向上のため	171	37.5%
5 団体活動を経験したい	89	19.5%
6 趣味と一致	252	55.3%
7 余暇の利用のため	132	28.9%
8 レクリエーションの一環で	78	17.1%
9 希望の進路と同じで有益	19	4.2%
10 就職などにプラス	17	3.7%
11 大学時代からの継続	165	36.2%
12 勧誘されて	27	5.9%
13 社会貢献のため	41	9.0%
14 その他	14	3.1%
無効・無回答	6	1.3%
合計	1,477	

30. ①～④カルト宗教等への参加勧誘

	ある		ない	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1 大学院入学後、キャンパス内で勧誘を受けたことが	146	10.7%	1,223	89.3%
2 大学院入学後、キャンパス外で勧誘を受けたことが	337	24.6%	1,032	75.4%
3 大学院入学後、キャンパス内で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことが	237	17.3%	1,132	82.7%
4 大学院入学後、キャンパス外で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことが	327	23.9%	1,042	76.1%

31. ボランティア活動（複数選択）

	回答数	回答率
1 授業やゼミを通じて参加したことがある	152	11.1%
2 つくばアクションプロジェクト(T-ACT)を通じて参加したことがある	23	1.7%
3 サークル活動を通じて参加したことがある	55	4.0%
4 その他の機会に参加したことがある	202	14.8%
5 参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている	250	18.3%
6 ボランティア活動に参加する予定はない	755	55.1%
合計	1,437	

32. T-ACTの活動（複数選択）

	回答数	回答率
1 T-ACTで企画の発案者(プランナー)や運営者(オーガナイザー)を行ったことがある	25	1.8%
2 T-ACTの企画に参加者(パーティシパント)として関わったことがある	43	3.1%
3 総合科目「みんなで創ろう『つくばアクションプロジェクト』」を受けたことがある	25	1.8%
4 T-ACT主催のイベント(活動報告会やシンポジウムなど)に参加したことがある	20	1.5%
5 その他の機会でもT-ACTに関わったことがある	49	3.6%
6 参加したことはないが、在学中に参加したいと考えている	239	17.5%
7 T-ACTの活動に参加する予定はない	997	72.8%
合計	1,398	

33. 学外研修施設利用の有無

	回答数	回答率
1 ある	179	13.1%
2 ない	516	37.7%
3 存在を知らない	674	49.2%
合計	1,369	

VII. 進路や就職活動について

34. 修了後の進路

	回答数	回答率
A1 (進学等) 筑波大学大学院	129	9.4%
A2 (進学等) 国内の他大学大学院	20	1.5%
A3 (進学等) 海外の大学院	18	1.3%
A4 (進学等) 研究者・研究生等(日本学術振興会・研究生)	34	2.5%
A5 (進学等) その他	4	0.3%
B1 (就職) 企業	573	41.9%
B2 (就職) 大学教員	134	9.8%
B3 (就職) 研究者	61	4.5%
B4 (就職) 小・中・高校の教員	78	5.7%
B5 (就職) 公務員	67	4.9%
B6 (就職) 自営・起業	4	0.3%
B7 (就職) その他	38	2.8%
C1 (復職) 企業	15	1.1%
C2 (復職) 大学教員	6	0.4%
C3 (復職) 研究者	9	0.7%
C4 (復職) 小・中・高校の教員	12	0.9%
C5 (復職) 公務員	12	0.9%
C6 (復職) 自営	1	0.1%
C7 (復職) その他	10	0.7%
D1 決まっていない	90	6.6%
D2 まだ考えていない	16	1.2%
D3 その他	38	2.8%
合計	1,369	

35. 外国での就労希望度

	回答数	回答率
1 強く思う	199	14.5%
2 やや思う	381	27.8%
3 分からない	266	19.4%
4 あまり思わない	299	21.8%
5 全く思わない	224	16.4%
合計	1,369	

36. 進路決定の理由(複数選択)

	回答数	回答率
1 やりがい	455	56.9%
2 社会的貢献	281	35.1%
3 年収	431	53.9%
4 安定した生活	424	53.0%
5 ワーク・ライフ・バランス	356	44.5%
6 自分の能力や適性	498	62.3%
7 専門知識を深める	232	29.0%
8 大学院での学修の活用	186	23.3%
9 大学院での研究の活用	196	24.5%
10 社会的評価	180	22.5%
11 将来性	329	41.1%
12 地理的利便性	183	22.9%
13 その他	21	2.6%
合計	3,772	

37. 将来の進路についての感じ方

	よくあてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		全くあてはまらない	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 将来の進路(キャリア形成)について、とても関心を持っている	409	54.9%	220	29.5%	76	10.2%	27	3.6%	13	1.7%
2 働くことについて、真剣に考えたことがない	43	5.8%	70	9.4%	97	13.1%	209	28.2%	322	43.5%
3 進路決定では、周囲の雰囲気に流されることはない	243	32.8%	201	27.2%	177	23.9%	99	13.4%	20	2.7%
4 職業生活を充実させるためには、自分自身の責任が大きいと思う	435	58.7%	217	29.3%	65	8.8%	14	1.9%	10	1.3%
5 希望する進路に進むための具体的な計画を立てている	166	22.4%	257	34.7%	180	24.3%	108	14.6%	30	4.0%
6 希望する進路は決まっているが、それに向けての努力は特にしていない	36	4.8%	108	14.5%	187	25.2%	244	32.8%	168	22.6%

38. 就職活動の情報源（複数選択）

		回答数	回答率
1	指導教員	169	21.1%
2	専攻などの就職委員	44	5.5%
3	ゼミの同輩・先輩	296	37.0%
4	キャリアサポート部門/就職課	92	11.5%
5	キャリアサポート部門/就職課HP	72	9.0%
6	学内の就職ガイダンス	179	22.4%
7	就職情報誌	77	9.6%
8	就職情報サイト	304	38.0%
9	学外の就職イベント	189	23.6%
10	企業・自治体等のHP	229	28.6%
11	インターンシップ	213	26.6%
12	OB・OG 訪問	107	13.4%
13	その他	52	6.5%
合計		2,023	

39. 指導教員への相談

		回答数	回答率
1	たびたび相談した	58	8.6%
2	時々相談した	191	28.3%
3	ほとんど相談していない	184	27.2%
4	相談はしていない	238	35.2%
5	相談しようとしたが断られた	0	0.0%
6	その他	5	0.7%
合計		676	

40. 就職活動の学修・研究への影響

		回答数	回答率
1	支障は全くでていない	134	20.4%
2	支障はほとんどでていない	209	31.8%
3	支障が多少はでている	253	38.5%
4	支障がとてもでている	61	9.3%
合計		657	

Ⅷ. 本学への期待や要望等について

41. 教員に期待すること

	回答数	回答率
1 優れた研究者であってほしい	478	34.9%
2 授業内容を充実させてほしい	151	11.0%
3 もっと解りやすく教えてほしい	180	13.1%
4 研究指導の時間を確保してほしい	255	18.6%
5 ハラスメントの問題に敏感になってほしい	86	6.3%
6 研究成果を教育の現場にもっと反映してほしい	76	5.6%
7 その他	38	2.8%
8 特になし	105	7.7%
合計	1,369	

42. 教育面や制度面で充実してほしい点(複数選択)

	回答数	回答率
1 教育研究スタッフ	527	38.5%
2 カリキュラム	387	28.3%
3 講演会等課外教育プログラム	157	11.5%
4 留学制度	234	17.1%
5 就職活動の支援	383	28.0%
6 教員との懇談会	118	8.6%
7 奨学金・授業料免除等の経済的支援	820	59.9%
8 ボランティア活動に対する支援	77	5.6%
9 支援室や事務室の対応	342	25.0%
10 メンタル面に関する支援	151	11.0%
11 ハラスメント対応(組織・制度)	106	7.7%
12 その他	59	4.3%
合計	3,361	

43. 整備・充実してほしい施設等(複数選択)

	回答数	回答率
1 教室・実験室	540	39.4%
2 図書館	534	39.0%
3 IT環境	419	30.6%
4 体育施設	257	18.8%
5 課外活動施設	147	10.7%
6 セキュリティ	161	11.8%
7 駐車場	240	17.5%
8 駐輪場	345	25.2%
9 学内循環バス	306	22.4%
10 ペDESTリアン	168	12.3%
11 外灯	430	31.4%
12 その他	91	6.6%
合計	3,638	

44. 福利厚生施設満足度

	満足		まあ満足		普通		やや不満		不満		無効・無回答	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 食堂	276	20.2%	436	31.8%	332	24.3%	187	13.7%	138	10.1%	0	0.0%
2 喫茶	288	21.0%	407	29.7%	458	33.5%	115	8.4%	97	7.1%	4	0.3%
3 パン販売	442	32.3%	481	35.1%	338	24.7%	57	4.2%	48	3.5%	3	0.2%
4 キッチンカー	173	12.6%	308	22.5%	711	51.9%	100	7.3%	72	5.3%	5	0.4%
5 書店	315	23.0%	465	34.0%	399	29.1%	128	9.3%	57	4.2%	5	0.4%
6 画材	208	15.2%	292	21.3%	781	57.0%	43	3.1%	38	2.8%	7	0.5%
7 その他売店	188	13.7%	319	23.3%	667	48.7%	124	9.1%	60	4.4%	11	0.8%
8 自動販売機	327	23.9%	391	28.6%	420	30.7%	143	10.4%	60	4.4%	28	2.0%

45. キャンパスマナーの向上を望むこと(複数選択)

	回答数	回答率
1 運転マナー	532	38.9%
2 駐輪マナー	636	46.5%
3 飲酒マナー	201	14.7%
4 談話室等共有スペースの利用マナー	200	14.6%
5 喫煙マナー	134	9.8%
6 その他	42	3.1%
7 特になし	400	29.2%
合計	2,145	

東京地区

平成 29 年度 筑波大学学生生活実態調査（大学院生用）

*** お願い ***

この調査は、皆さんの学生生活の実態を把握し、本学の学生生活の一層の向上および教育改善に資することを目的として実施するもので、調査対象者は学群・学類、大学院の学生（正規生）の皆さんです。

この調査は、本調査以外の目的に用いることはありませんので、ありのままを記入してください。

調査結果は、実態調査報告書として公表し、ホームページでも公開する予定です。

個人情報の取り扱いなどについて

今回の学生生活実態調査は、学習管理システム manaba（統一認証）を利用した調査となるため、調査元の学生部は、皆さんの個人情報を取得することになりますが、個人を特定できる部分のデータ（学籍番号・氏名）は使用しません。アンケート結果も統計的に処理し、個人を特定できるデータは一切公開いたしません。また、個人情報については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」を遵守するとともに、「国立大学法人筑波大学個人情報保護管理規則」に基づき、厳密に取り扱います。

以上をご了解の上で回答していただきたくお願いいたします。

この調査の趣旨をご理解のうえ、多くの学生の皆さんのご協力をお願いいたします。

平成 29 年 10 月

筑波大学 副学長（学生担当） 玉川 信一

1. 記入の方法などについて

- ① 調査は、全部で 27 問です。（所要時間は 20 分程度です。）
- ② 回答は、番号を選ぶ選択方式と、具体的に記述するものがあります。
番号選択方式の場合は、該当する番号を選んでください。
その他欄等への記述の場合は、指定された欄に入力してください。
- ③ 平成 29 年 10 月 1 日現在で記入してください。
- ④ アンケートを途中保存する場合は、アンケートページ内の「中断する」のボタンを押してください。
- ⑤ アンケートページを前後する場合は、アンケートページ内の「前へ」「次へ」のボタンを使用し、ブラウザの戻るボタンは使用しないでください。

2. 提出期間

平成 29 年 10 月 2 日（月）～平成 29 年 10 月 31 日（火）

3. ご質問・ご意見等の問い合わせ先（調査元：学生部 学生生活課 学生企画チーム）

電 話：029-853-2298・2224

メール：gk.gakuseikikaku@un.tsukuba.ac.jp

I. あなた自身について

問1. 社会人の経験はありますか

- ある ない

問1で「ある」を選択した方にお聞きします。

問1-1. 現在の在職状況について、あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 在職中
2. 休職中
3. 退・辞職し、現在、定職はない
4. 定職はなかった
5. その他

問1-1で「1. 在職中」「2. 休職中」を選択した方にお聞きします。

問1-1-1. 筑波大学大学院に入学するにあたって職場の理解は得られていますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 学費の負担も含め、全面的に得られている
2. 就学に支障のない程度に得られている
3. 職場の休職制度を利用
4. 職場の派遣制度を利用
5. 職場のその他の制度を利用
6. 職場には秘密にしている
7. その他

問2. 筑波大学大学院を志望した主な理由について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 研究領域に魅力がある
2. 教育内容が優れている
3. 希望する分野がある
4. 指導教員の資質・能力、指導体制が優れている
5. 研究室の雰囲気に魅力がある
6. 教育・研究施設が優れている
7. 幅広い専門が学べる
8. 学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している
9. 修了後の進路など就職に有利である
10. 修了年限の弾力的な運用がある
11. 親や指導教員などから勧められた
12. 自宅から通える
13. 資格などが取りやすい
14. その他

問3. あなたが筑波大学大学院に入学する前に在籍していた大学または大学院について、あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 筑波大学・大学院
2. 日本国内の他大学・大学院
3. 日本国外の大学・大学院

問4. あなたの現在の住まいについて、あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 自宅
2. 賃貸のアパート・マンションなど
3. 親と同居
4. 親戚・知人宅
5. その他

問5. あなたの現在の居住地について、あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 東京都23区内
2. 東京都23区外
3. 千葉県
4. 埼玉県
5. 神奈川県
6. その他

II. 生活全般について

問6. あなた、もしくは、あなたの家族の主たる家計支持者はどなたですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. あなた自身
2. 配偶者
3. 父親・母親
4. 両親以外の親族
5. その他

◎「5. その他」を選択した方は、主たる家計支持者を記入してください。

問7. 大学に希望する経済支援は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 給付型（返還義務なし）奨学金
2. 貸与型（返還義務あり）奨学金
3. 授業料免除
4. 一時貸付金
5. その他
6. 特に希望しない

◎「5. その他」を選択した方は、希望する経済支援の具体例を記入してください。

問7で「4. 一時貸付金」を選択した方にお聞きます。

問7-1. 一時貸付金を希望する理由は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 授業料のため
2. 生活費のため
3. その他

問8. あなたの1ヶ月の平均的な収入の収入源はどのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 有職者としての給与
2. 奨学金
3. 仕送り
4. 他大学での非常勤講師
5. 民間会社の契約社員や派遣社員
6. 不定期なアルバイト
7. 借入金
8. その他

◎「8. その他」を選択した方は、収入源を記入してください。

問9. 平均的な1ヶ月の生活費や研究活動費などは充分ですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 充分である
2. まあまあ足りている
3. ぎりぎりである
4. 不足している

問9で「4. 不足している」を選択した方にお聞きます。

問9-1. 生活費や研究活動費などで不足しているものは何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 授業料が納入できない
2. 研究時間確保でアルバイトができない
3. 研究用資料・書籍が購入できない
4. IT環境を整備できない
5. 学会・研究会などに行けない
6. 研究のための調査に行けない
7. 研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない
8. その他

◎「8. その他」を選択した方は、不足しているものの具体例を記入してください。

問10. 平均的な起床時刻と就寝時刻は何時頃ですか。それぞれについて、およその時刻を24時間制で記入してください。

- ① 起床時刻 時頃
② 就寝時刻 時頃

問11. 平日夜間の登校時に食事はいつとりますか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 通学前
2. 在校中
3. 帰宅後
4. とらない

問11で「2. 在校中」を選択した方にお聞きます。

問11-1. 在校中に食事をする場合は、どのようなものが多いですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 軽食を持参
2. 学内に設置の軽食用自販機を利用
3. 大学近辺の飲食店を利用
4. その他

問12. 現在の生活に、全体として満足していますか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. かなり満足
2. おおむね満足
3. どちらともいえない
4. 少し不満
5. かなり不満

Ⅲ. 通学・事故等について

問13. あなたが1回の通学のために利用している交通手段はどのようなものですか。雨天および雨天以外の日それぞれについて、あてはまるものをすべて選択してください。

① **雨天時**

1. 徒歩
2. 自転車
3. バス
4. バイク（原付を含む）
5. 自家用車
6. 東京メトロ丸の内線
7. その他

◎「7. その他」を選択した方は、具体的な交通手段を記入してください。

② 雨天以外

1. 徒歩
2. 自転車
3. バス
4. バイク（原付を含む）
5. 自家用車
6. 東京メトロ丸の内線
7. その他

◎「7. その他」を選択した方は、具体的な交通手段を記入してください。

問14. 雨天の日以外のあなたの通学時間は片道どのくらいですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 15分未満
2. 15分～30分未満
3. 30分～45分未満
4. 45分～1時間未満
5. 1時間～1時間半未満
6. 1時間半～2時間未満
7. 2時間以上

問15. 大学院入学後、盗難の被害に遭ったことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 被害にあったことはない
2. 学内で被害にあった
3. 学外で被害にあった

◎「2」、「3」を選択した方は、盗難物と場所を具体的に記入してください。

【盗難物】

【場 所】

問16. 宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘についてお尋ねします。

- ① 大学院入学後、キャンパス内で勧誘を受けたことが
 ある ない
- ② 大学院入学後、キャンパス外で勧誘を受けたことが
 ある ない
- ③ 大学院入学後、キャンパス内で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことが
 ある ない

- ④ 大学院入学後、キャンパス外で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことが
○ ある ○ ない

IV. 健康状態について

問17. あなたの過去1年間の健康状態について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 健康である
2. 健康不良で数日寝込んだ（受診・入院を除く）
3. 身体の病気で受診・入院した
4. 精神的な問題で受診・入院した
5. 心理的な問題で相談機関を利用した
6. けがで受診・入院した
7. その他

問18. あなたは過去1年間にどのようなことで困ったり悩んだりしましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 学業と仕事の両立
2. 学業や研究の不振
3. 単位修得の問題
4. 転研究科・転専攻
5. 休学・退学
6. 友人との関係
7. 教員との関係
8. 研究室内の問題
9. 恋愛関係
10. 家族関係
11. 自分の性格
12. 自分の精神的・心理的状态
13. 自分の身体的病気・けが等の状態
14. 経済状態
15. ハラスメント
16. その他
17. 特にない

◎「16. その他」を選択した方は、その内容を具体的に記入してください。

問19. 次の事柄について、過去1年間のあなたの感じ方に最も近いのはどれですか。あてはまるアルファベットの各1つずつ選択してください。

1. 自分のやりたいことができている
2. 何となく不安になることがある
3. 自分のことをよくわかってくれている人がいる

4. 何をやってもうまくいかない気がする
5. 気分が憂鬱である
6. 「死にたい」と思ったことがある
7. 大学生活が充実している

- a. とてもあてはまる
- b. 少しあてはまる
- c. あまりあてはまらない
- d. 全くあてはまらない

1 2 3 4 5 6 7

V. 相談相手・情報の得方について

問20-1. あなたが重要なことを話したり、悩みを相談する人はどなたですか。話したり相談しやすい順に3つまで選択してください。

1. 1番目に話したり相談しやすい人は
2. 2番目に話したり相談しやすい人は
3. 3番目に話したり相談しやすい人は

- a. 家族
- b. 職場の同僚
- c. 職場の上司
- d. 恋人
- e. 友人（学内）
- f. 友人（学外）
- g. 教員
- h. その他
- i. 特にいない

1 2 3

問20-1で「a」～「h」を選択した方にお聞きます。

問20-2. 「問20-1」で話したり相談しやすいとして選んだ人たちとあなたが話をする機会（電話やメールを含みます）は普段どのくらいありますか。それぞれの人について、あてはまるアルファベットを選択してください。

1. 1番の人とは
2. 2番の人とは
3. 3番の人とは

- a. 頻繁にある
- b. 少しある
- c. あまりない
- d. ほとんどない

1 2 3

問2 1. 学修・研究や生活に関わる一般的な情報を得ようとするとき、主に誰にあるいどこにアクセスしますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 指導教員
2. 研究科・専攻の事務職員
3. 友人等
4. Web 掲示板
5. TWINS 掲示板
6. 大学の HP
7. 研究科・専攻等の HP
8. 専攻等のメーリングリスト
9. SNS (social networking service)
10. その他

問2 2. 学生生活を送る上でさまざまな問題が生じることがあります。そのためにどのような相談機関が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 健康に関する相談
2. 精神・保健に関する相談
3. ワーク・ライフ・バランス相談
4. その他何でも相談

VI. 本学への期待や要望等について

問2 3. 筑波大学の教員に最も期待することはどのようなことですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. 優れた研究者であってほしい
2. 授業内容を充実させてほしい
3. もっと解りやすく教えてほしい
4. 研究指導の時間を確保してほしい
5. ハラスメントの問題に敏感になってほしい
6. 研究成果を教育の現場にもっと反映してほしい
7. その他
8. 特になし

◎「7. その他」を選択した方は、期待することを具体的に記入してください。

問24. 教育面や制度面で充実してほしいと思うのはどのようなことですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 教育研究スタッフ
2. カリキュラム
3. 留学制度
4. 教員との懇談会
5. 奨学金・授業料免除等の経済的支援
6. ボランティア活動に対する支援
7. 支援室や事務室の対応
8. メンタル面に関する支援
9. ハラスメント対応（組織・制度）
10. その他

◎「10. その他」を選択した方は、充実してほしい点を具体的に記入してください。

問25. キャンパス内の施設等で、特に整備・充実してほしいのはどれですか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 教室・実験室
2. 図書館
3. IT環境
4. セキュリティ
5. 駐車場
6. 外灯
7. その他

◎「7. その他」を選択した方は、整備・充実してほしい点を具体的に記入してください。

問26. 筑波大学の学外研修施設（山中・館山）を利用したことはありますか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1. ある
2. ない
3. 存在を知らない

問27. 筑波大学の大学院の教育・研究環境や学生生活全般に対する要望や提言等について、以下の分類表の該当する項目を記入後、具体的な内容を記述してください。複数項目に対する記述も可能です。

【分類表】

- (A) 制度等に対する要望（1. カリキュラム 2. 経済支援 3. その他）
(B) 教職員に対する要望（1. 教員に対して 2. 事務職員に対して 3. その他）
(C) 施設に対する要望（1. 研究環境 2. IT 3. 図書館 4. 売店 5. その他）
(D) その他（1. その他）

【記述例】

C 2. 開館時間を延長してほしい

A 1.

【記述欄】

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

*** Please Read ***

The purposes of this survey are to learn about living conditions for all students, to further improve student life in the University of Tsukuba, and to contribute to improvements in education. The survey is for all students (regular students) in all the schools, colleges and graduate schools of University of Tsukuba.

The survey will not be used for any purpose other than those mentioned above. Please answer with complete honesty.

We intend to release the survey's results in a survey report, which will also be published on the University's website.

Managing your personal information

This survey for student life is conducted using the study management system "manaba" (with integrated authentication). The Department of Student Affairs is administering the survey and will be able to access personal information of all students but will not use data that can identify individuals (student registration numbers and names). Statistics will be produced from the survey results in aggregate but data that can identify individuals will NOT be published. Personal information will be handled strictly in accordance with the law "Act on the Protection of Personal Information held by Administrative Organs" and in line with the University's "Personal Information Protection Rules".

Please understand the above points when filling out the survey.

We hope that all students will cooperate with the survey to improve student life.

October 2017

Shin-ichi Tamagawa, Vice President for Student Affairs,
University of Tsukuba

1. Notes for filling out the survey:

- ①The survey has a total of 27 questions. (The required time is approximately 20 minutes.)
- ②Some questions ask for selection of numbered answers and some ask for written answers. Where selection of numbered answers is required, select the applicable number(s). Where written answers are required, type in the designated boxes.
- ③The survey should be filled out as of October 1, 2017.
- ④If you like to save your entry in the middle of a questionnaire, click the ※¹“中斷する” box on the page of questionnaire.
- ⑤If you like to move your page back and forth, click the ※²“前へ” or ※³“次へ” box on the page of questionnaire. Do not use the back function on an Internet browser.

※¹“中斷する” : quit ※²“前へ” : forward ※³“次へ” : backward

2. Submission period:

October 2 (Monday) to October 31 (Tuesday), 2017

3. Please send any questions or feedback to the survey administrators (Student Planning Team, Division of Student Welfare, Department of Student Affairs).

Tel. 029-853-2298 or 029-853-2224

Email: gk.gakuseikikaku@un.tsukuba.ac.jp

I. About Yourself

Q1. Have you ever worked full-time?

- Yes No

If you selected "Yes" to Q1, answer Q1-1.

Q1-1. What is your current employment status? Select only one answer.

1. Employed
2. On a leave of absence
3. Left job/do not have a job
4. Never been in employment
5. Others

If you selected 1 (employed) or 2 (on a leave of absence) in Q1-1, answer Q1-1-1.

Q1-1-1. Has your employer been supportive of you coming to University of Tsukuba graduate school? Select all answers that apply.

1. Completely supportive, including paying college fees
2. Supportive; they did not obstruct me
3. I am using my employer's leave of absence system
4. I am using my employer's secondment system
5. I am using other systems from my employer
6. I have not told anything to my employer
7. Others

Q2. What are your main reasons for choosing a University of Tsukuba graduate school? Select all answers that apply.

1. Attractive fields of research
2. Good teaching content
3. Availability of the field I want to study
4. Quality and ability of academic advisors/good advisory system
5. Attractive research environment
6. Good teaching and research facilities
7. Wide choice of majors
8. Good systems of financial support for college fees and living costs
9. Good prospects for employment after course completion
10. Flexible management of course length
11. Recommended by a parent, supervisor or such
12. Convenient for commuting from home
13. Easy to obtain credentials and certifications
14. Others

Q3. Were you registered at a university or graduate school before you joined the University of Tsukuba graduate school? Select only one answer.

1. A University of Tsukuba school or graduate school
2. Another university or graduate school in Japan
3. A university or graduate school outside Japan

Q4. Where are you currently living? Select only one answer.

1. My own home
2. Rented apartment or similar
3. With parents
4. A relative or acquaintance's home
5. Others

Q5. Which area do you currently live in? Select only one answer.

1. Metropolitan Tokyo (the 23 wards)
2. Tokyo Metropolis (outside the 23 wards)
3. Chiba Prefecture
4. Saitama Prefecture
5. Kanagawa Prefecture
6. Others

II. General Lifestyle

Q6. Who is the main money-earner in your household? Select only one answer.

1. Myself
2. Spouse
3. Mother or father
4. Relative other than parents
5. Others

◎If you selected 5 (Others) in Q6, specify the main earner.

Q7. What kind of financial support would you request to the University? Select all answers that apply.

1. Grant type (no repayment required) scholarships
2. Student loans (repayment required)
3. Tuition fee exemptions
4. Short-term loans
5. Others
6. None in particular

◎If you selected 5 (Others) in Q7, specify examples of the financial support you would like to receive.

If you selected 4 (short-term loans) in Q7, answer Q7-1.

Q7-1. What should the short-term loans be for? Select all answers that apply.

1. Tuition fees
2. Living costs
3. Others

Q8. What is your main source of income in a typical month? Select all answers that apply.

1. Salary from employment
2. Scholarship
3. Remittances

4. Part-time teaching at another university
5. Contract work or agency work for a private company
6. Irregular part-time work
7. Loans
8. Others

©If you selected 8 (Others) in Q8, specify your main source of income.

Q9. Is your income enough for your living costs and research expenses in a typical month? Select only one answer.

1. More than enough
2. Enough
3. Just enough
4. Not enough

If you selected 4 (not enough) in Q9, answer Q9-1.

Q9-1. Which of your living costs, research expenses, etc. can you not afford? Select all answers that apply.

1. I cannot afford tuition fees
2. Because I need time for research, I cannot do part-time work
3. I cannot afford research materials or books
4. I cannot afford computer equipment
5. I cannot participate in an academic society or research society
6. I cannot conduct surveys for research
7. I cannot afford fees for submission, reviewing and publication of academic papers
8. Others

©If you selected 8 (Others) in Q9, give specific examples of what you are lacking.

Q10. When do you wake up and go to sleep? Enter approximate times using the 24-hour clock.

- ①Wake up _____:00
②Go to sleep _____:00

Q11. If attending the lectures or the research meetings of the University on a weekday evening, when do you eat your evening meal? Select only one answer.

1. Before going to the University
2. At the University
3. After returning home
4. No evening meal

If you selected 2 (at the University) in Q11, answer Q11-1.

Q11-1. When eating your evening meal at the University, what do you usually do? Select all answers that apply.

1. Carry in a light meal
2. Buy from a food vending machine on campus
3. Go to a restaurant near the University
4. Others

Q12. Are you satisfied with your daily life in general? Select only one answer.

1. Very satisfied
2. Fairly satisfied
3. Neutral
4. Fairly dissatisfied
5. Very dissatisfied

III. Daily Commuting and Accidents

Q13. How do you commute between home and the University? Select all answers for both wet days and dry days.

①Wet days

1. Walking
2. Bicycle
3. Public bus
4. Motorbike (including scooters)
5. Private car
6. Tokyo Metro Marunouchi line
7. Others

◎If you selected 7 (Others) in ① of Q13, specify how you commute.

②Dry days

1. Walking
2. Bicycle
3. Public bus
4. Motorbike (including scooters)
5. Private car
6. Tokyo Metro Marunouchi line
7. Others

◎If you selected 7 (Others) in ② of Q13, specify how you commute.

Q14. How long does your commuting take (for one way) usually except wet days? Select only one answer.

1. Less than 15 minutes
2. 15–29 minutes
3. 30–44 minutes
4. 45–59 minutes
5. 60–89 minutes
6. 90–119 minutes
7. More than two hours

Q15. Have you had anything stolen since joining the Graduate school? Select all answers that apply.

1. No
2. Yes, on campus
3. Yes, off campus

⊙If you selected 2 or 3 of Q15, specify the stolen item and the place where the theft took place.

[Stolen item(s)] _____

[Location] _____

Q16. Have you been solicited to attend a religious group, a self-improvement seminar or similar?

①Since joining the Graduate school, I have been solicited on campus.

- Yes No

②Since joining the Graduate school, I have been solicited off campus.

- Yes No

③Since joining the Graduate school, I have seen/heard someone else being solicited on campus.

- Yes No

④Since joining the Graduate school, I have seen/heard someone else being solicited off campus.

- Yes No

IV. Health

Q17. How has your health been in the past one year? Select all answers that apply.

1. Good health
2. Stayed at home for some days due to an illness
3. Was examined or stayed in hospital due to a physical illness
4. Was examined or stayed in hospital due to a mental problem
5. Used a counseling service for a psychological problem
6. Was examined or stayed in hospital due to injury
7. Others

Q18. What kinds of problems have you experienced in the past one year? Select all answers that apply.

1. Work-study balance
2. Lack of progress in study or research
3. A problem with academic credits
4. Transferring to a different graduate school or program
5. Leave of absence or leaving university
6. Relationships with friends
7. Relationships with faculty
8. Problems in the laboratory
9. Romantic relationships
10. Family relationships
11. Personal character
12. Personal mental or psychological condition
13. Personal physical condition such as illness or injury
14. Money problems
15. Harassment
16. Others
17. Nothing particular

Ⓒ If you selected 16 (Others) in Q18, enter details.

Q19. How well do these statements match how you have felt over the past one year? Select only one answer for each statement.

1. I can do what I want to do
2. I have some worries
3. There are people here who understand me
4. Nothing I do goes well
5. I feel depressed
6. I have wanted to die
7. My university life is fulfilling

- a. Definitely
- b. Fairly
- c. Not really
- d. Not at all

1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____ 6 _____ 7 _____

V. Availability of Advisers and Source of Information

Q20-1. Who do you talk to about important matters and seek advice from? Select up to three answers, starting with the person who is easiest to approach.

1. Easiest to approach
 2. Second easiest
 3. Third easiest
-
- a. Family member
 - b. Colleagues at work
 - c. Managers at work
 - d. Romantic partner
 - e. Friend (in the University)
 - f. Friend (outside the University)
 - g. Faculty member
 - h. Others
 - i. Nobody in particular

1 _____ 2 _____ 3 _____

If you selected a to h in Q20-1, answer Q20-2.

Q20-2. How often can you talk to the people you identified in Q20-1 (including telephone and email)? Select only one answer for each person.

1. The easiest to approach
2. The second easiest
3. The third easiest

- a. Often
- b. Sometimes
- c. Occasionally
- d. Almost never

1 _____ 2 _____ 3 _____

Q21. When you want to find information about study, research or university life, to whom or where do you usually go? Select all answers that apply.

- 1. Academic advisor
- 2. Administrative staff for your Graduate school or program
- 3. Friends, etc.
- 4. Web bulletin board
- 5. TWINS bulletin board
- 6. The University website
- 7. Website for your Graduate school or program
- 8. Email list for your program or the like
- 9. SNS (social networking service)
- 10. Others

Q22. What advice services do you think are needed to deal with the problems that arise in student life? Select all answers that apply.

- 1. Advice on health
- 2. Advice on mental health and wellness
- 3. Advice on work-life balance
- 4. Advice on other matters

VI. Your Hopes and Expectations for University of Tsukuba

Q23. What is your main desire for the University's faculty? Select only one answer.

- 1. To be excellent researchers
- 2. Well-prepared lecture content
- 3. Teaching that is easy to understand
- 4. To make time for supervision
- 5. Sensitivity to harassment issues
- 6. To incorporate their research findings into teaching
- 7. Others
- 8. Nothing particular

◎If you selected 7 (Others), specify what you desire.

Q24. What factors would you like to see improved in our education or educational systems? Select all answers that apply.

- 1. Teaching and research staff
- 2. Curriculum
- 3. The study abroad system
- 4. Venues for informal interaction with faculty

5. Financial support such as scholarships and tuition fee exemptions
6. Support for volunteer activities
7. Improvements in support services and administration
8. Support for mental health
9. Anti-harassment measures (organizations and processes)
10. Others

◎If you selected 10 (Others) in Q24, specify what you hope to be improved.

Q25. Which campus facilities particularly need to be expanded or improved? Select all answers that apply.

1. Teaching rooms and laboratories
2. Library
3. Computing facilities
4. Security
5. Parking
6. Outside lighting
7. Others

◎If you selected 7 (Others) in Q25, specify where you like to be expanded or improved.

Q26. Have you used the University's off-campus training centers (Yamanaka and Tateyama)? Select only one answer.

1. Yes
2. No
3. I don't know anything about them

Q27. If you have any requests or suggestions about teaching, research conditions and student life in general at the University of Tsukuba graduate schools, enter a number from the following list of categories and a specific description. You can make multiple suggestions.

【List of categories】

- (A) Systems (1. Curriculum 2. Financial support 3. Others)
- (B) Faculty and Administrative staff
(1. Faculty 2. Administrative staff 3. Others)
- (C) Facilities (1. Research conditions 2. Computing 3. Library 4. Shops 5. Others)
- (D) Others (1. Others)

【Description Example】

C2. The buildings should have longer opening hours

A1.

【Answer box】

This is the end of the survey.
Thank you very much for your cooperation.

筑波大学学生生活実態調査(大学院 東京地区) 回答率について

回答率は、ビジネス科学研究科が19.5%、人間総合科学研究科が33.0%、全体の回答率が23.2%であった。前回調査では、ビジネス科学研究科18.5%、人間総合科学研究科20.6%、全体19.1%であったことから、全体の回答率は前回調査より4.1ポイント向上した。また、人間総合科学研究科は、回答率が前回調査より12.4ポイントも向上した。

平成29年度 筑波大学学生生活実態調査(大学院 東京地区) 回答率

	研究科		ビジネス科学研究科	人間総合科学研究科 (東京地区)	合計
	課程				
在籍学生数 (平成二十九年九月十五日現在)	修士課程	修士課程1年次		25	25
		修士課程2年次		30	30
		博士前期課程1年次	63	46	109
		博士前期課程2年次	112	51	163
		専門職学位課程1年次	63		63
		専門職学位課程2年次	67		67
		専門職学位課程3年次	53		53
		小計	358	152	510
	博士課程	博士後期課程1年次	26	6	32
		博士後期課程2年次	20	7	27
		博士後期課程3年次	88	14	102
		3年制博士課程1年次		3	3
		3年制博士課程2年次		3	3
		3年制博士課程3年次			
小計		134	33	167	
合計	492	185	677		
回収票数	修士課程	修士課程1年次		9	9
		修士課程2年次		5	5
		博士前期課程1年次	35	27	62
		博士前期課程2年次	20	16	36
		専門職学位課程1年次	16		16
		専門職学位課程2年次	2		2
		専門職学位課程3年次	0		0
		小計	73	57	130
	博士課程	博士後期課程1年次	8	3	11
		博士後期課程2年次	4	0	4
		博士後期課程3年次	11	1	12
		3年制博士課程1年次		0	0
		3年制博士課程2年次		0	0
		3年制博士課程3年次			
小計		23	4	27	
合計	96	61	157		
回収率	修士課程	修士課程1年次		36.0%	36.0%
		修士課程2年次		16.7%	16.7%
		博士前期課程1年次	55.6%	58.7%	56.9%
		博士前期課程2年次	17.9%	31.4%	22.1%
		専門職学位課程1年次	25.4%		25.4%
		専門職学位課程2年次	3.0%		3.0%
		専門職学位課程3年次	0.0%		0.0%
		小計	20.4%	37.5%	25.5%
	博士課程	博士後期課程1年次	30.8%	50.0%	34.4%
		博士後期課程2年次	20.0%	0.0%	14.8%
		博士後期課程3年次	12.5%	7.1%	11.8%
		3年制博士課程1年次		0.0%	0.0%
		3年制博士課程2年次		0.0%	0.0%
		3年制博士課程3年次			
小計		17.2%	12.1%	16.2%	
合計	19.5%	33.0%	23.2%		

第1章 あなた自身について

問1. 社会人経験の有無について

問1-1. 現在の在職状況について

◎東京地区では全員が社会人の経験あり。

「社会人の経験はありますか」の問いに対しては、全員が「ある」の回答であった。ビジネス科学研究科と人間総合科学研究科とからなる東京地区では当然のことと言える。

社会人経験を持つ学生に対し、現在の在職状況について尋ねた。集計結果は、「在職中」87.9%、「休職中」2.5%、「退・辞職し、現在、定職はない」8.3%、「定職はなかった」0.0%、「その他」0.6%、無回答が0.6%であった。約9割の学生が、現在、在職または休職して大学院に在籍している。この比率はビジネス科学研究科と人間総合科学研究科とで比較してみても差はない。男女別にみると、「在職中」と回答した割合は、男性92.0%、女性82.6%で、男性の方が9.4ポイント高い。

表 1.1 社会人経験の有無【研究科別、男女別、全体】

	回答数	社会人 経験はない		社会人経験がある											
				在職中		休職中		退・辞職し、現 在、定職はない		定職は なかった		その他		無回答	
				回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネス科学研究科	96	0	0.0%	85	88.5%	4	4.2%	5	5.2%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.0%
人間総合科学研究科	61	0	0.0%	53	86.9%	0	0.0%	8	13.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
男性	88	0	0.0%	81	92.0%	1	1.1%	4	4.5%	0	0.0%	1	1.1%	1	1.1%
女性	69	0	0.0%	57	82.6%	3	4.3%	9	13.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
全体	157	0	0.0%	138	87.9%	4	2.5%	13	8.3%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%

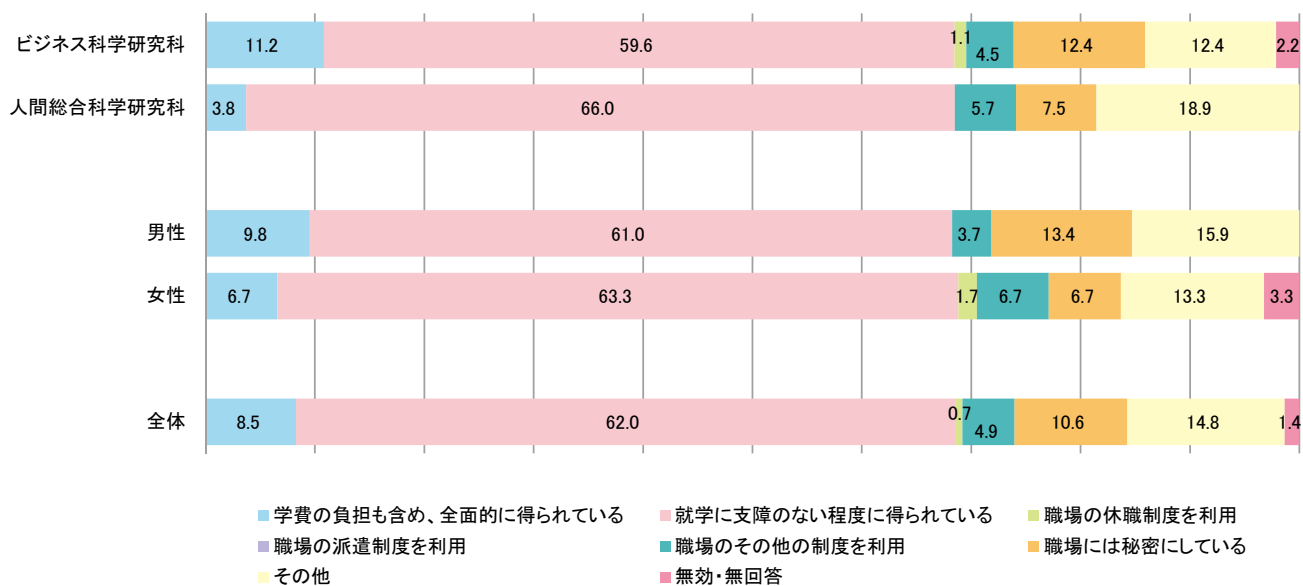
問 1-1-1. 職場の理解度について

◎全体の約 7 割の学生が職場の理解を得て大学院に在籍。

現在、在職中または休職中と回答した学生に対し、本学に入学することに関し、職場の理解が得られているかを尋ねた。集計結果は、「学費の負担も含め、全面的に得られている」8.5%、「就学に支障のない程度に得られている」62.0%、「職場の休職制度を利用」0.7%、「職場の派遣制度を利用」4.9%、「職場のその他の制度を利用」10.6%、「職場には秘密にしている」14.8%、「その他」1.4%、無効・無回答が1.4%であった。

約 7 割は職場の理解を得て大学院に入学しているが、学費の負担を含めて全面的に支援を受けている学生は少なく、ほとんどは就学に支障のない程度の職場の理解である。これは、男女別、研究科別にみても、全体的な比率に大きな差はない。また、「職場には秘密にしている」と約 10 人に 1 人が回答しており、男女別では、男性 13.4%、女性 6.7%と男性に多く、研究科別では、ビジネス科学研究科 12.4%、人間総合科学研究科 7.5%とビジネス科学研究科に多い。

図 1.1 職場の理解【研究科別、男女別、全体 (%)】



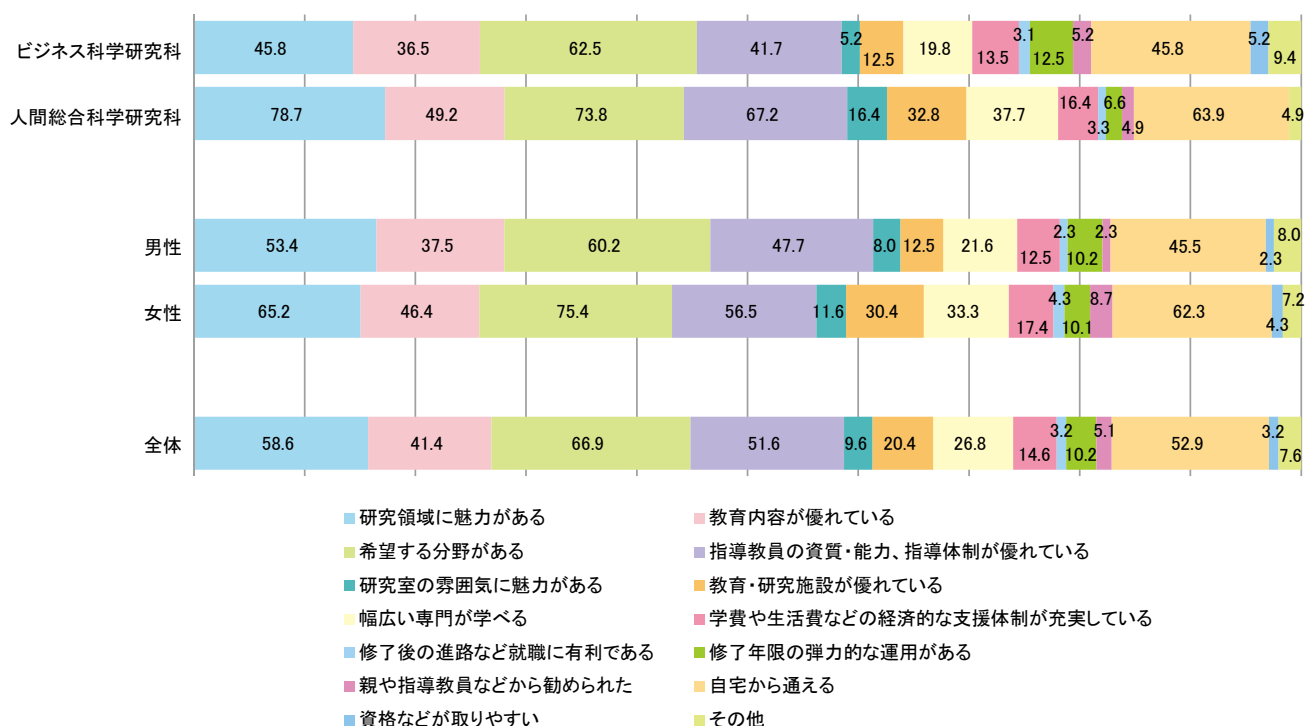
問 2. 筑波大学大学院を志望した理由について

- ◎志望動機で最も多い理由は「希望する分野がある」で全体の約7割。
- ◎自宅から通えるという理由で進学先を決めている学生が多い。

筑波大学大学院を志望した理由について14項目の中からあてはまるものすべてを選択してもらった。集計結果は志望動機で多い順に「希望する分野がある」66.9%、「研究領域に魅力がある」58.6%、「自宅から通える」52.9%、「指導教員の資質・能力、指導体制が優れている」51.6%、「教育内容が優れている」41.4%、「幅広い専門が学べる」26.8%、「教育・研究施設が優れている」20.4%、「学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している」14.6%、「修了年限の弾力的な運用がある」10.2%、「研究室の雰囲気の魅力がある」9.6%、「親や指導教員などから勧められた」5.1%、「修了後の進路など就職に有利である」3.2%、「資格などが取りやすい」3.2%、「その他」7.6%であった。

筑波大学大学院進学者の多くは、研究環境に重きを置いて進学先を決めていることがうかがえる。なお、筑波地区と比べると、「自宅から通える」が3番目に多い理由となっていることが特徴的である。この傾向は男女別にみても、ビジネス科学研究科と人間総合科学研究科で比較しても大きな差はない。

図 1.2 志望理由【研究科別、男女別、全体 (%)】



問 3. 入学前に在籍していた大学または大学院について

◎全体の約 9 割が筑波大学以外に在籍していた。

筑波大学大学院に入学する前に在籍していた大学・大学院について尋ねた。集計結果は、「筑波大学・大学院」10.8%、「日本国内の他大学・大学院」81.5%、「日本国外の大学・大学院」7.6%であった。前回調査では、それぞれ 8.2%、79.1%、10.4%であったことから、本学からの進学者の割合と日本国内の他大学・大学院からの入学者が増加し、海外から入学する学生の割合が減少している。今回の結果を男女別にみると、「筑波大学・大学院」では、男性 12.5%、女性 8.7%と男性の割合が多い。「日本国内の他大学・大学院」では、男性 78.4%、女性 85.5%と女性の割合が多く、「日本国外の大学・大学院」では、男性 9.1%、女性 5.8%と男性の割合が多い。ビジネス科学研究科と人間総合科学研究科で比較しても大きな差はない。

今回の調査結果を平成 22 年度と 24 年度に行われた過去 2 回の結果と比較した経年変化をみると、比率が最も高いのは「日本国内の他大学・大学院」で、79.1%から 86.6%の間で推移している。「筑波大学・大学院」は、8.0%から 10.8%と増加傾向で、「日本国外の大学・大学院」は、4.8%、10.4%、7.6%と推移している。

図 1.3 入学前の在籍大学または大学院【研究科別、男女別、全体 (%)】

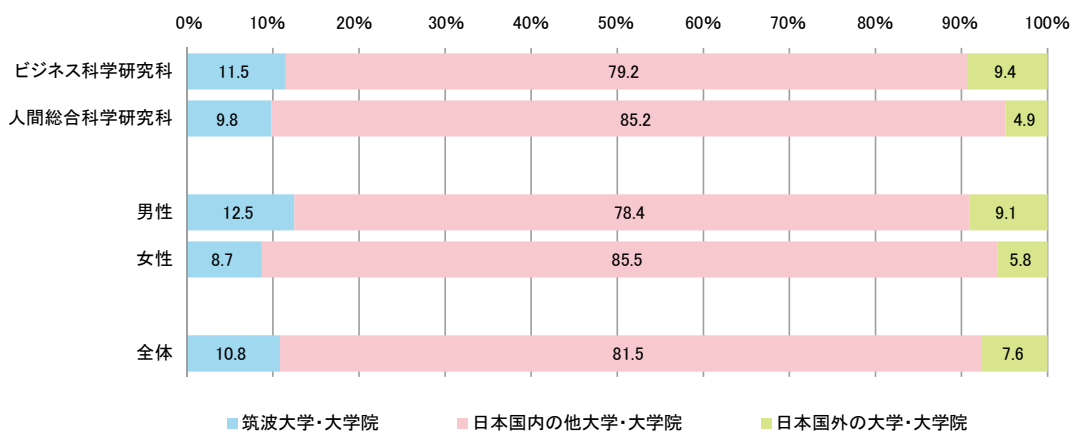
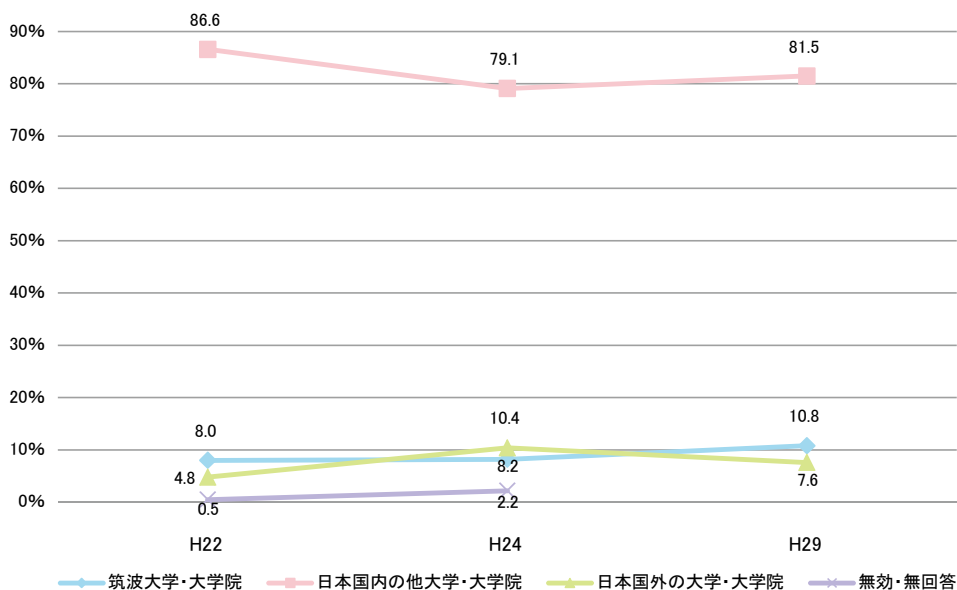


図 1.4 年度別推移【全体 (%)】

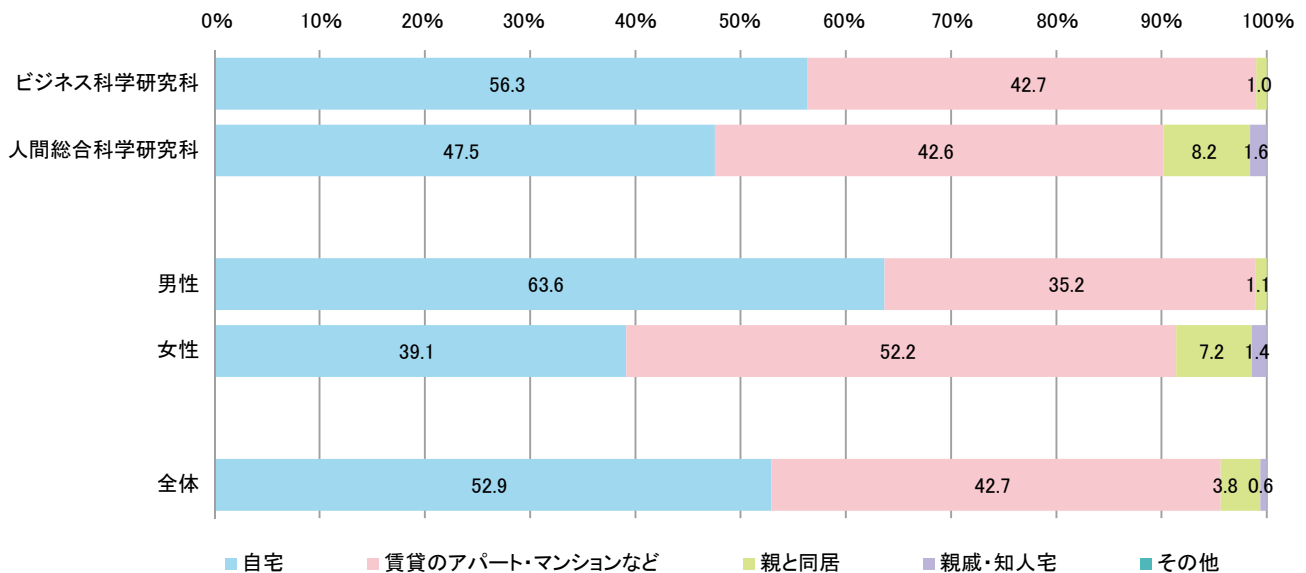


問 4. 現在の住まいについて

◎全体の約5割が自宅から通学している。

学生の現在の住まいについて尋ねた。集計結果は、「自宅」52.9%、「賃貸のアパート・マンションなど」42.7%、「親と同居」3.8%、「親戚・知人宅」0.6%、「その他」0.0%であった。約半数の学生が自宅からの通学で、約4割がアパート・マンションに居住している。「自宅」と回答した学生を男女別にみると、男性が63.6%、女性が39.1%で、男性の方が24.5ポイントも高い。一方、アパート・マンションに住んでいる学生は、男性が35.2%、女性が52.2%で、女性の方が17.0ポイントも高い。ビジネス科学研究科と人間総合科学研究科で比較すると、アパート・マンションなどに住んでいる学生に差はないが、「自宅」はビジネス科学研究科が8.8ポイント高い。

図 1.5 現在の住まい【研究科別、男女別、全体 (%)】

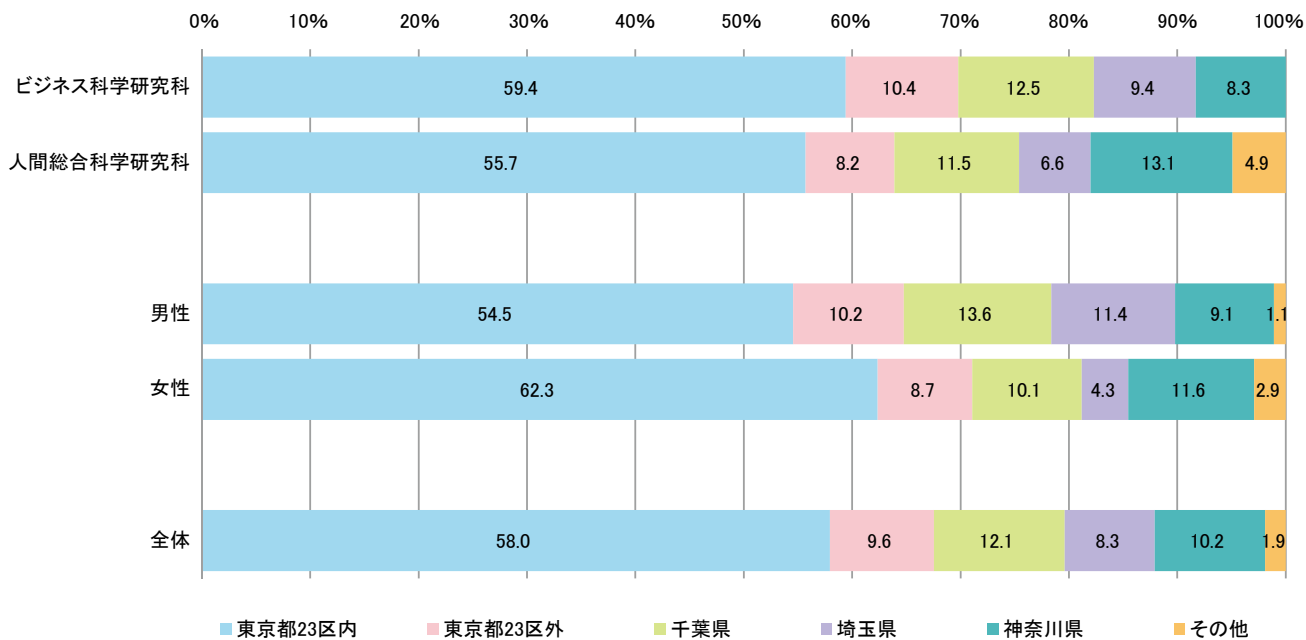


問 5. 現在の居住地について

◎全体の約 6 割が東京都 23 区内から通学している。

学生の現在の居住地について尋ねた。集計結果は、「東京都 23 区内」58.0%、「東京都 23 区外」9.6%、「千葉県」12.1%、「埼玉県」8.3%、「神奈川県」10.2%、「その他」1.9%であった。約 6 割の学生が東京都 23 区内から通学している。「東京都 23 区内」と回答した学生を男女別にみると、男性 54.5%、女性 62.3%で、女性の方が 7.8 ポイント高い。ビジネス科学研究科と人間総合科学研究科で比較すると、人間総合科学研究科は、東京 23 区内に次いで神奈川県から通学している学生が多い。

図 1.6 現在の居住地【研究科別、男女別、全体 (%)】



第2章 生活全般について

問6. あなたの家族の主たる家計支持者について

◎大学院生（東京地区）の主たる家計支持者は「本人」が約8割。

主たる家計支持者について尋ねた。集計結果は、「あなた自身」79.0%、「配偶者」17.2%、「父親・母親」1.9%で、「あなた自身」と「配偶者」をあわせた独立生計者は、東京地区の大学院生の96.2%で、この割合は前回調査の94.0%からさらに増加している。課程別の独立生計者は、修士課程相当95.4%、博士課程相当100.0%で、主たる家計支持者が「父親・母親」の割合は、修士課程相当2.3%、博士課程相当0.0%であった。

表2.1 主な家計支持者【課程別、全体】

	修士課程相当		博士課程相当		全体	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
あなた自身	99	76.2%	25	92.6%	124	79.0%
配偶者	25	19.2%	2	7.4%	27	17.2%
父親・母親	3	2.3%	0	0.0%	3	1.9%
両親以外の親族	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	3	2.3%	0	0.0%	3	1.9%

問 7. 大学に希望する経済支援について

問 7-1. 一時貸付金を希望する理由について

◎大学に希望する経済支援は、主に給付型奨学金と授業料免除である。

大学に希望する経済支援は、「給付型（返還義務なし）奨学金」45.2%、「貸与型（返還義務あり）奨学金」5.1%、「授業料免除」44.6%、「一時貸付金」5.7%、「その他」5.1%、「特に希望しない」29.3%という結果で、給付型（返還義務なし）奨学金と授業料免除が多かった。

また、一時貸付金を必要とする理由について、「授業料のため」「生活費のため」「その他」から、複数選択で尋ねた結果、「授業料のため」100%、「生活費のため」33.3%であった。

表 2.2 希望する経済支援【全体】

	回答数	回答率
給付型（返還義務なし）奨学金	71	45.2%
貸与型（返還義務あり）奨学金	8	5.1%
授業料免除	70	44.6%
一時貸付金	9	5.7%
その他	8	5.1%
特に希望しない	46	29.3%

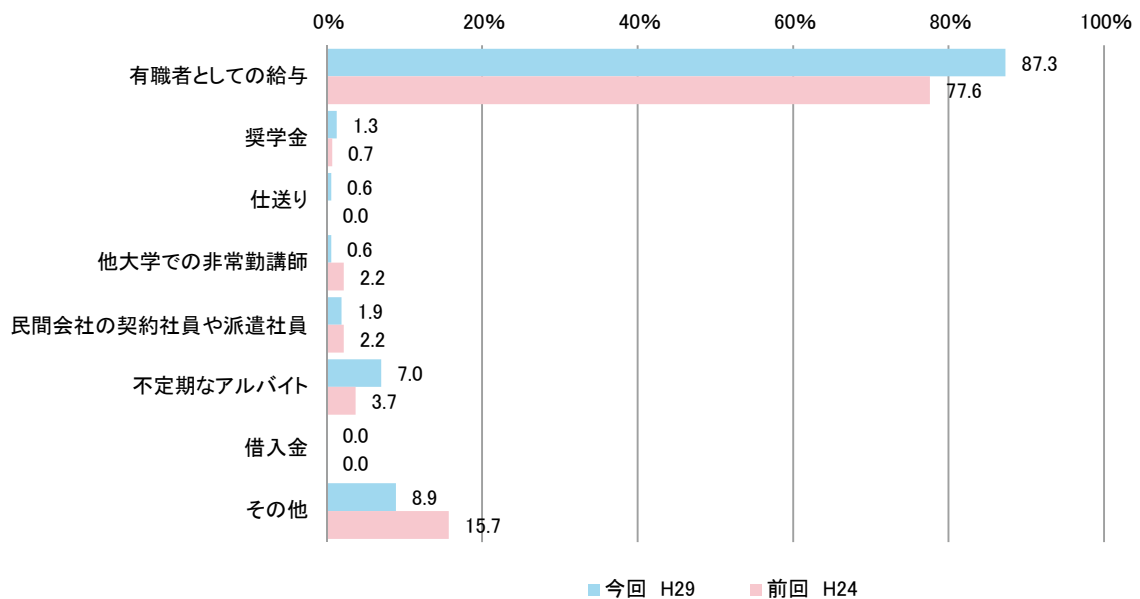
問 8. 収入源について

◎東京地区では、大学院生はほとんどが有職者であり、生活の収入源は本人の給与である。

平均的な収入源について、複数回答で尋ねた。選択肢は「有職者としての給与」「奨学金」「仕送り」「他大学での非常勤講師」「民間会社の契約社員や派遣社員」「不定期なアルバイト」「借入金」「その他」の8択である。

結果は、「有職者としての給与」が87.3%と最も多く、前回調査では77.6%であったことから、9.7ポイント増加した。

図 2.1 収入源の前回との比較【全体 (%)】



問 9. 1 ヶ月の生活費や研究活動費の充足度について

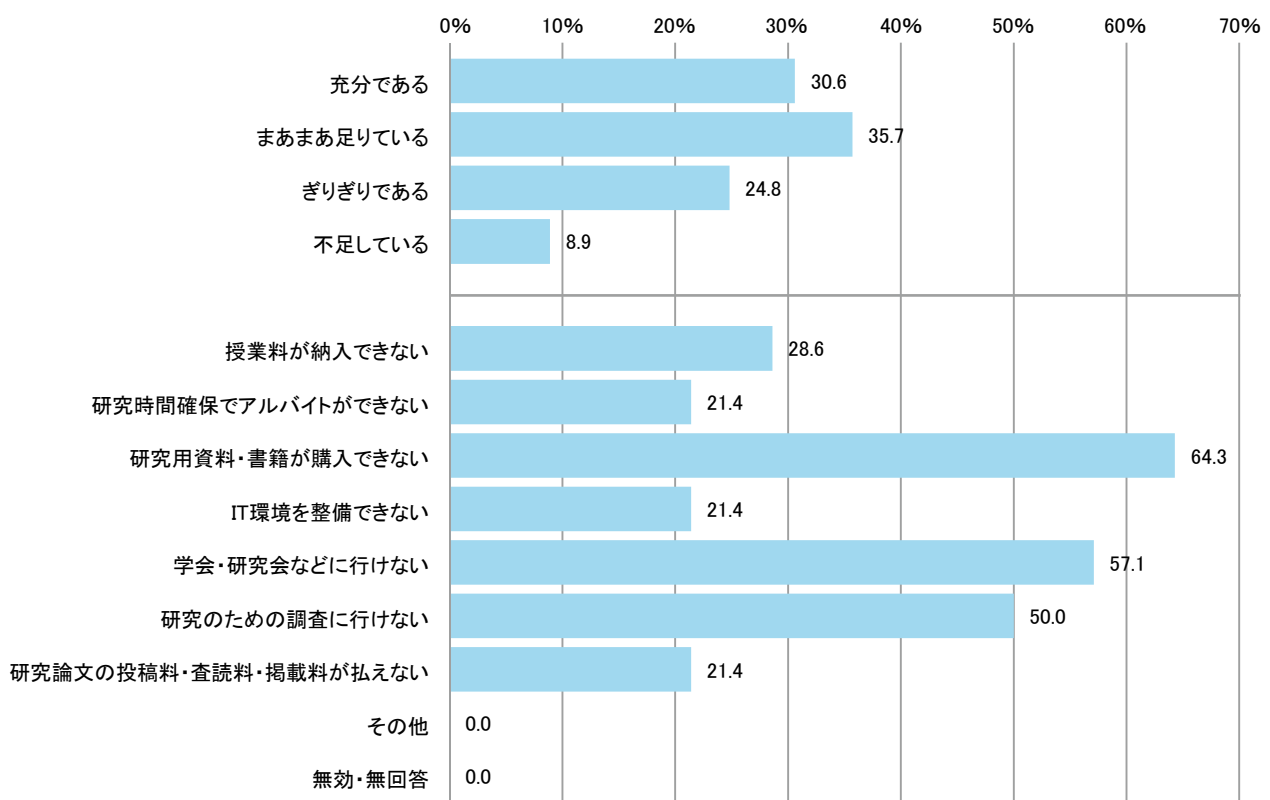
問 9-1. 生活費や研究活動費などで不足しているものについて

◎生活費や研究活動費は、ほぼ充足している。

生活費や研究活動費については、「充分である」「まあまあ足りている」と回答した割合が 66.3%で、「不足している」と回答した割合はわずか 8.9%であった。

不足しているものを複数回答で尋ねたところ、「授業料が納入できない」28.6%、「研究時間確保でアルバイトができない」21.4%、「研究用資料・書籍が購入できない」64.3%、「IT環境を整備できない」21.4%、「学会・研究会などに行けない」57.1%、「研究のための調査に行けない」50.0%、「研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない」21.4%、「その他」0.0%であった。「研究用資料・書籍が購入できない」「学会・研究会などに行けない」「研究のための調査に行けない」の回答が多く、研究費が不足していることがわかる。

図 2.2 生活費や研究活動費の充足度【全体 (%)】



問 10. 起床時刻と就寝時刻について

◎起床時間は、5時～7時が7割であった。

起床時刻と就寝時刻について尋ねた。起床時刻は6～7時が最も多く36.9%、次いで5～6時が33.1%であった。また、就寝時刻は23～24時が37.6%、次いで0～1時が26.1%であった。

図 2.3 起床時刻【全体 (%)】

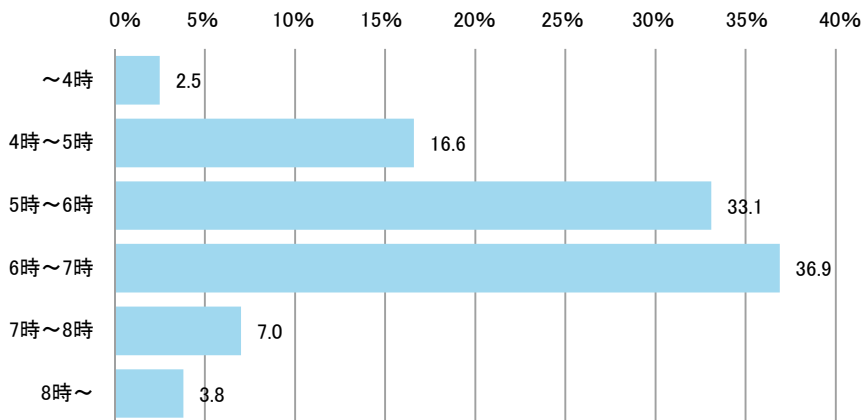
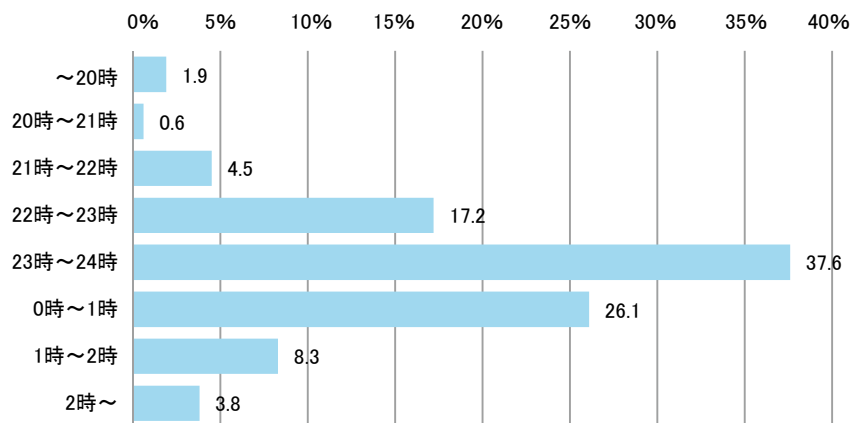


図 2.4 就寝時刻【全体 (%)】

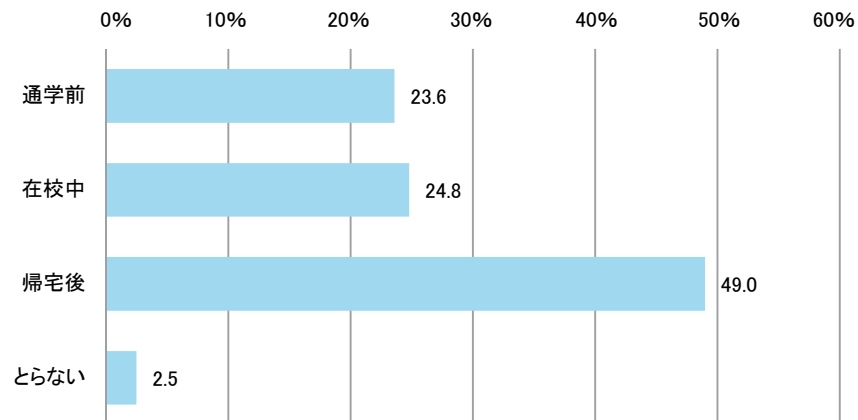


問 11. 夜間登校時の食事について

◎夕食の時間は、帰宅後が約5割であった。

平日夜間の登校時に食事をいつとるか尋ねた。結果は、「通学前」23.6%、「在校中」24.8%、「帰宅後」49.0%、「とらない」2.5%であった。夕食は、帰宅後にとる学生が約半数であった。

図 2.5 夕食摂取のタイミング【全体 (%)】

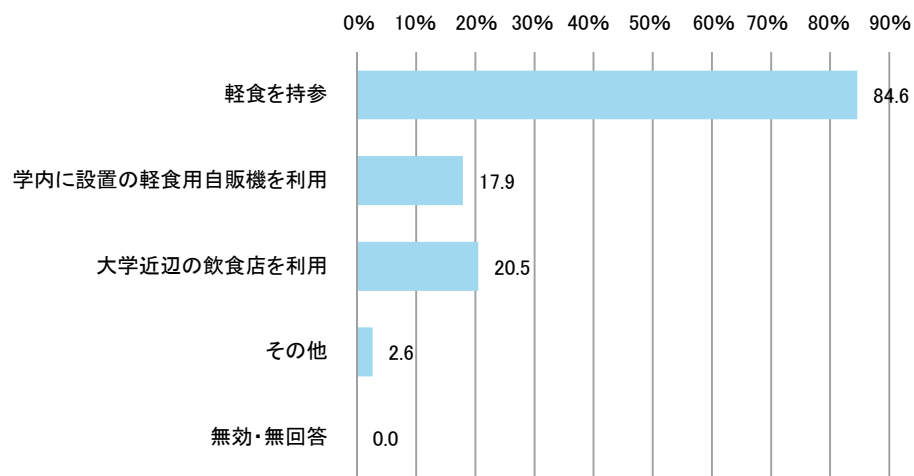


問 11-1. 在校中の食事について

◎学内での食事は、軽食を持参する学生が多い。

在校中に食事をする場合、どのようなものが多いか尋ねた。結果は、「軽食を持参」84.6%、「学内に設置の軽食用自販機を利用」17.9%、「大学近辺の飲食店を利用」20.5%、「その他」2.6%で、軽食を持参する学生が大部分であった。

図 2.6 学内での食事方法【全体 (%)】

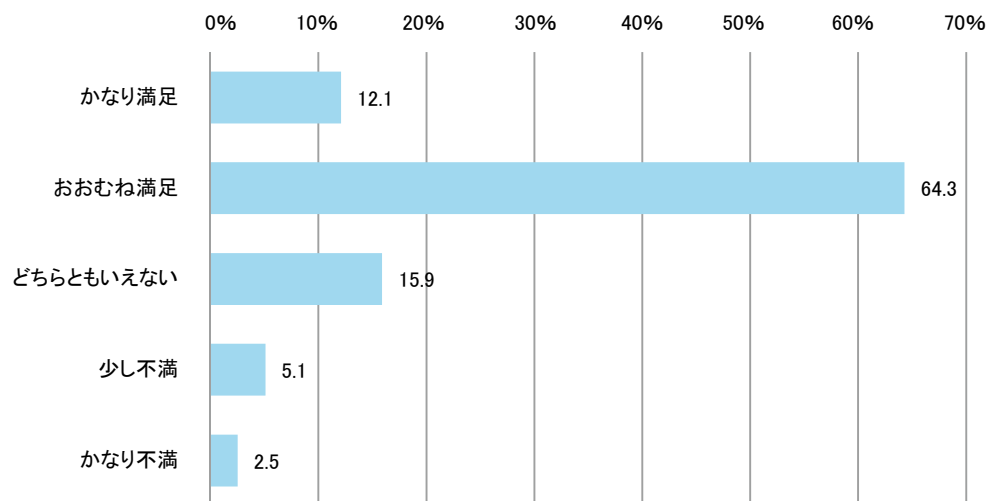


問 12. 日常生活の満足度について

◎現在の生活に概ね満足している学生が約 8 割。

現在の生活に、全体として満足しているか、複数回答で尋ねた。結果は、「かなり満足」12.1%、「おおむね満足」64.3%、「どちらともいえない」15.9%、「少し不満」5.1%、「かなり不満」2.5%であった。「かなり満足」「おおむね満足」と回答した割合は合計で 76.4%で、全体的な満足度は高いことがうかがえる。

図 2.7 日常生活の満足度【全体 (%)】



第3章 通学・事故等について

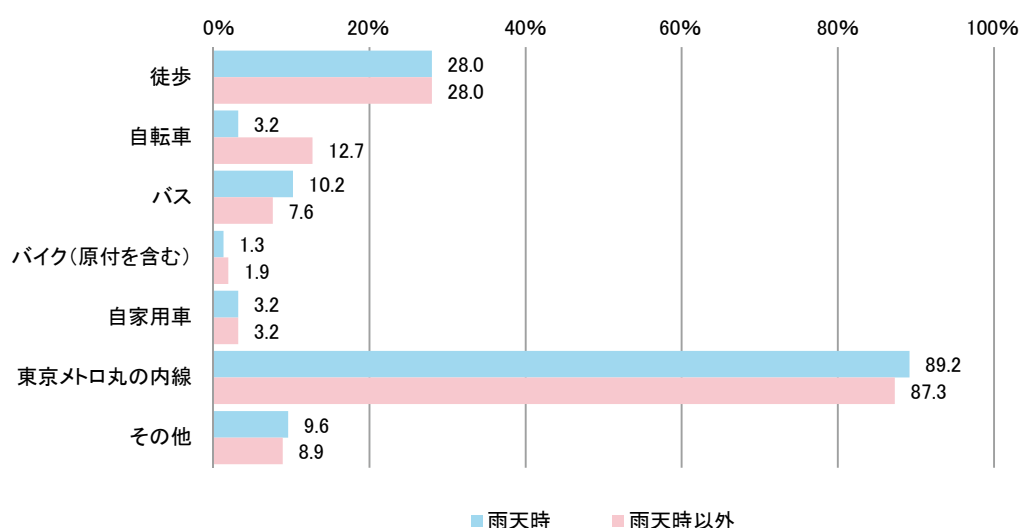
問 13. 通学時の交通手段について

◎ほとんどの学生が電車での通学。

雨天時以外および雨天時の通学の手段について、「徒歩」「自転車」「バス」「バイク（原付を含む）」「自家用車」「東京メトロ丸の内線」「その他」の7項目を選択肢としてあげ、複数回答方式で調査した。

天候にかかわらず、「東京メトロ丸の内線」の利用が雨天時以外87.3%、雨天時89.2%と最も多かった。雨天時以外は、東京メトロ丸の内線に続き、「徒歩」28.0%、「自転車」12.7%で、雨天時は、「徒歩」28.0%、「バス」10.2%であった。

図 3.1 通学時の交通手段【全体 (%)】



問 14. 雨天時以外の通学時間について

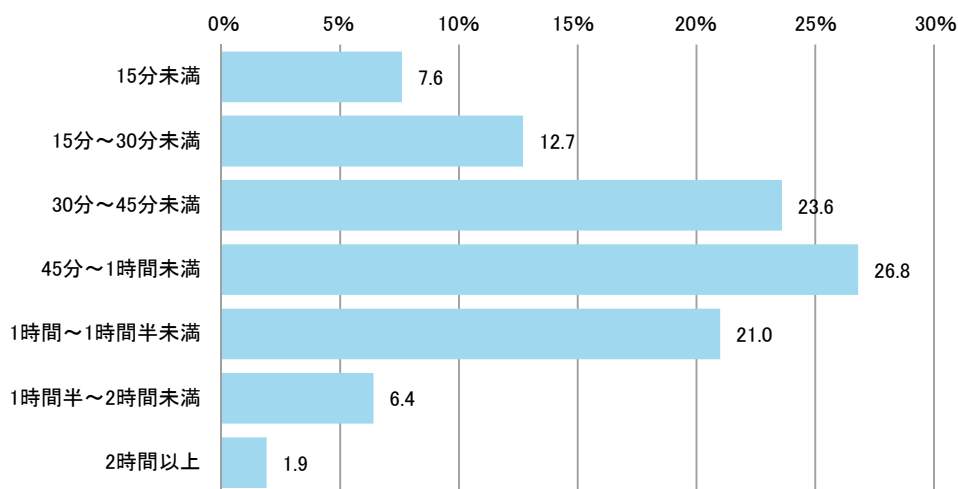
◎約 7 割の学生が 1 時間以内の通学時間。

雨天時以外の通学時間について調査した。「15分未満」「15分～30分未満」「30分～45分未満」「45分～1時間未満」「1時間～1時間半未満」「1時間半～2時間未満」「2時間以上」の7項目を選択肢として挙げ、単一選択方式で尋ねた。

最も多かったのは、「45分～1時間未満」の26.8%で、次いで「30分～45分未満」の23.6%であった。通学時間が1時間以内の学生は70.7%であり、前回調査の67.8%に比べて2.9ポイント上昇していた。

東京地区の学生は勤務後の通学であるため、通学にかかる時間は大きな負担となると考えられる。1時間の通学時間は、進学先を選ぶ上での要因のひとつになるかもしれない。

図 3.2 雨天時以外の通学時間【全体 (%)】



問 15. 盗難被害について

◎ 1.3%の学生が盗難の被害にあっている。

大学入学後の盗難被害の経験について調査した。「被害にあったことはない」「学内で被害にあった」「学外で被害にあった」の3項目を選択肢としてあげ、複数回答方式で尋ねた。

「被害にあったことはない」98.7%、「学内で被害にあった」1.3%、「学外で被害にあった」0.0%であった。盗難物が多かったのは書籍とパソコンで、いずれも学内での盗難被害であるため、被害にあわないよう注意喚起を促し、継続した防犯対策が必要である。

表 3.1 盗難被害経験の有無【研究科別、男女別、全体】

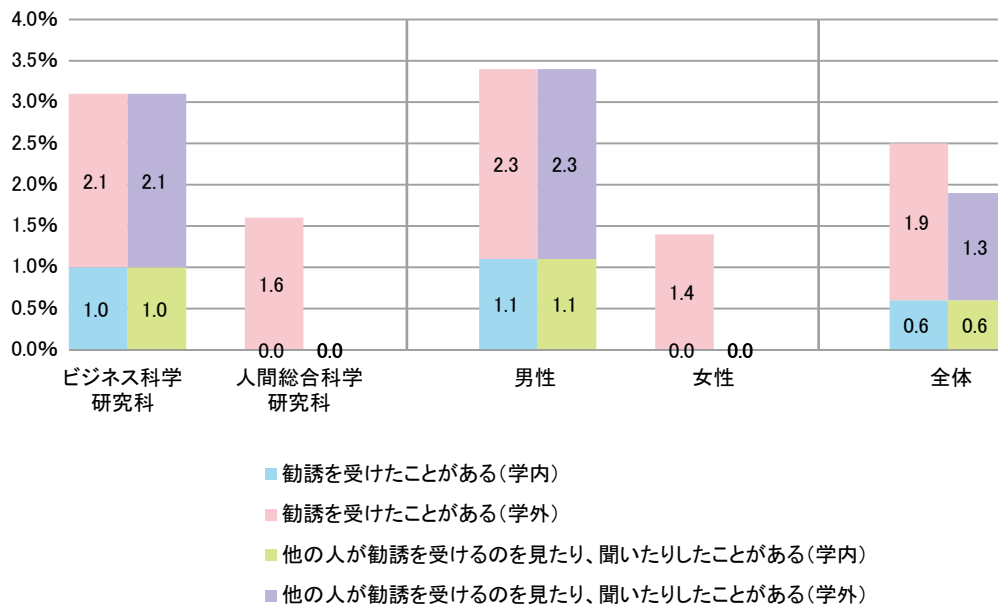
	回答数	被害にあったことはない		学内で被害にあった		学外で被害にあった	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネス科学研究科	96	94	97.9%	2	2.1%	0	0.0%
人間総合科学研究科	61	61	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
男性	88	86	97.7%	2	2.3%	0	0.0%
女性	69	69	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
全体	157	155	98.7%	2	1.3%	0	0.0%

問 16. 宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘について

◎キャンパス内での勧誘はごく少数。

大学院入学後の宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘の有無について調査した。キャンパス内で、宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘を受けたことがある学生は0.6%で、他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことがある学生も0.6%であった。東京地区の今回の調査では、このような勧誘は少数であった。

図 3.3 宗教団体やカルトセミナーなどへの参加勧誘【研究科別、男女別、全体 (%)】



第4章 健康状態について

問 17. 過去1年間の健康状態について

- ◎全体の約70%は身体的に健康であり、日常的な体調不良を除くと大半が健康である。
- ◎男性の76.1%に対して女性は62.3%と、女性の方が身体的不調の傾向がある。
- ◎心理的問題での相談機関利用者は全体の約2%で、男性の方がやや多い。

過去1年間の身体的および心理的・精神的健康状態について、あてはまるものすべてを選択させた。健康であると回答したものは全体の約7割であった。病院で受診や入院はしない程度の日常的な体調不良が約20%であり、おおむね身体的健康さは保たれているといえる。しかし、男性の76.1%に比して、女性は62.3%にとどまった。女性は日常的な体調不良を感じたものが25%を超えている。女性の方が身体的不調を感じており、前回調査でも同様の傾向である。ビジネス科学研究科と人間総合科学研究科における比較はサンプル数に限界があるため確かな考察はできないが、身体的病気で受診・入院したものがビジネス科学研究科でやや多い。

一方、「心理的な問題で相談機関を利用した」の回答が全体で約2%で、学群生や筑波地区の大学院生の約5%に比べると低い割合である。また、「精神的な病気で受診・入院した」と回答したのは全体で1.3%である。前回調査では女性の方が精神的問題による受診率が高かったが、今回は男性の方が高い。なお、女性は0.0%であったがこれはサンプル数の制約であると考えられる。

表 4.1 過去1年間の健康状態【研究科別、男女別、全体】

	ビジネス科学研究科	人間総合科学研究科	男性	女性	全体
健康である	69.8%	70.5%	76.1%	62.3%	70.1%
健康不良で数日寝込んだ（受診・入院を除く）	16.7%	23.0%	13.6%	26.1%	19.1%
身体の病気で受診・入院した	15.6%	9.8%	11.4%	15.9%	13.4%
精神的な病気で受診・入院した	2.1%	0.0%	2.3%	0.0%	1.3%
心理的な問題で相談機関を利用した	3.1%	0.0%	2.3%	1.4%	1.9%
けがで受診・入院した	2.1%	3.3%	2.3%	2.9%	2.5%
その他	1.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.6%

問 18. 過去 1 年間の困り事・悩み事について

- ◎「学業と仕事の両立」が最も多く、全体で 65%を超えた。
- ◎次いで「学業や研究の不振」「家族関係」があげられた。
- ◎「経済状態」や「自分の精神的・心理的状态」についても約 1 割が該当していた。

過去 1 年間にどのようなことで困ったり悩んだりしたかを複数選択させた。最も多かったのは、前回調査と同様、「学業と仕事の両立」の 65.6%であった。社会人大学院の特徴であり、筑波地区の大学院生で約 57%が選択した「学業や研究の不振」は 31.8%にとどまった。

「家族関係」が 17.2%におよんでいるが、筑波地区の大学院生では 10.6%であった。また、「自分の性格」が、筑波地区の大学院生では約 20%だったのに対して、東京地区の大学院生では 7.6%であることをあわせて考えると、発達の特徴に応じた悩みを抱えると考えられる。

ハラスメントについては、女性は 0.0%であったが、男性の 2.3%が悩んだこととして選択しており、これは警鐘として特記すべきであろう。なお、筑波地区の大学院生では全体で 3.7%で、女性の方が 5.0%と多いが、本項目については、数の多寡の問題ではなく、このような事柄で悩みを抱える学生が一人もいなくなることを目指さねばならない。

表 4.2 過去 1 年間の困り事・悩み事【研究科別、男女別、全体】

	ビジネス科学研究科	人間総合科学研究科	男性	女性	全体
学業と仕事の両立	67.7%	62.3%	67.0%	63.8%	65.6%
学業や研究の不振	29.2%	36.1%	29.5%	34.8%	31.8%
単位修得の問題	9.4%	6.6%	11.4%	4.3%	8.3%
転研究科・転専攻	3.1%	0.0%	2.3%	1.4%	1.9%
休学・退学	5.2%	0.0%	5.7%	0.0%	3.2%
友人との関係	3.1%	6.6%	0.0%	10.1%	4.5%
教員との関係	3.1%	3.3%	3.4%	2.9%	3.2%
研究室内の問題	2.1%	1.6%	2.3%	1.4%	1.9%
恋愛関係	4.2%	3.3%	3.4%	4.3%	3.8%
家族関係	17.7%	16.4%	17.0%	17.4%	17.2%
自分の性格	7.3%	8.2%	8.0%	7.2%	7.6%
自分の精神的・心理的状态	10.4%	9.8%	11.4%	8.7%	10.2%
自分の身体的病気・けが等の状態	7.3%	6.6%	6.8%	7.2%	7.0%
経済状態	8.3%	16.4%	12.5%	10.1%	11.5%
ハラスメント	1.0%	1.6%	2.3%	0.0%	1.3%
その他	4.2%	8.2%	2.3%	10.1%	5.7%
特にない	16.7%	14.8%	15.9%	15.9%	15.9%

問 19. あなたの感じ方について

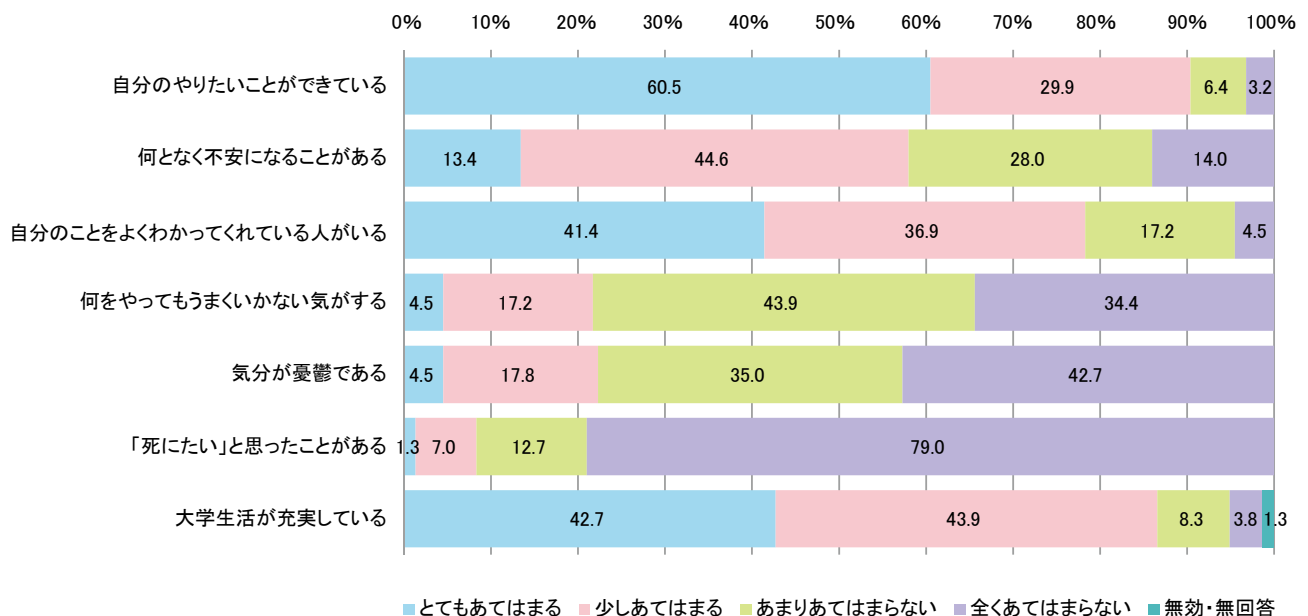
- ◎「自分のやりたいことができている」が90%を超える。
- ◎一方、「何となく不安になることがある」に該当するものも過半数いる。
- ◎「気分が憂鬱である」は約2割、「『死にたい』と思ったことがある」は約8%と高頻度で該当。

本項目では心理的健康度について、いくつかの指標で「とてもあてはまる」から「全くあてはまらない」の4件法で尋ねた。「自分のやりたいことができている」「大学生活が充実している」「自分のことをよくわかってきている人がいる」の3項目はどれも約7～9割がYES群（注参照）に該当しており、心理的健康度の高さがうかがえた。特に、「自分のやりたいことができている」「大学生活が充実している」に「とてもあてはまる」と回答した学生はそれぞれ60%、40%を超え、筑波地区の大学院生の約36%、27%と比べると、より充実した学生生活を送っていることがわかる。より主体的な選択として学業に臨んでいる社会人大学院の特徴と言えるだろう。

一方、「何となく不安になることがある」という項目にも58.0%がYES群として回答している。「気分が憂鬱である」は約2割、また、「『死にたい』と思ったことがある」という希死念慮にYES群として該当するものは8.3%であった。適切な支援を実施する必要がある。

注) 把握しやすいよう、YESは「とてもあてはまる」「少しあてはまる」を合算し、NOは「あてはまらない」「全くあてはまらない」を合算した。

図 4.1 過去1年間の精神的な健康状態【全体 (%)】



第5章 相談相手・情報の得方について

問 20-1. 主な相談相手について

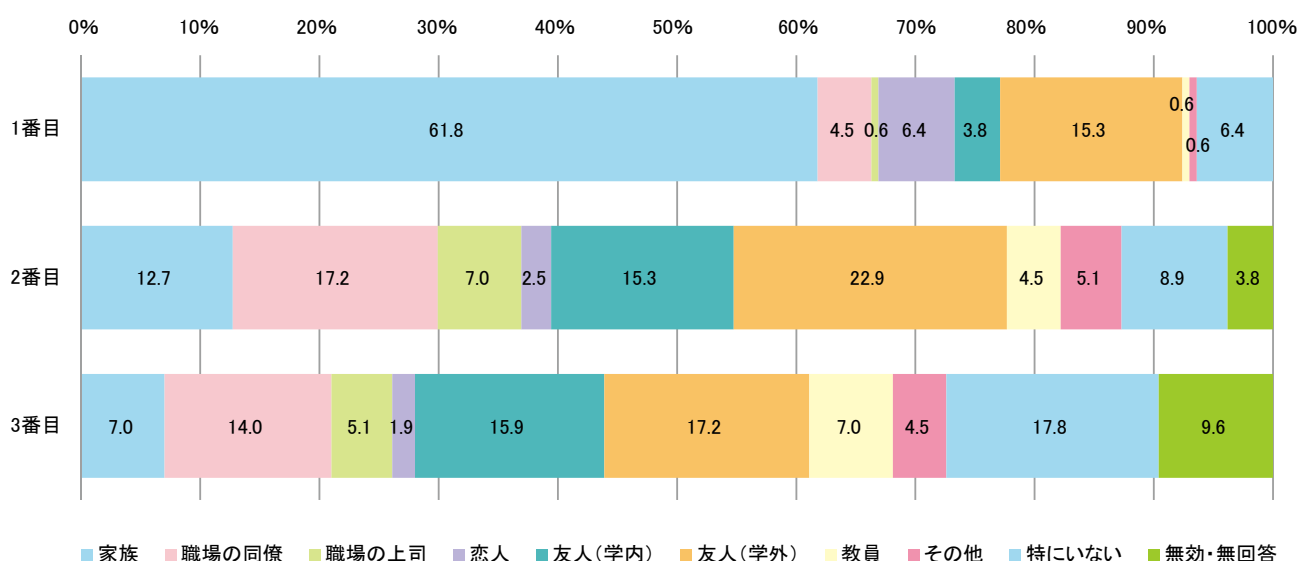
- ◎相談相手として最も選ばれやすいのは家族で、6割を越える。
- ◎2番目以降の相談相手は様々である。
- ◎相談相手が「特にない」や無効・無回答も多い。

重要なことを話したり、悩みを相談する人として、該当する上位3番目までを選択させた。1番目に最も多いのは「家族」61.8%で、前回調査よりも12.5ポイント高い。次いで多いのは「友人(学外)」15.3%で、社会人大学院生が多く、年齢層も高い東京地区の特徴を表していると考えられる。

また、「特にない」の回答は、1番目の相談相手において6.4%である。2番目、3番目でもこの割合は増え、3番目の相談相手では17.8%に至っており、無効・無回答も含めると、3番目の相談相手がいないと想定される割合は27.4%にもおよぶ。

以上のことから、東京地区の大学院生の特徴は、主な相談相手としては家族がいるが、それ以外を相談相手とすることは少なく、また、1番目の相談相手として「友人(学内)」や「教員」を選ぶ割合も少ないことだと言える。このことから、学内における相談の機会は少ないことが推測される。

図 5.1 相談相手【全体 (%)】



問 20-2. 相談相手と話す機会について

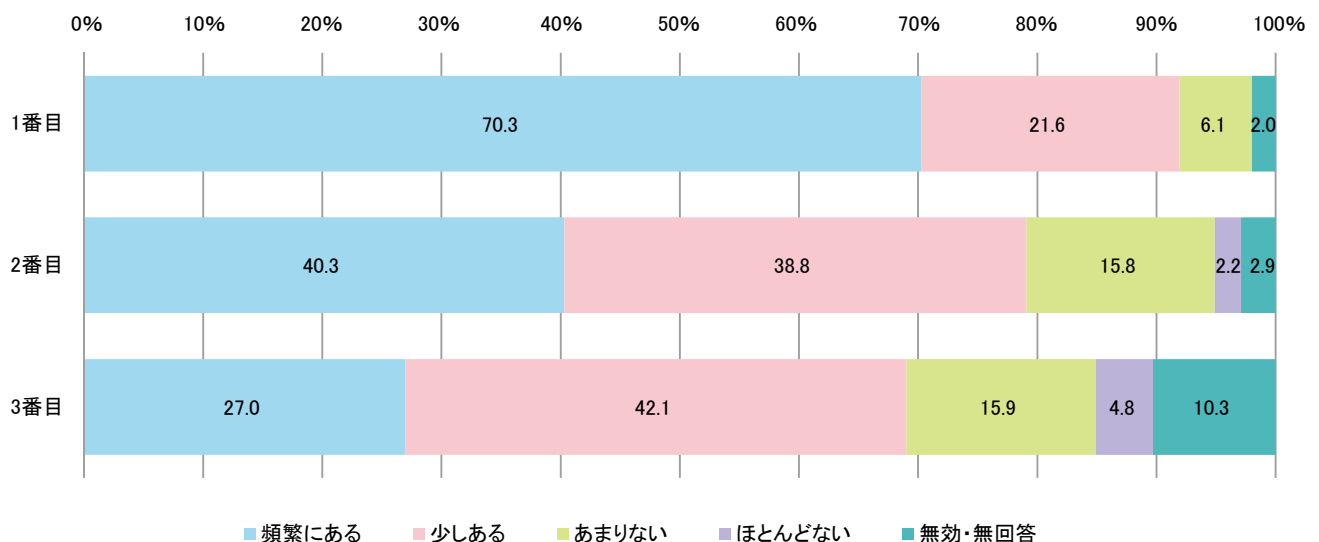
- ◎相談相手として1番目に選択した人に話す機会が多い。
- ◎東京地区の大学院生は、筑波地区の大学院生と比較して、相談相手と話す機会が多い。

重要なことを話したり、悩みを相談する相手として選択した上位3番目までのそれぞれの人に対してどのくらい話をする機会があるかを尋ねた。全体では、91.9%の学生が1番目に選択した相談相手と話す機会が「頻繁にある」「少しある」と回答し、3番目に選択した相談相手とも「頻繁にある」「少しある」と回答した学生が69.1%であった。これは筑波地区の大学院生と比較して高い割合である。問20-1において最も相談相手として選ばれているのが「家族」であるという結果を踏まえると、既に家庭を持っている者や自宅通学者が多く、家庭での相談を行いやすい状況にあると考えられる。

2番目、3番目の相談相手に対しても、「ほとんどない」および無効・無回答を足した割合が5.1%、15.1%と、筑波地区の大学院生の割合と比較すると低く、東京地区の大学院生は全体的に相談できる機会を得ることができていると言える。

とはいえ、相談する相手や機会が少ない大学院生も存在している。問20-1で指摘したように、特に学内において相談できる機会や頻度が少ないと考えられるため、その点については一層の配慮が必要であろう。

図 5.2 相談相手と話す機会【全体 (%)】



問 21. 情報の得方について

- ◎東京地区の大学院生の主な情報取得源は「友人等」「指導教員」「TWINS 掲示板」。
- ◎大学の各 HP や Web 掲示板の利用率は前回調査と同等である。

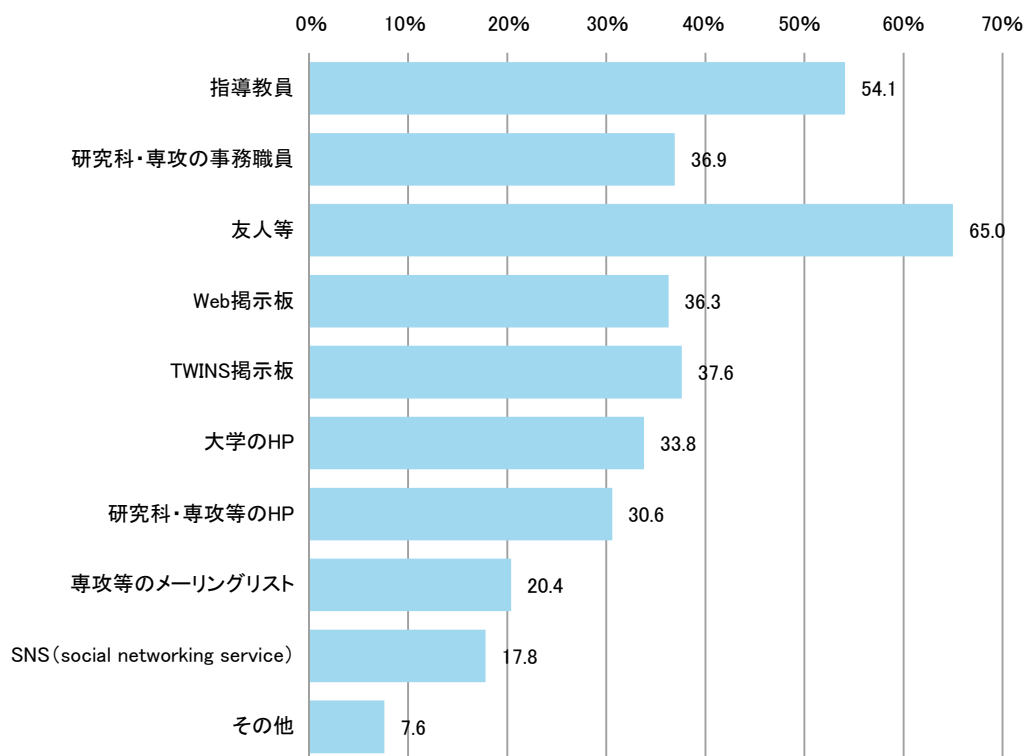
学生生活に関わる情報を得ようとするとき、どういった情報源にアクセスするかを複数回答で尋ねた。全体で見ると、選択の多い順に「友人等」「指導教員」「TWINS 掲示板」で、前回調査では「友人等」「研究科・専攻の HP」「指導教員」であった。特に指導教員の重要性は、東京地区においても、筑波地区の大学院生と同様であると考えられる。

前回調査と比較して「TWINS 掲示板」の選択率が 14.2% から 37.6% と上昇しており、このことも筑波地区の大学院生と同様である。

今回の結果では、「Web 掲示板」「TWINS 掲示板」「大学の HP」「研究科・専攻等の HP」がほとんど同等に利用されている。これらは、いずれも Web でアクセスする情報源であり、筑波地区の大学院生や学群生と同様に「Web 掲示板」への本格的な移行に伴って、学生が参照する掲示板が軒並み Web に移行していることが読み取れる。東京地区の大学院生においても、Web 掲示板の利便性向上を図り、情報源ツールとしての役割をより一層強化することの重要性が示唆されたと言える。

前回調査では 3.0% であった「SNS (social networking service)」が 17.8% まで上昇していることも、筑波地区の大学院生や学群生と同様に大きな変化と言える。増加率は学群生には及ばないものの、社会人大学院生が多い東京地区におけるこの結果は、社会全体が情報源として SNS を活用していることが示唆される。

図 5.3 情報取得源【全体 (%)】



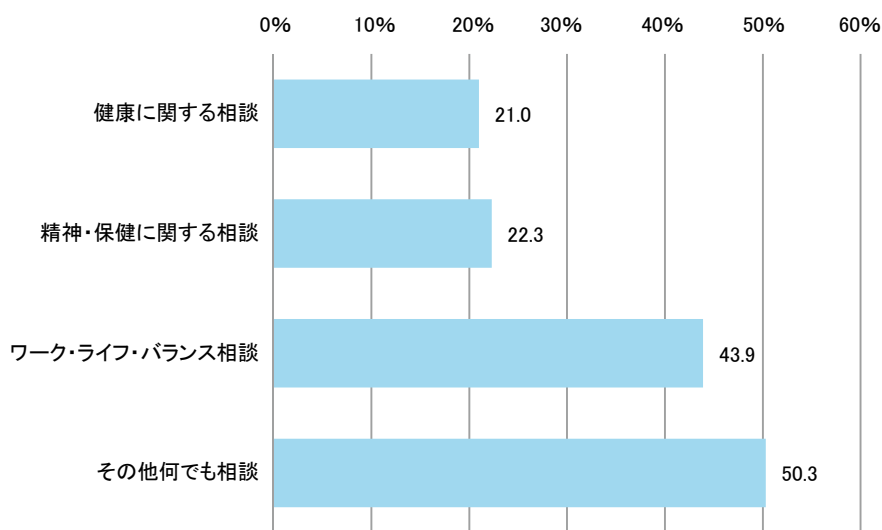
問 22. 相談機関について

- ◎「その他何でも相談」の必要性が最も高い。
- ◎前回調査と同様に「ワーク・ライフ・バランス相談」の必要性も高い。

学内に必要だと思う相談機関について尋ねた。前回調査では「ワーク・ライフ・バランス相談」を必要とする回答が38.1%と最も高かったが、今回の調査では「その他何でも相談」を必要とする回答が50.3%と最も高かった。何か特定の問題についての相談よりも、より気軽に様々なことを相談に行ける、筑波地区の「総合相談窓口」のような機関が求められていると考えられる。2人に1人の学生がその必要性を求めていることや、問20-1から問21の結果からも、東京地区においても気軽に利用できる学内の相談機関の必要性は高いと言える。

また、前回調査と同様に必要性が高かったのは、「ワーク・ライフ・バランス相談」であった。学生かつ在職者である社会人大学院生が多い東京地区では、研究と仕事のバランスに関して悩む声が多いのは不思議ではないが、前回調査よりも必要性の割合が増加していることから、解決されていない課題が存在していることは明確である。今後の支援の方向性のひとつとして受け止めることが必要であろう。

図 5.4 相談機関の必要性【全体 (%)】



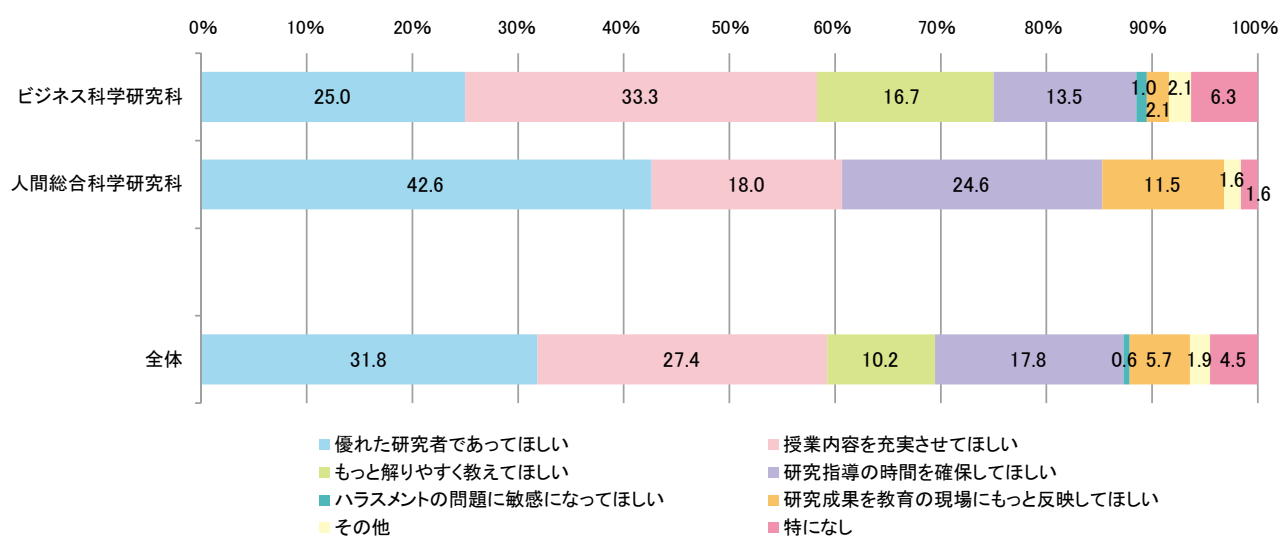
第6章 本学への期待や要望等について

問23. 教員に最も期待することについて

◎多くの学生は、教員に対して「優れた研究者であってほしい」「授業内容を充実させてほしい」と望んでいる。

教員に最も期待することについて、前回調査と同じ形式で尋ねた。選択の上位は「優れた研究者であってほしい」「授業内容を充実させてほしい」で、前回調査と変化はなかった。前回調査と比較すると、「優れた研究者であってほしい」は20.9%から31.8%、「研究指導の時間を確保してほしい」は11.2%から17.8%と顕著に増加し、一方、「授業内容を充実させてほしい」は32.8%から27.4%、「もっと解りやすく教えてほしい」は13.4%から10.2%とやや減少している。

図6.1 教員に期待すること【全体 (%)】



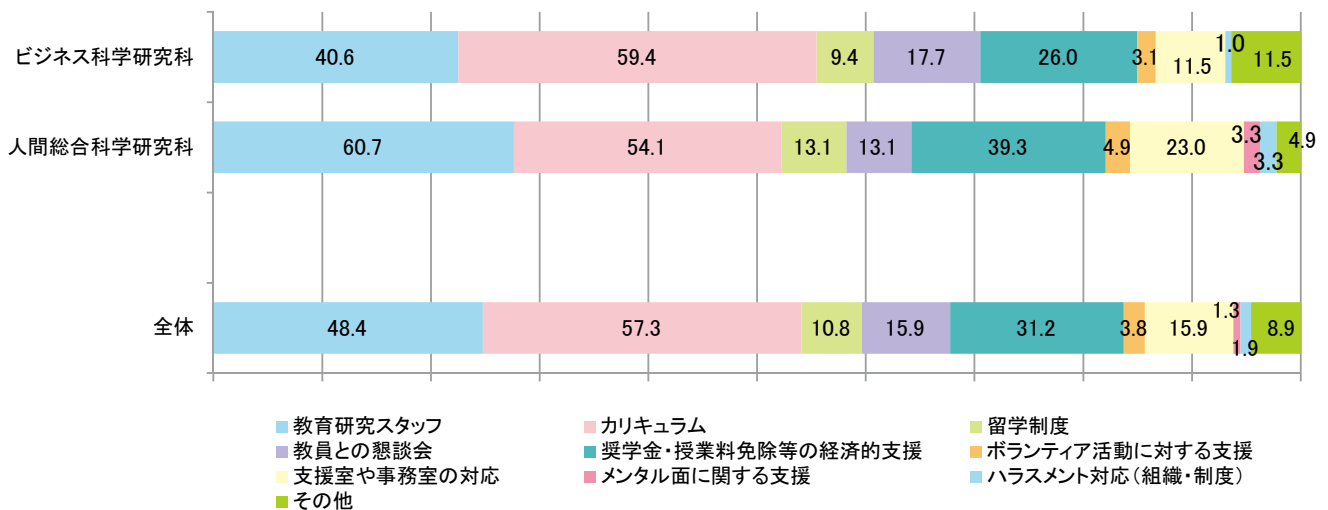
問 24. 教育面や制度面で充実してほしい点について

◎ 「カリキュラム」「教育研究スタッフ」「奨学金・授業料免除等の経済的支援」が上位。

教育面や制度面で充実してほしい点について、前回調査と同じ内容で、選択数を制限せずに尋ねた。選択上位は「カリキュラム」「教育研究スタッフ」「奨学金・授業料免除等の経済的支援」の順で、前回調査と変化はなかったが、「カリキュラム」は65.7%から57.3%、「奨学金・授業料免除等の経済的支援」は35.1%から31.2%に減少しているのに対して、「教育研究スタッフ」は36.6%から48.4%と大きく増加している。選択数を制限しないことで、選択する割合が全体的にやや増加する程度と予想していたが、「教育研究スタッフ」の増加の割合は大きく、実際に充実を求める声は大きいと考えられる。

「その他」の記述には、図書館の充実を求める声とともに、社会人向けであることを意識した制度（長期履修制度、授業開始時間）の拡充を求める声があった。

図 6.2 教育面や制度面で充実してほしい点【研究科別、全体 (%)】

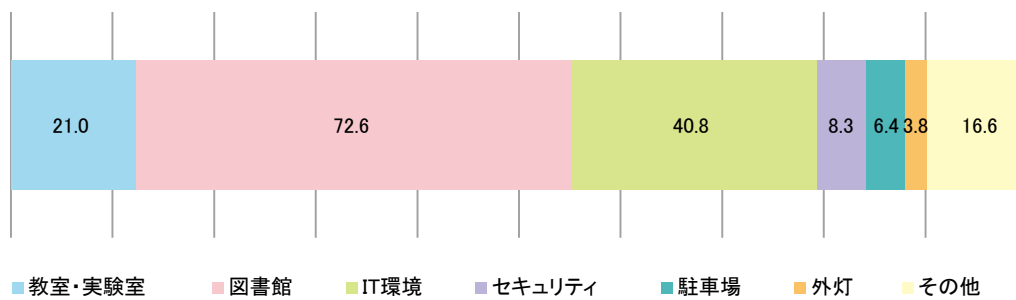


問 25. 整備・充実してほしい施設等について

◎選択上位は「図書館」、「IT 環境」、「教室・実験室」。

整備・充実してほしい施設等について、前回調査と同じ項目を、選択数を制限せずに尋ねた。前回調査では3つまでの選択としたが、要望の上位にある項目に変化はなかった。前回調査と直接比較はできないが、「図書館」の充実を求める声は54.5%から72.6%と大きく増加しており、一方、「教室・実験室」の充実を求める声は30.6%から21.0%に減少した。「その他」の記述には、食堂・カフェの充実や、弁当などの食料の販売を求める声があった。

図 6.3 整備・充実してほしい施設等【全体 (%)】

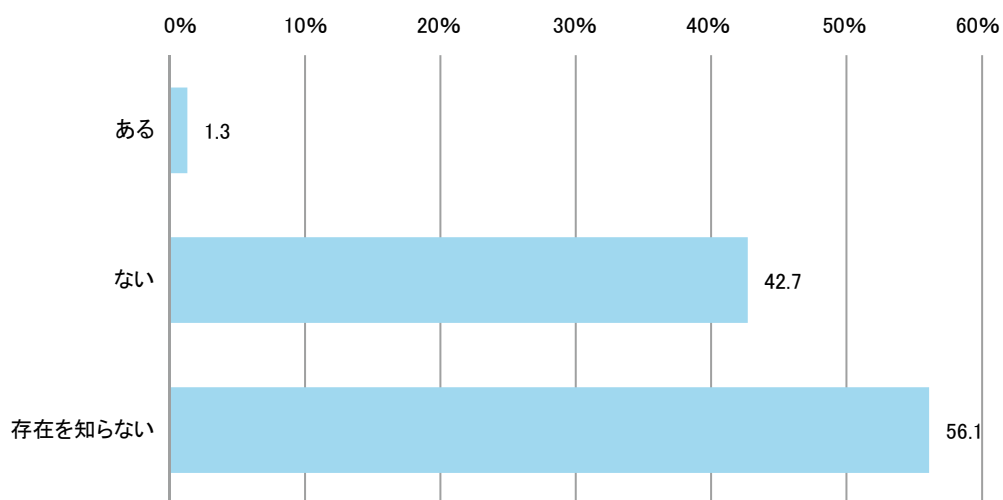


問 26. 学外研修施設の利用について

◎利用者はわずかで、半数以上は存在を知らない。

本学の山中・館山の学外研修施設を利用した経験がある学生はほんの一部で、半数以上は存在すら知らないという結果であった。

図 6.4 学外研修施設の利用率【全体 (%)】



問 27. 筑波大学への要望や提言等について

筑波大学への要望や提言等について、A. 制度等に対する要望、B. 教職員に対する要望、C. 施設に対する要望、D. その他の4つの大項目に分けて尋ねた。自由記述には90名から意見があり、以下はそれぞれの項目にあげられた意見等の概要である。

A. 制度等に対する要望

A1. カリキュラム (21件)

長期履修制度(前期課程を3-4年、後期課程を6年に)、春学期と秋学期の授業科目のバランス、1年目から研究指導・ゼミ指導を行ってほしいなどの意見があった。

A2. 経済支援 (7件)

奨学金制度の拡充や学会参加費の支援などを求める意見があった。

A3. その他 (8件)

平日の授業開始時間を遅くする要望が4件あり、社会人学生に対する時間的な配慮の必要性がうかがえる。また、新しい領域を学ぶ学生に対する相談制度の設置を求める意見や、研究遂行に必要な研究費(調査費用など)の事前通知がほしいという意見もあった。

B. 教職員に対する要望

B1. 教員に対して (17件)

教員が多忙なせいか、研究指導の充実を望む意見が多かった。中には、学生をほったらかしにしているという指摘もあった。また、講師の英語力不足の指摘やネイティブスピーカーの増員を求める意見もあった。

B2. 事務職員に対して (8件)

職員の対応時間の延長を求める意見があった。また、職員の学生対応時の態度が悪いことを指摘する意見や、学生に講義資料のコピーなどの授業の準備を行わせる制度(授業係)に関する指摘があった。

C. 施設に対する要望

C1. 研究環境 (6件)

学生用の勉強スペースや机の設置を求める意見が3件あった。

C2. IT (6件)

Wi-Fi環境の改善を求める意見が3件あり、他に、ログインシステムの統一、新しいPCソフトの導入を求める意見もあった。

C3. 図書館 (31件)

蔵書の充実が15件と多く、次いで開館時間の延長の要望が5件あった。他に、自習スペースの拡充を求める意見や、一般の人の利用制限を求める意見があった。

C4. 売店 (16件)

全て軽食を提供する売店やカフェテリアの設置を求める意見であった。

C5. その他 (8件)

院生室の使い勝手、コピー設備の充実などを求める意見があった。

D. その他 (2件)

筑波大学の知名度とブランド価値を上げる努力を求める意見と、学生生活は快適で満足しているという意見があった。

【資料】

平成 29 年度筑波大学 学生生活実態調査（大学院 東京地区）データ集計表＜全体＞

I. あなた自身について

1. 社会人の経験

	回答数	回答率
1 社会人の経験がある	157	100.0%
2 社会人の経験はない	0	0.0%
合計	157	

1-1. 在職状況

	回答数	回答率
1 在職中	138	87.9%
2 休職中	4	2.5%
3 退・辞職し、現在、定職はない	13	8.3%
4 定職はなかった	0	0.0%
5 その他	1	0.6%
無効・無回答	1	0.6%
合計	157	

1-1-1. 職場の理解（複数選択）

	回答数	回答率
1 学費の負担も含め、全面的に得られている	12	8.5%
2 就学に支障のない程度に得られている	88	62.0%
3 職場の休職制度を利用	1	0.7%
4 職場の派遣制度を利用	0	0.0%
5 職場のその他の制度を利用	7	4.9%
6 職場には秘密にしている	15	10.6%
7 その他	21	14.8%
無効・無回答	2	1.4%
合計	146	

2. 志望理由（複数選択）

	回答数	回答率
1 研究領域に魅力がある	92	58.6%
2 教育内容が優れている	65	41.4%
3 希望する分野がある	105	66.9%
4 指導教員の資質・能力、指導体制が優れている	81	51.6%
5 研究室の雰囲気に魅力がある	15	9.6%
6 教育・研究施設が優れている	32	20.4%
7 幅広い専門が学べる	42	26.8%
8 学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している	23	14.6%
9 修了後の進路など就職に有利である	5	3.2%
10 修了年限の弾力的な運用がある	16	10.2%
11 親や指導教員などから勧められた	8	5.1%
12 自宅から通える	83	52.9%
13 資格などが取りやすい	5	3.2%
14 その他	12	7.6%
合計	584	

3. 入学前の在籍大学・大学院

	回答数	回答率
1 筑波大学・大学院	17	10.8%
2 日本国内の他大学・大学院	128	81.5%
3 日本国外の大学・大学院	12	7.6%
合計	157	

4. 現在の住まい

	回答数	回答率
1 自宅	83	52.9%
2 賃貸のアパート・マンションなど	67	42.7%
3 親と同居	6	3.8%
4 親戚・知人宅	1	0.6%
5 その他	0	0.0%
合計	157	

5. 現在の居住地

	回答数	回答率
1 東京都 23 区内	91	58.0%
2 東京都 23 区外	15	9.6%
3 千葉県	19	12.1%
4 埼玉県	13	8.3%
5 神奈川県	16	10.2%
6 その他	3	1.9%
合計	157	

Ⅱ. 生活全般について

6. 家計支持者

	回答数	回答率
1 あなた自身	124	79.0%
2 配偶者	27	17.2%
3 父親・母親	3	1.9%
4 両親以外の親族	0	0.0%
5 その他	3	1.9%
合計	157	

7. 希望する経済支援（複数選択）

	回答数	回答率
1 給付型（返還義務なし）奨学金	71	45.2%
2 貸与型（返還義務あり）奨学金	8	5.1%
3 授業料免除	70	44.6%
4 一時貸付金	9	5.7%
5 その他	8	5.1%
6 特に希望しない	46	29.3%
合計	212	

7-1. 一時貸付金の必要理由（複数選択）

	回答数	回答率
1 授業料のため	9	100.0%
2 生活費のため	3	33.3%
3 その他	0	0.0%
無効・無回答	0	0.0%
合計	12	

8. 収入源（複数選択）

	回答数	回答率
1 有職者としての給与	137	87.3%
2 奨学金	2	1.3%
3 仕送り	1	0.6%
4 他大学での非常勤講師	1	0.6%
5 民間会社の契約社員や派遣社員	3	1.9%
6 不規則なアルバイト	11	7.0%
7 借入金	0	0.0%
8 その他	14	8.9%
合計	169	

9. 1ヶ月の生活費・研究活動費

	回答数	回答率
1 充分である	48	30.6%
2 まあまあ足りている	56	35.7%
3 ぎりぎりである	39	24.8%
4 不足している	14	8.9%
合計	157	

9-1. 生活費・研究活動費で不足しているもの（複数選択）

	回答数	回答率
1 授業料が納入できない	4	28.6%
2 研究時間確保でアルバイトができない	3	21.4%
3 研究用資料・書籍が購入できない	9	64.3%
4 IT環境を整備できない	3	21.4%
5 学会・研究会などに行けない	8	57.1%
6 研究のための調査に行けない	7	50.0%
7 研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない	3	21.4%
8 その他	0	0.0%
無効・無回答	0	0.0%
合計	37	

10. 平均的な起床・就寝時間

	平均時刻
1 起床時刻	6.6 時頃
2 就寝時刻	24.1 時頃

11. 登校時の食事

	回答数	回答率
1 通学前	37	23.6%
2 在校中	39	24.8%
3 帰宅後	77	49.0%
4 とらない	4	2.5%
合計	157	

11-1. 食事方法（複数選択）

	回答数	回答率
1 軽食を持参	33	84.6%
2 学内に設置の軽食用自販機を利用	7	17.9%
3 大学近辺の飲食店を利用	8	20.5%
4 その他	1	2.6%
無効・無回答	0	0.0%
合計	49	

12. 日常生活満足度

	回答数	回答率
1 かなり満足	19	12.1%
2 おおむね満足	101	64.3%
3 どちらともいえない	25	15.9%
4 少し不満	8	5.1%
5 かなり不満	4	2.5%
合計	157	

Ⅲ. 通学・事故等について

13. 通学手段（複数選択）

		雨天時		雨天以外	
		回答数	回答率	回答数	回答率
1	徒歩	44	28.0%	44	28.0%
2	自転車	5	3.2%	20	12.7%
3	バス	16	10.2%	12	7.6%
4	バイク（原付を含む）	2	1.3%	3	1.9%
5	自家用車	5	3.2%	5	3.2%
6	東京メトロ丸の内線	140	89.2%	137	87.3%
7	その他	15	9.6%	14	8.9%
合計		227		235	

14. 片道の通学時間（雨天以外）

		回答数	回答率
1	15分未満	12	7.6%
2	15分～30分未満	20	12.7%
3	30分～45分未満	37	23.6%
4	45分～1時間未満	42	26.8%
5	1時間～1時間半未満	33	21.0%
6	1時間半～2時間未満	10	6.4%
7	2時間以上	3	1.9%
合計		157	

15. 盗難被害の有無（複数選択）

		回答数	回答率
1	被害にあったことはない	155	98.7%
2	学内で被害にあった	2	1.3%
3	学外で被害にあった	0	0.0%
合計		157	

16. ①～④宗教団体等への参加勧誘

		ある		ない	
		回答数	回答率	回答数	回答率
1	大学院入学後、キャンパス内で勧誘を受けたことが	1	0.6%	156	99.4%
2	大学院入学後、キャンパス外で勧誘を受けたことが	3	1.9%	154	98.1%
3	大学院入学後、キャンパス内で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことが	1	0.6%	156	99.4%
4	大学院入学後、キャンパス外で他の人が勧誘を受けているのを見たり、聞いたりしたことが	2	1.3%	155	98.7%

IV. 健康状態について

17. 健康状態（過去1年間）（複数選択）

	回答数	回答率
1 健康である	110	70.1%
2 健康不良で数日寝込んだ(受診・入院を除く)	31	19.7%
3 身体の病気で受診・入院した	22	14.0%
4 精神的な問題で受診・入院した	2	1.3%
5 心理的な問題で相談機関を利用した	3	1.9%
6 けがで受診・入院した	5	3.2%
7 その他	2	1.3%
合計	175	

18. 悩みの原因（複数選択）

	回答数	回答率
1 学業と仕事の両立	103	65.6%
2 学業や研究の不振	50	31.8%
3 単位修得の問題	13	8.3%
4 転研究科・転専攻	3	1.9%
5 休学・退学	5	3.2%
6 友人との関係	7	4.5%
7 教員との関係	5	3.2%
8 研究室内の問題	3	1.9%
9 恋愛関係	6	3.8%
10 家族関係	27	17.2%
11 自分の性格	12	7.6%
12 自分の精神的・心理的状态	16	10.2%
13 自分の身体的病気・けが等の状態	11	7.0%
14 経済状態	18	11.5%
15 ハラスメント	2	1.3%
16 その他	9	5.7%
17 特にない	25	15.9%
合計	315	

19. 感じ方（過去1年間）

	とてもあてはまる		少しあてはまる		あまりあてはまらない		全くあてはまらない		無効・無回答	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 自分のやりたいことができている	95	60.5%	47	29.9%	10	6.4%	5	3.2%	0	0.0%
2 何となく不安になることがある	21	13.4%	70	44.6%	44	28.0%	22	14.0%	0	0.0%
3 自分のことをよくわかってきている人がある	65	41.4%	58	36.9%	27	17.2%	7	4.5%	0	0.0%
4 何をやってもうまくいかない気がする	7	4.5%	27	17.2%	69	43.9%	54	34.4%	0	0.0%
5 気分が憂鬱である	7	4.5%	28	17.8%	55	35.0%	67	42.7%	0	0.0%
6 「死にたい」と思ったことがある	2	1.3%	11	7.0%	20	12.7%	124	79.0%	0	0.0%
7 大学生活が充実している	67	42.7%	69	43.9%	13	8.3%	6	3.8%	2	1.3%

V. 相談相手・情報の得方について

20-1. 相談相手

	1 番目		2 番目		3 番目	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 家族	97	61.8%	20	12.7%	11	7.0%
2 職場の同僚	7	4.5%	27	17.2%	22	14.0%
3 職場の上司	1	0.6%	11	7.0%	8	5.1%
4 恋人	10	6.4%	4	2.5%	3	1.9%
5 友人 (学内)	6	3.8%	24	15.3%	25	15.9%
6 友人 (学外)	24	15.3%	36	22.9%	27	17.2%
7 教員	1	0.6%	7	4.5%	11	7.0%
8 その他	1	0.6%	8	5.1%	7	4.5%
9 特になし	10	6.4%	14	8.9%	28	17.8%
無効・無回答	0	0.0%	6	3.8%	15	9.6%
合計	157		157		157	

20-2. 相談相手と話す機会

	頻繁にある		少しある		あまりない		ほとんどない		無効・無回答	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 1 番目の人とは	104	70.3%	32	21.6%	9	6.1%	0	0.0%	3	2.0%
2 2 番目の人とは	56	40.3%	54	38.8%	22	15.8%	3	2.2%	4	2.9%
3 3 番目の人とは	34	27.0%	53	42.1%	20	15.9%	6	4.8%	13	10.3%

21. 情報取得源 (複数選択)

	回答数	回答率
1 指導教員	85	54.1%
2 研究科・専攻の事務職員	58	36.9%
3 友人等	102	65.0%
4 Web 掲示板	57	36.3%
5 TWINS 掲示板	59	37.6%
6 大学の HP	53	33.8%
7 研究科・専攻等の HP	48	30.6%
8 専攻等のメーリングリスト	32	20.4%
9 SNS (social networking service)	28	17.8%
10 その他	12	7.6%
合計	534	

22. 必要な相談機関 (複数選択)

	回答数	回答率
1 健康に関する相談	33	21.0%
2 精神・保健に関する相談	35	22.3%
3 ワーク・ライフ・バランス相談	69	43.9%
4 その他何でも相談	79	50.3%
合計	216	

VI. 本学への期待や要望等について

23. 教員に期待すること

	回答数	回答率
1 優れた研究者であってほしい	50	31.8%
2 授業内容を充実させてほしい	43	27.4%
3 もっと解りやすく教えてほしい	16	10.2%
4 研究指導の時間を確保してほしい	28	17.8%
5 ハラスメントの問題に敏感になってほしい	1	0.6%
6 研究成果を教育の現場にもっと反映してほしい	9	5.7%
7 その他	3	1.9%
8 特になし	7	4.5%
合計	157	

24. 教育面や制度面で充実してほしい点（複数選択）

	回答数	回答率
1 教育研究スタッフ	76	48.4%
2 カリキュラム	90	57.3%
3 留学制度	17	10.8%
4 教員との懇談会	25	15.9%
5 奨学金・授業料免除等の経済的支援	49	31.2%
6 ボランティア活動に対する支援	6	3.8%
7 支援室や事務室の対応	25	15.9%
8 メンタル面に関する支援	2	1.3%
9 ハラスメント対応（組織・制度）	3	1.9%
10 その他	14	8.9%
合計	307	

25. 整備・充実してほしい施設等（複数選択）

	回答数	回答率
1 教室・実験室	33	21.0%
2 図書館	114	72.6%
3 IT 環境	64	40.8%
4 セキュリティ	13	8.3%
5 駐車場	10	6.4%
6 外灯	6	3.8%
7 その他	26	16.6%
合計	266	

26. 学外研修施設利用の有無

	回答数	回答率
1 ある	2	1.3%
2 ない	67	42.7%
3 存在を知らない	88	56.1%
合計	157	

平成 29 年度学生生活実態調査【大学院（筑波地区・東京地区）】

平成 30 年 3 月発行

編集 学生生活支援室
表紙デザイン：田中佐代子（芸術系 教授）

発行 筑波大学
つくば市天王台 1-1-1
☎ 029-853-2298、2224

University of Tsukuba

